資料３
大学入試のあり方に関する検討会議（第17回）R2.11.16

大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査の結果

（概要　速報版　②選抜区分別調査）

１　目的
　各大学が実施する令和２年度大学入学者選抜について、選抜区分ごとに英語４技能の評価及び記述式出題の実施状況を含む入試方法の詳細を把握する。

２　実施時期および方法
　令和２年７月14日～令和２年９月14日　eメールによる調査票の発送及び回答票回収（遅れて回答のあった大学も含め、令和２年９月30日までの回収分を集計）

３　対象
　本調査は、全ての大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学の計771大学）を対象としている。
　回収数は699大学（2,222学部、46,007選抜区分）（回収率：90.7％）。

※　掲載データについては精査中のものを含んでいる。

主な調査項目

1．学部別調査　　前回資料

2．センター試験の利用の実態 …… 3

3．個別選抜の実態 …… 17

4．英語資格・検定試験の活用の実態 …… 60　　今回資料

5．記述式問題等の出題の実態

6．入学者の多様性を確保するための取組の実態

7．自由記述欄

【参考】令和２年度大学入学者選抜実施要項（抄）　※下線は事務局にて付記

第３　入試方法

１　入学者の選抜は，調査書の内容，学力検査，小論文，面接，集団討論，プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査，活動報告書，大学入学希望理由書及び学修計画書，資格・検定試験等の成績，その他大学が適当と認める資料により，入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法（以下「一般入試」という。）による。

２　一般入試のほか，各大学の判断により，入学定員の一部について，以下のような多様な入試方法を工夫することが望ましい。

(1)　アドミッション・オフィス入試

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって，入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲，目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。

この方法による場合は，以下の点に留意する。

①　入学志願者自らの意志で出願できる公募制とする。

②　アドミッション・オフィス入試の趣旨に鑑み，知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準とせず，合否判定に当たっては，入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。

③　大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため，以下のア～エのうち少なくとも一つを行い，その旨を募集要項に記述する。

ア　各大学が実施する検査（筆記，実技，口頭試問等）による検査の成績を合否判定に用いる。

イ　大学入試センター試験の成績を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。

ウ　資格・検定試験等の成績等を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。

エ　高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。

④　③ア～ウを行う場合にあっては，③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。

(2)　推薦入試

出身高等学校長の推薦に基づき，原則として学力検査を免除し，調査書を主な資料として評価・判定する入試方法。

この方法による場合は，以下の点に留意する。

①　高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い，その旨を募集要項に記述する。

②　推薦書・調査書だけでは入学志願者の能力・意欲・適性等の評価・判定が困難な場合には，上記(1)③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。

主な調査項目（共通項目）

共通項目

・入試方法 4
・AO入試・推薦入試の試験回数 6
・推薦入試の種類 9
・私立大学における推薦入試の併願可否 11
・全学部又は複数学部での共通入試の実施 12
・出願期間の初日・最終日 13
・個別選抜日程 14
・合格発表日 15
・電子出願の可否 16

２．センター試験の利用の実態

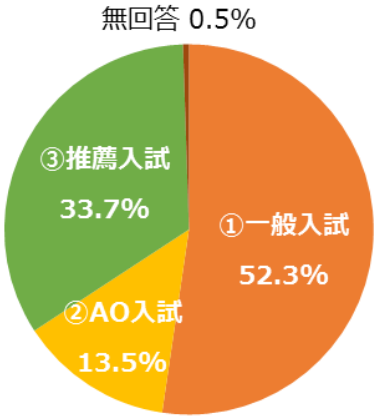
３．個別選抜の実態

４．英語資格・検定試験の活用の実態

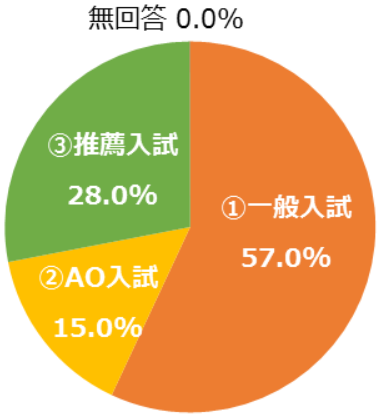
入試方法①（国公私・選抜区分数別）

入試方法を選抜区分数別でみると、一般入試52.3%、AO入試13.5%、推薦入試33.7%である。

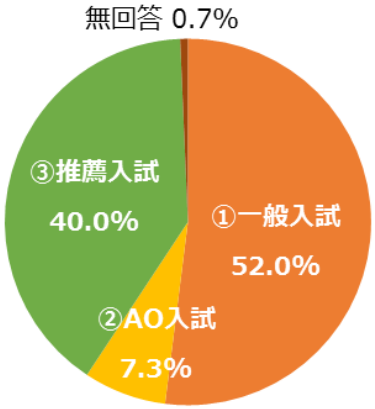
全　体（n=46,007選抜区分・単数回答）



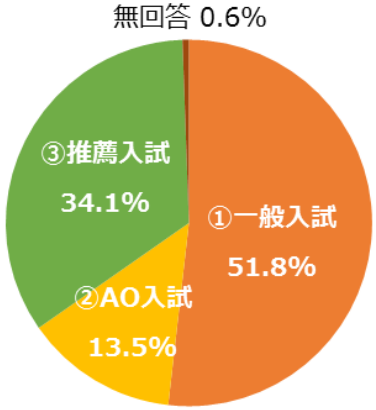
国立大学（n=4,603選抜区分・単数回答）



公立大学（n=1,329選抜区分・単数回答）



私立大学（n=40,075選抜区分・単数回答）



※ 本調査では、一般入試、AO入試及び推薦入試以外の入試方法は調査対象外としている。

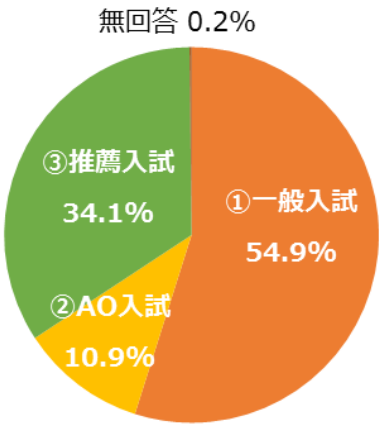
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

入試方法②（国公私・入学者数別）

入試方法を入学者数（延べ人数）別でみると、一般入試54.9%、AO入試10.9%、推薦入試34.1%である。

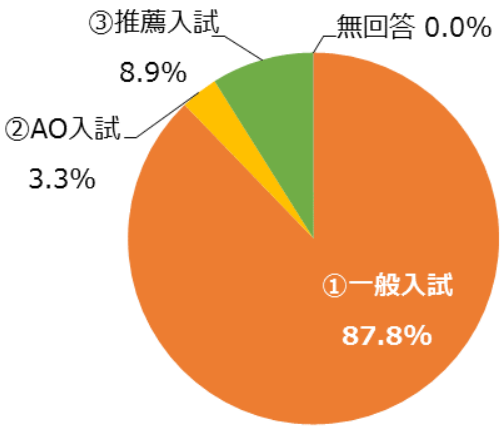
全　体

（n=582,427人・単数回答）



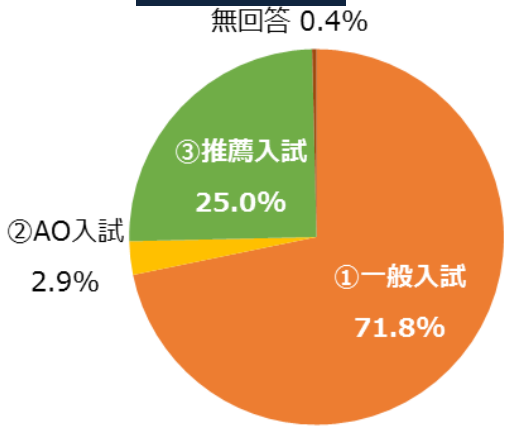
国立大学

（n=124,939人・単数回答）



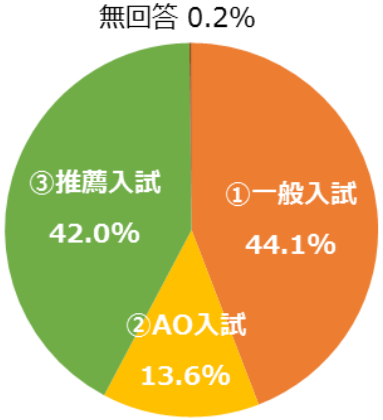
公立大学

（n=29,296人・単数回答）



私立大学

（n=428,192人・単数回答）



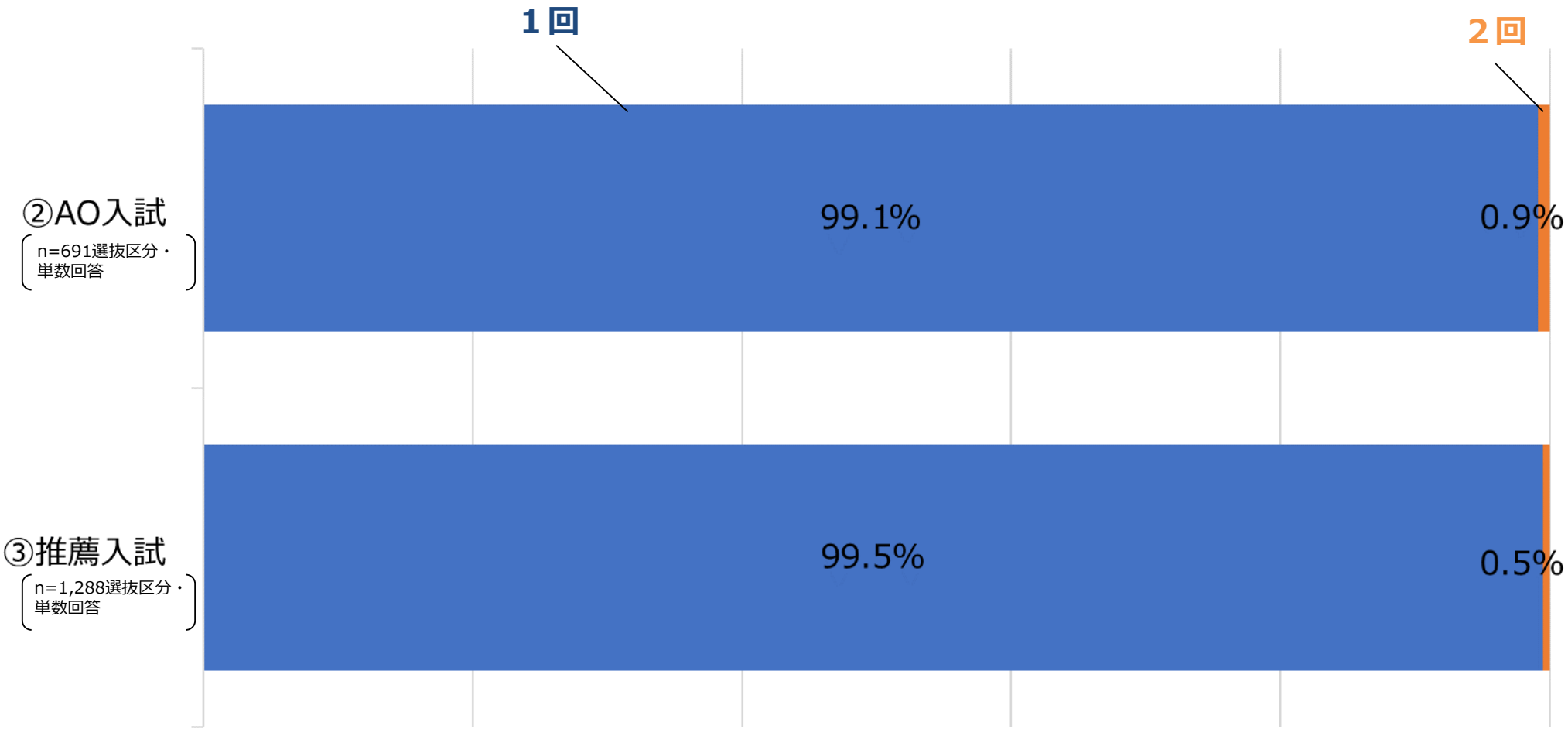
※ 本調査では、一般入試、AO入試及び推薦入試以外の入試方法は調査対象外としている。

※ 本調査では、学部・学科を選択した上で選抜区分ごとに入学者数を回答するため、複数の学部・学科にまたがって実施される選抜区分の場合は、入学者数が重複して回答される。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

AO入試・推薦入試の試験回数①（国立大学）

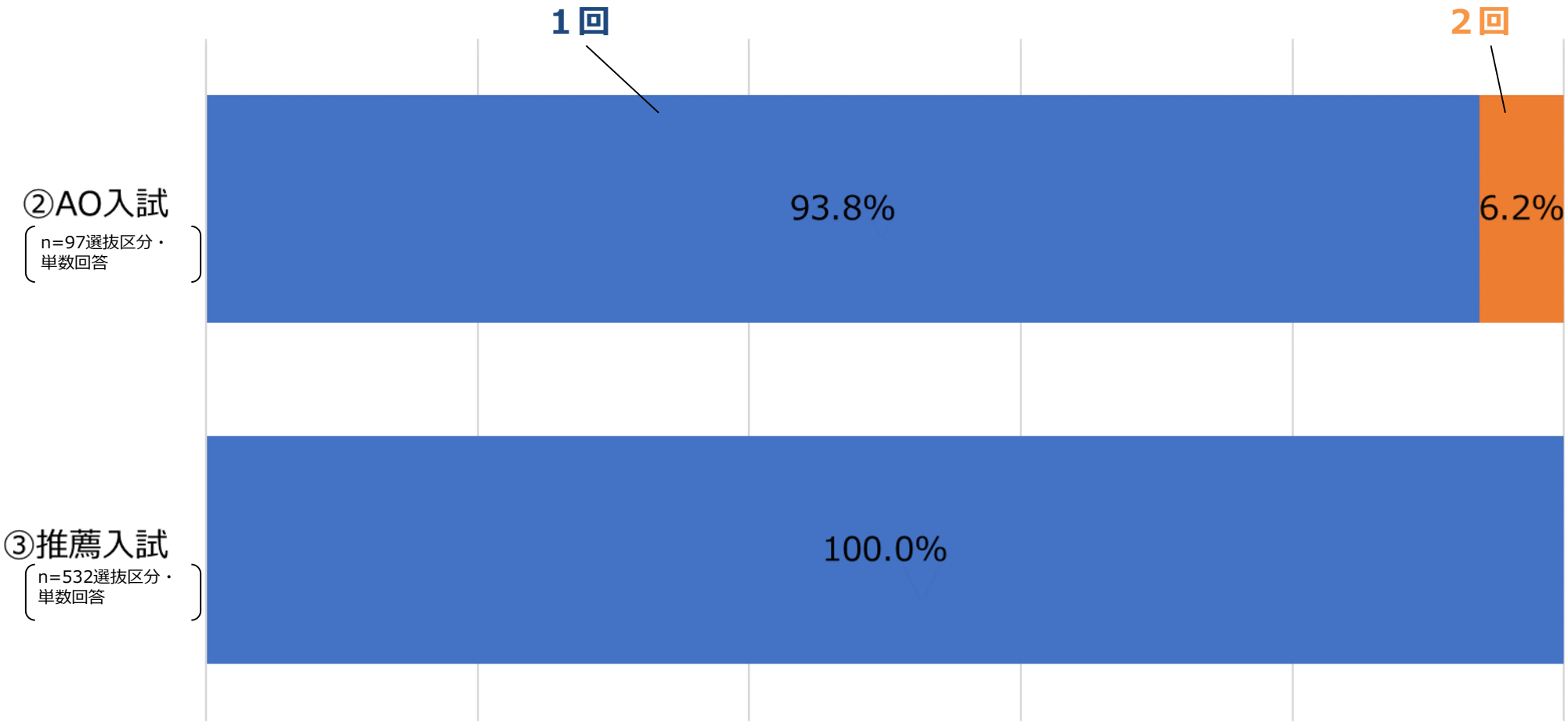
国立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、
AO入試は1回が99.1%、2回が0.9%
推薦入試は1回が99.5%、2回が0.5%である。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

AO入試・推薦入試の試験回数②（公立大学）

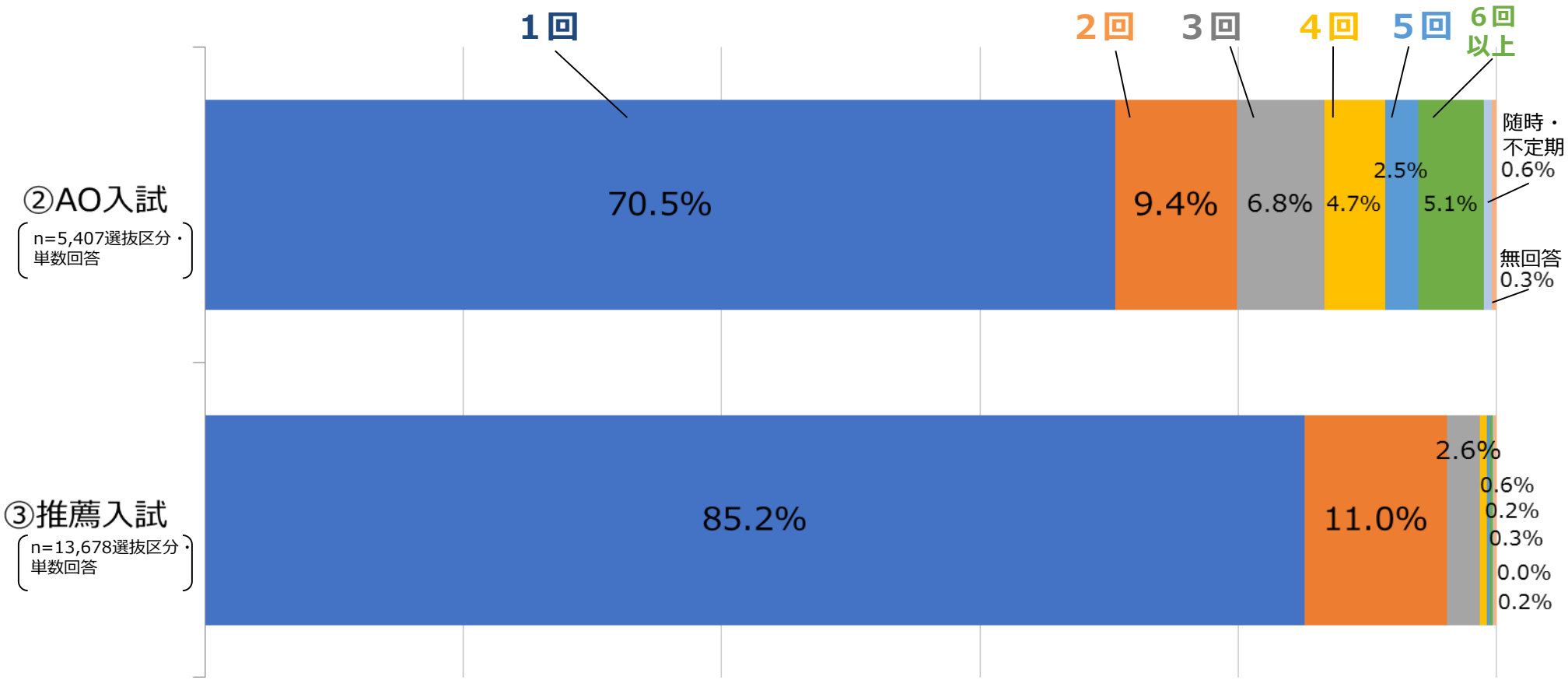
公立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、
AO入試は1回が93.8%、2回が6.2%
推薦入試はすべて1回である。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

AO入試・推薦入試の試験回数③（私立大学）

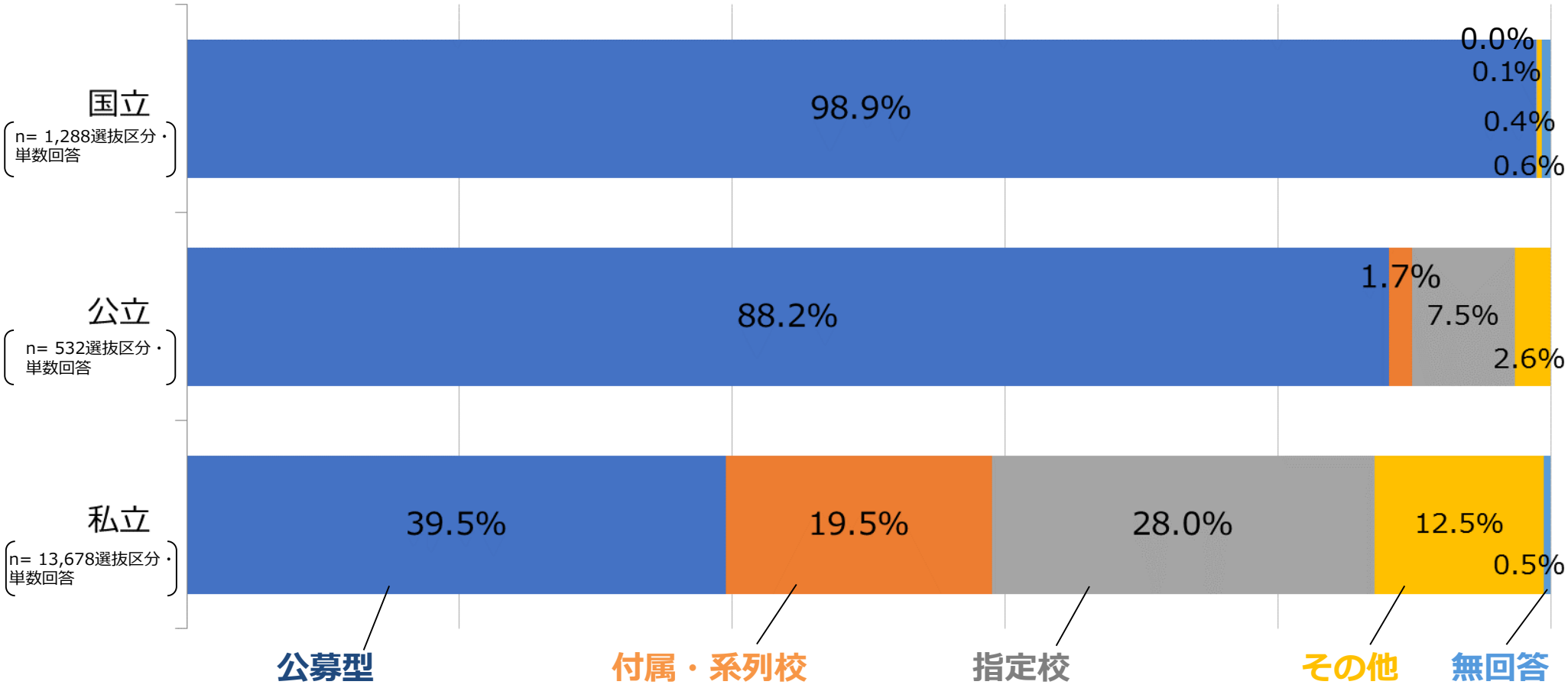
私立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、
AO入試は1回が70.5%、2回が9.4%
推薦入試は1回が85.2%、2回が11.0%である。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

推薦入試の種類①（国公私立・選抜区分数別）

推薦入試の種類を選抜区分数別でみると、公募型が国立では98.9%、公立では88.2%、私立では39.5%である。

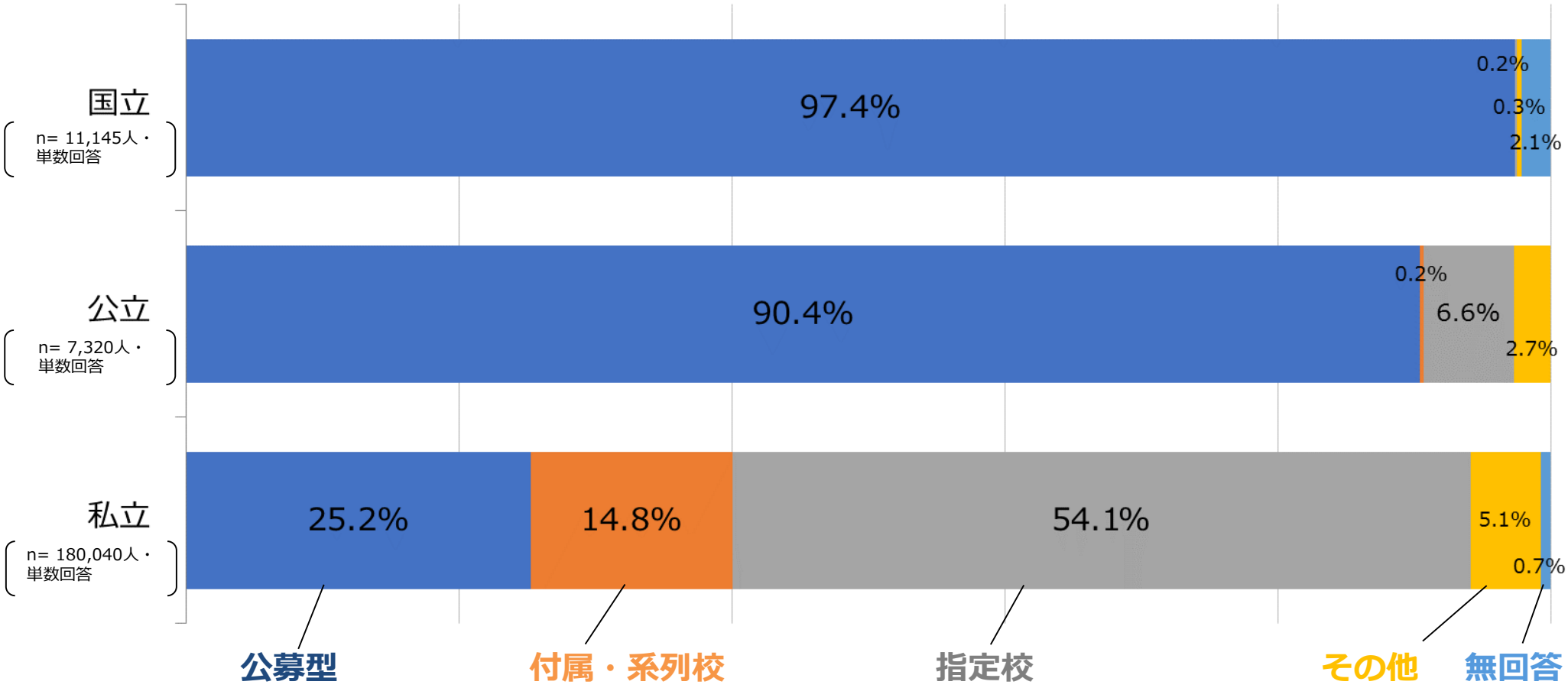


公募型	：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる推薦入試
付属・系列校	：大学の付属高校・系列高校の生徒のみが出願できる推薦入試
指定校	：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる推薦入試（付属・系列校を除く）
その他	：上記以外の推薦入試（地域枠推薦、スポーツ推薦　など）

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

推薦入試の種類②（国公私立・入学者数別）

推薦入試の種類を入学者数別でみると、公募型が国立では97.4%、公立では90.4%、私立では25.2%である。

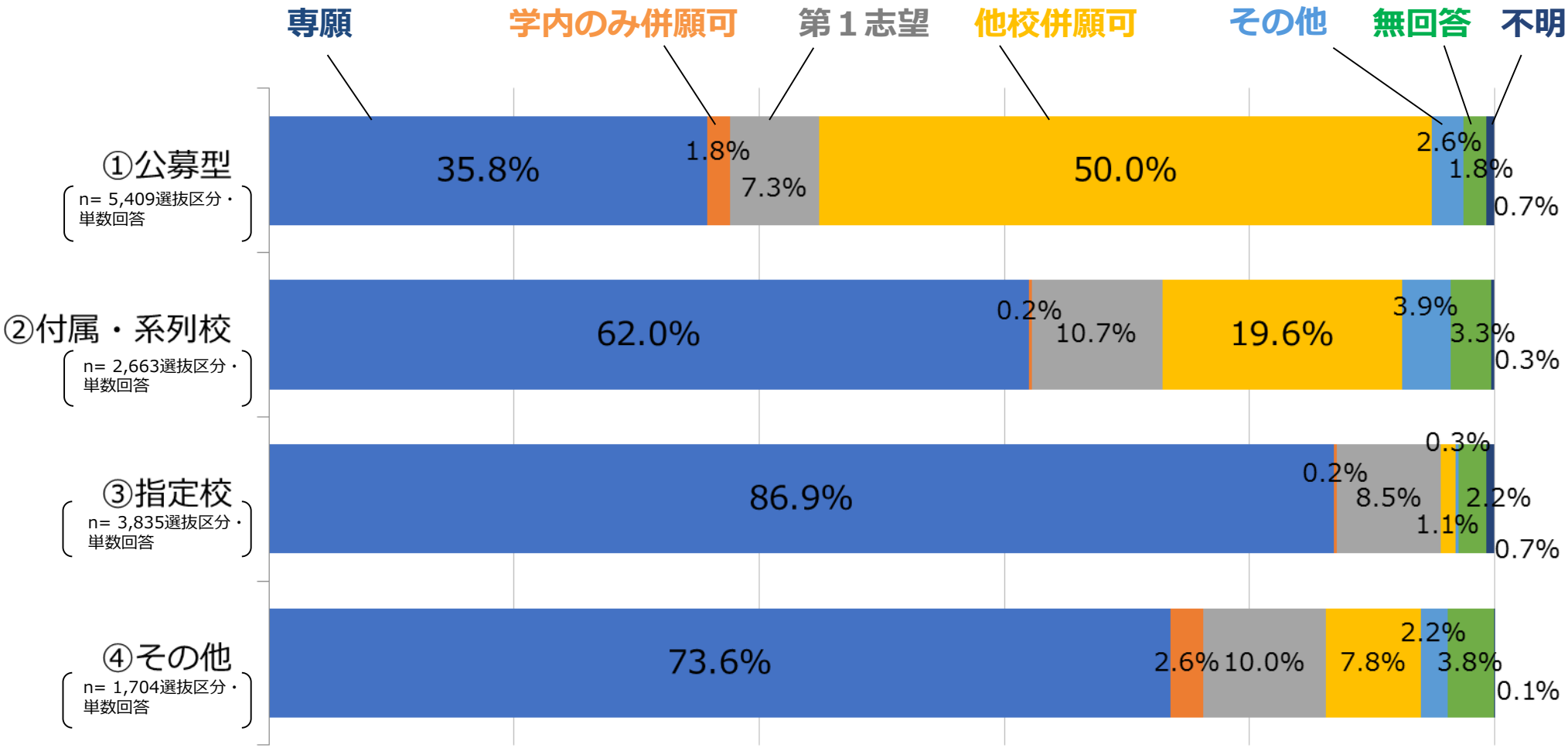


公募型	：大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる推薦入試
付属・系列校	：大学の付属高校・系列高校の生徒のみが出願できる推薦入試
指定校	：大学が指定した学校の生徒のみが出願できる推薦入試（付属・系列校を除く）
その他	：上記以外の推薦入試（地域枠推薦、スポーツ推薦　など）

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

私立大学における推薦入試の併願可否

私立大学において、公募型は50.0%が他校併願可である一方、指定校は86.9%が専願である。



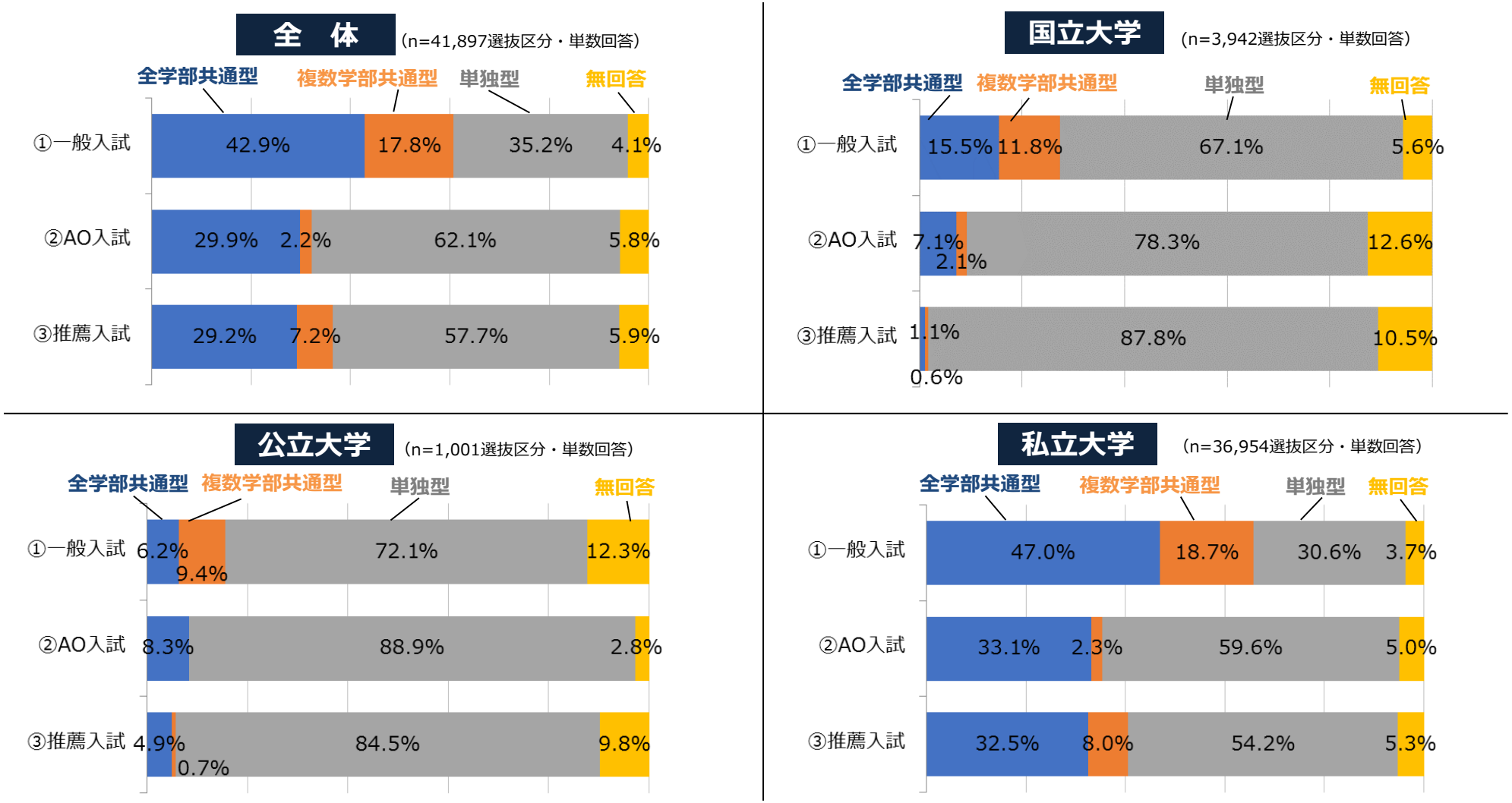
専願	：原則として当該区分のみの出願しか認めていない
学内のみ併願可	：学内・学部内・学科内等の間であれば併願可
第１志望	：当該学部・学科等を第１志望とすることを出願資格としている
他校併願可	：他大学との併願を認めている
その他	：上記以外（（試験日が異なるなどの）条件を満たせば併願可能　など）

※ 推薦入試の方法について67選抜区分について、無回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

全学部又は複数学部での共通入試の実施

- 一般入試において、全学部で共通の試験問題を用いて合同で試験を実施し、それぞれの学部で合否判定を行う形式の選抜をしているのは42.9%である。
- また、複数の学部（全学部を除く。）で、同じく共通の入試を実施しているのは17.8%である。



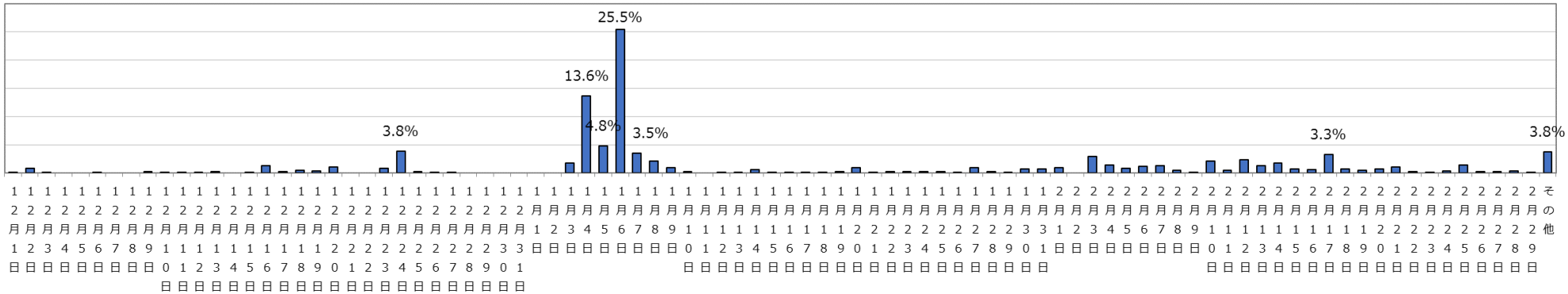
※ 一学部しかない大学における選抜区分を除く。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

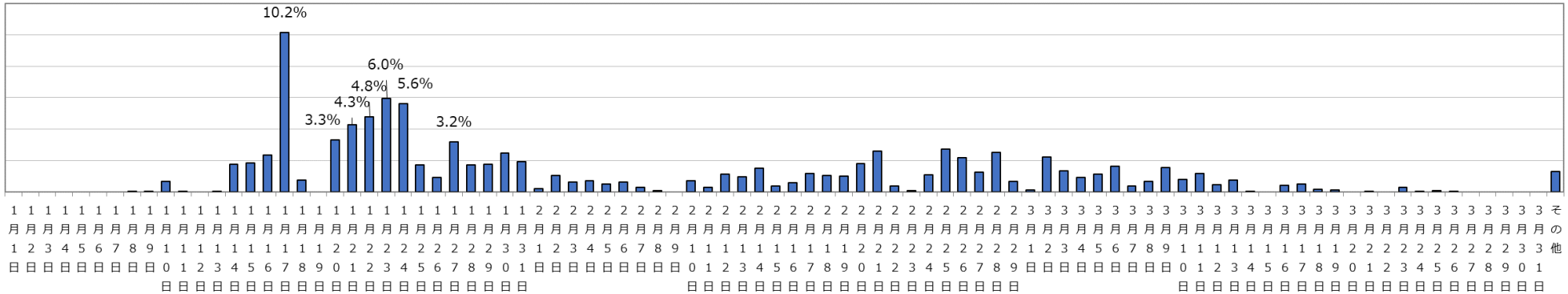
出願期間の初日・最終日（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、出願期間の初日は１月６日が25.5%であり、最終日は１月17日が10.2%である。

初日



最終日



【参考】令和２年度大学入学者選抜実施要項（抄）

第４　試験期日等

１　各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については，次により適宜定める。

(1) 試　験　期　日　令和２年２月１日から４月15日までの間

(2) 入学願書受付期間　試験期日に応じて定める。

(3) 合格者の決定発表　令和２年４月20日まで

【参考：一般入試・国立大学／公立大学】

国立（n=2,622）：初日　1月27日（97.8%）　最終日　2月　5日（99.0%）

公立（n=　691）：初日　1月27日（97.5%）　最終日　2月　5日（97.4%）

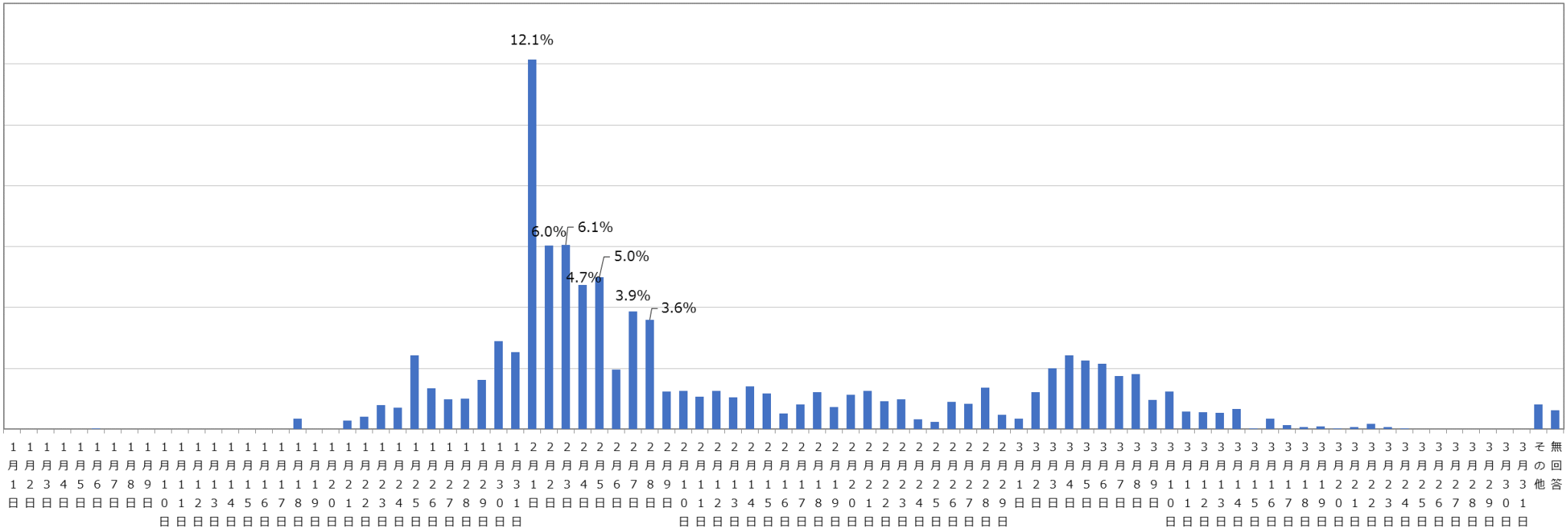
※初日は１月８日～2月18日、最終日は１月21日～３月２日のいずれかに含まれる

n=20,763選抜区分
単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

個別選抜日程（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、個別選抜は２月１日に12.1%が実施されている。



【参考】令和２年度大学入学者選抜実施要項（抄）
第４　試験期日等
　１　各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については，次により適宜定める。
　　(1) 試　験　期　日　令和２年２月１日から４月15日までの間
　　(2) 入学願書受付期間　試験期日に応じて定める。
　　(3) 合格者の決定発表　令和２年４月20日まで

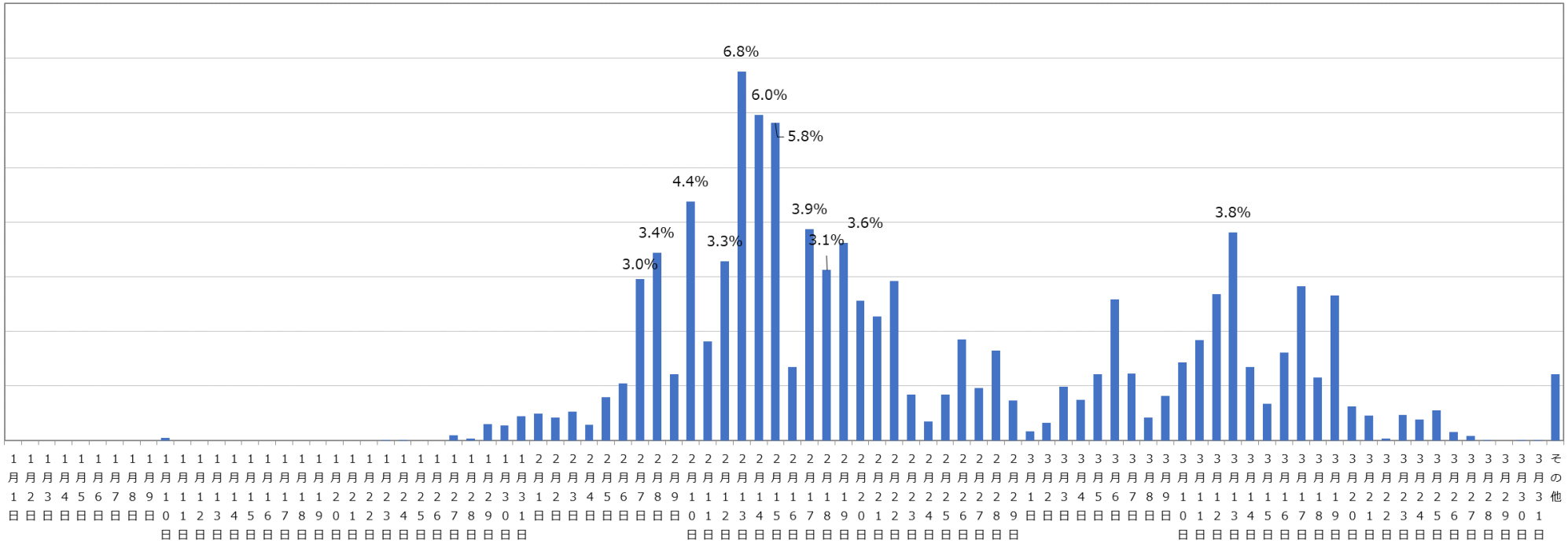
【参考：一般入試・国立大学／公立大学】
国立（n=2,622）：２月25日（56.1%）　３月12日（33.6%）
公立（n=　691）：２月25日（47.9%）　３月12日（30.2%）

n=12,322選抜区分　※個別学力検査を実施する選抜区分のみ集計
単数回答　※個別選抜日程が複数日にわたる場合は初日のみ集計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

合格発表日（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、合格発表日は２月13日が６.８％であり、２月７～19日が多い。



【参考】令和２年度大学入学者選抜実施要項（抄）

第４　試験期日等

１　各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については，次により適宜定める。

(1) 試　験　期　日　令和２年２月１日から４月15日までの間

(2) 入学願書受付期間　試験期日に応じて定める。

(3) 合格者の決定発表　令和２年４月20日まで

【参考：一般入試・国立大学／公立大学】

国立（n=2,622）：３月６日（39.4%）　３月20日（17.0%）

※3月６日～21日に９割以上が実施

公立（n=　691）：３月６日（18.8%）　３月21日（19.2%）

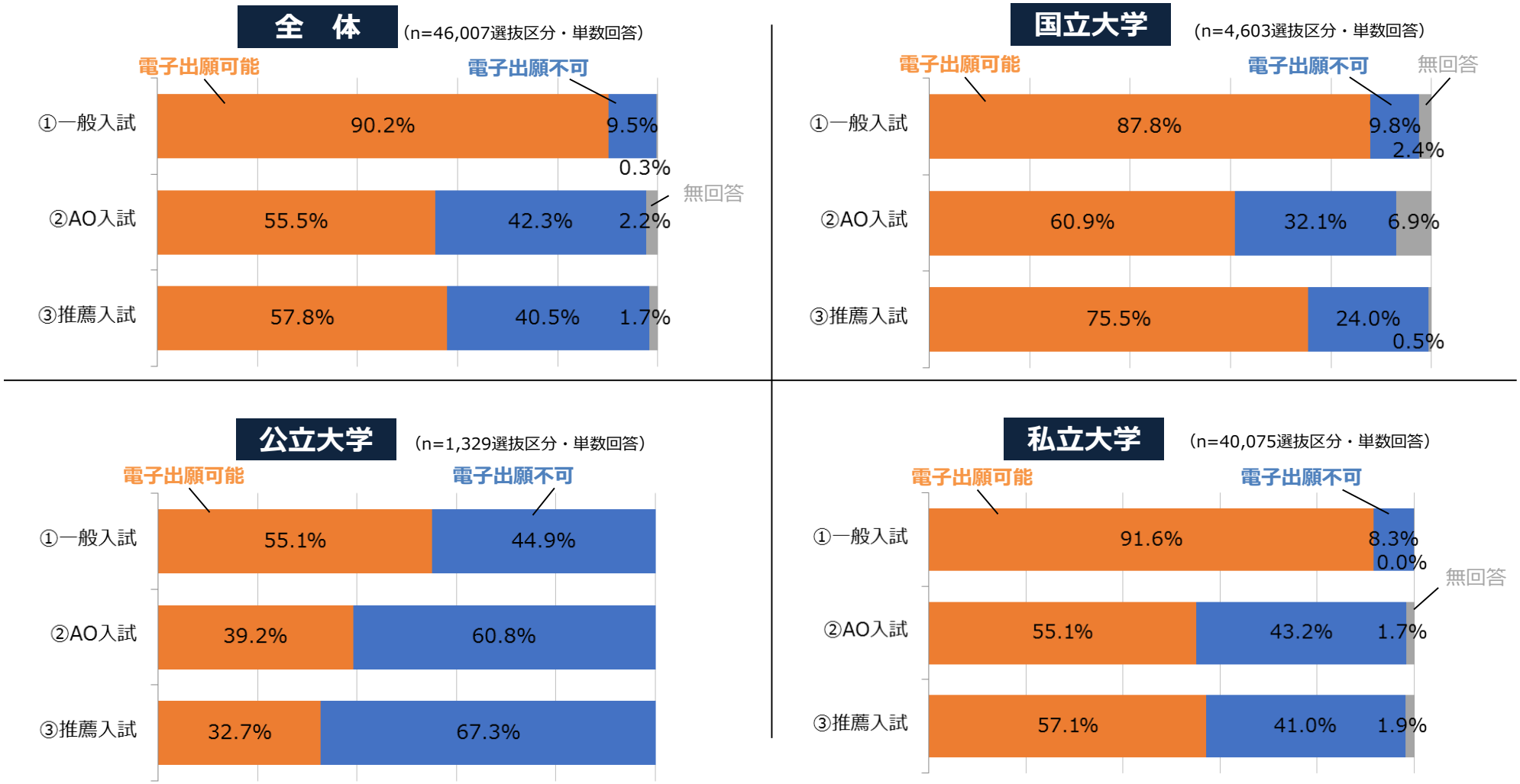
※３月５日～23日に９割以上が実施

n=20,763選抜区分
単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

電子出願の可否（国公私立別）

電子出願が可能な選抜区分は一般入試では90.2%、AO入試では55.5%、推薦入試では57.8%である。



※ 一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

主な調査項目（センター試験の利用の実態）

共通事項

２．センター試験の利用の実態

・センター試験の利用状況 18
・センター試験の過年度成績の利用状況 19
・合否判定に利用するセンター試験の科目数 20
・センター試験の外国語の利用 21
・センター試験英語のリスニングの利用 23
・リスニングを利用する場合の外国語の得点算出方法 24
・センター試験の合否判定時の換算点の割合 25

３．個別選抜の実態

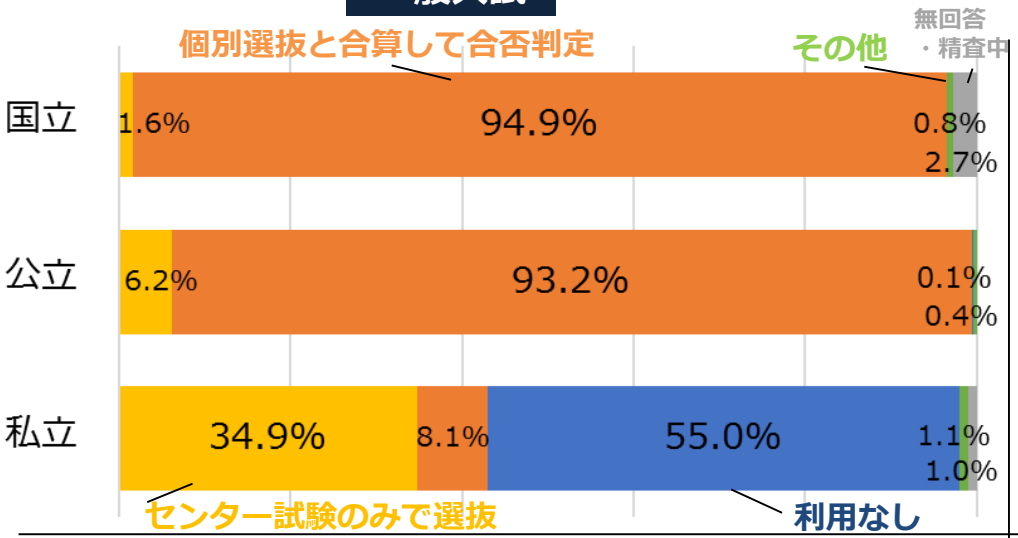
４．英語資格・検定試験の活用の実態

センター試験の利用状況

一般入試においてセンター試験を個別選抜と合算して合否判定するために利用する選抜区分は、国立大学で94.9%、公立大学で93.2%。他方、利用しない選抜区分は、私立大学で55.0%である。

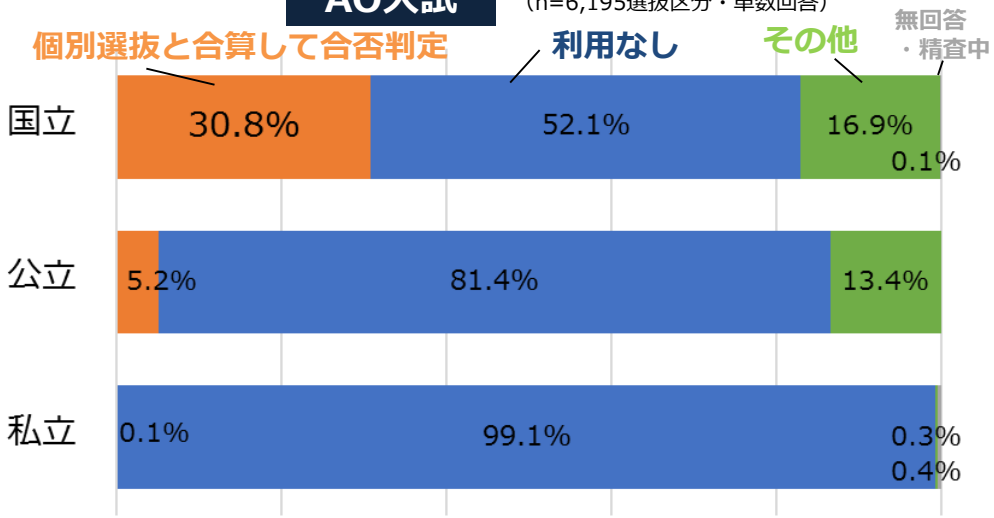
一般入試

（n=24,076選抜区分・単数回答）



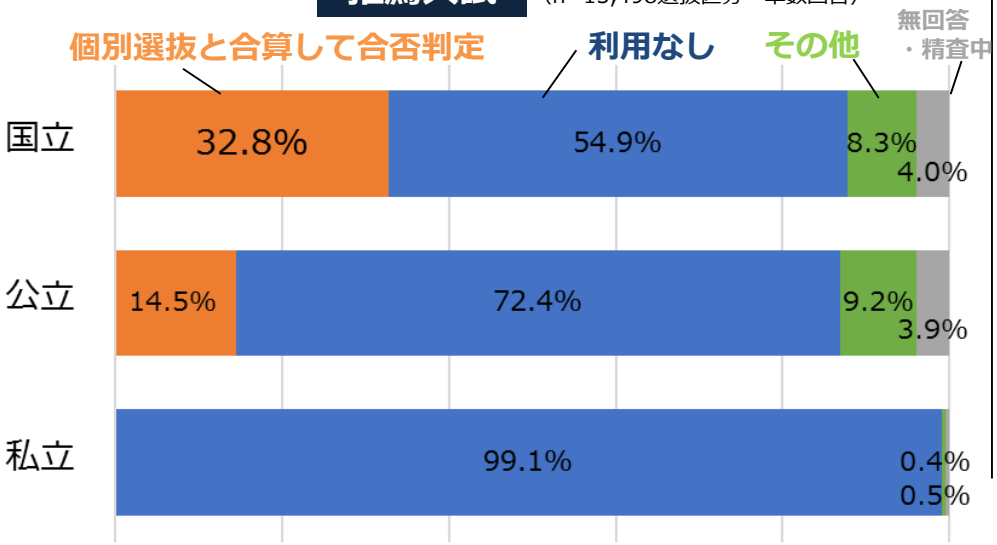
AO入試

（n=6,195選抜区分・単数回答）



推薦入試

（n=15,498選抜区分・単数回答）



【その他の内容の主な例】
○一定の得点以上を２次試験受験資格として設定

【各選抜区分数】

○一般入試
国立：n= 2,622選抜区分
公立：n=　691選抜区分
私立：n=20,763選抜区分

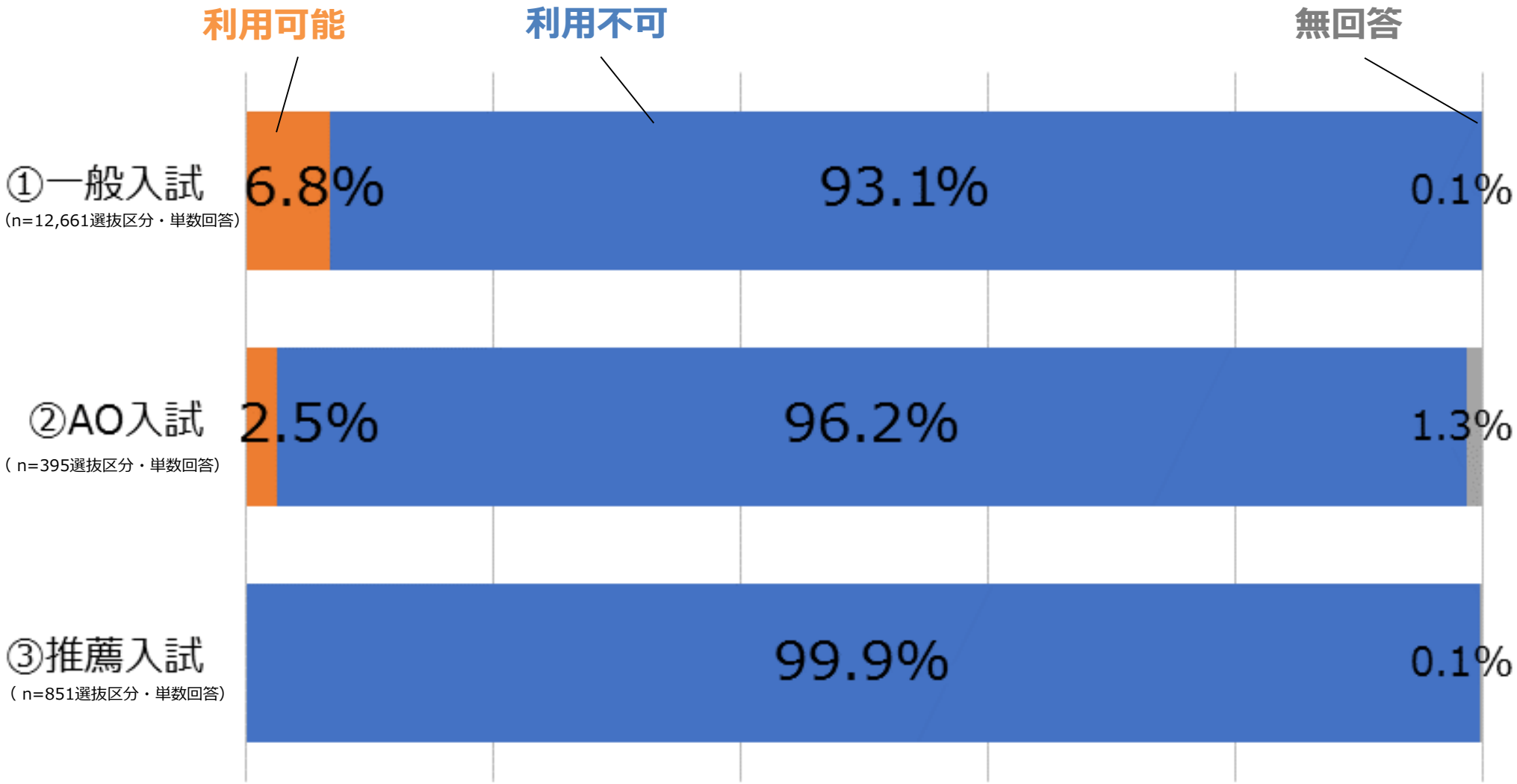
○推薦入試
国立：n= 1,288選抜区分
公立：n=　532選抜区分
私立：n=13,678選抜区分

○AO入試
国立：n=　691選抜区分
公立：n=　97選抜区分
私立：n= 5,407選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

センター試験の過年度成績の利用状況

センター試験の過年度成績の利用については、一般入試で6.8%（国立：０選抜区分　公立：０選抜区分　私立：861選抜区分）、AO入試で2.5%（国立：６選抜区分　公立：１選抜区分　私立：３選抜区分）となっている。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

合否判定に利用するセンター試験の科目数

センター試験を利用する場合、一般入試においては、国立大学では７科目の利用、公立大学では７・５・６科目の利用、私立大学では２・３科目の利用が多い。

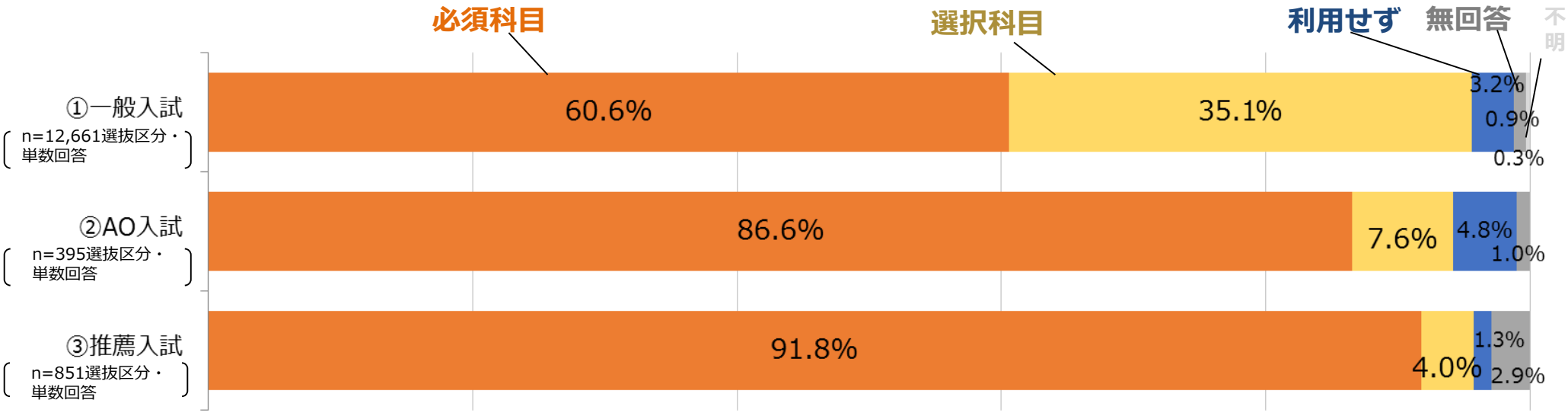
入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	無回答	平均科目数
一般入試	国立（n=2,621選抜区分）	0.0%	0.6%	2.4%	2.7%	4.0%	6.0%	**58.2%**	26.0%	0.0%	**6.9**
	公立（n=680選抜区分）	0.6%	2.8%	15.6%	15.7%	**19.1%**	**17.9%**	**21.9%**	6.3%	0.0%	**5.2**
	私立（n=9,246選抜区分）	7.6%	**37.1%**	**36.7%**	9.4%	5.5%	2.1%	0.6%	0.0%	1.1%	**2.8**
AO入試	国立（n=331選抜区分）	0.3%	0.9%	10.0%	10.0%	8.5%	5.4%	**50.2%**	14.8%	0.0%	**6.2**
	公立（n=14選抜区分）	0.0%	14.3%	7.1%	28.6%	0.0%	0.0%	**50.0%**	0.0%	0.0%	**5.1**
	私立（n=46選抜区分）	4.3%	21.7%	**26.1%**	**39.1%**	2.2%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	**3.4**
推薦入試	国立（n=581選抜区分）	0.2%	1.0%	6.7%	6.4%	6.0%	10.3%	**50.4%**	18.9%	0.0%	**6.4**
	公立n=134選抜区分）	0.0%	0.0%	20.9%	9.7%	**23.1%**	8.2%	**26.9%**	11.2%	0.0%	**5.4**
	私立（n=123選抜区分）	1.6%	7.3%	20.3%	**32.5%**	**22.8%**	0.8%	1.6%	0.0%	13.0%	**3.9**

※ nは、センター試験を利用する選抜区分のうち、合否判定に利用するセンター試験の科目数が１～８の選抜区分のみ集計

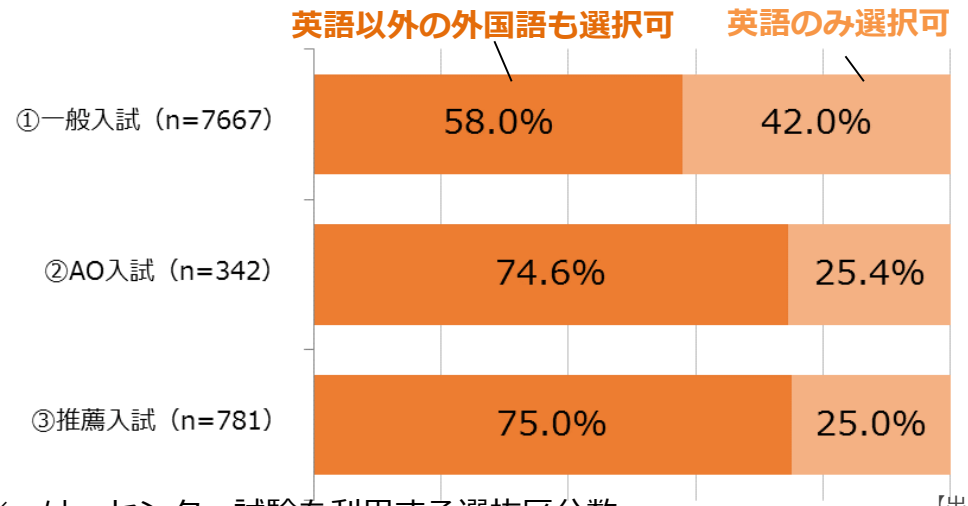
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

センター試験の外国語の利用①

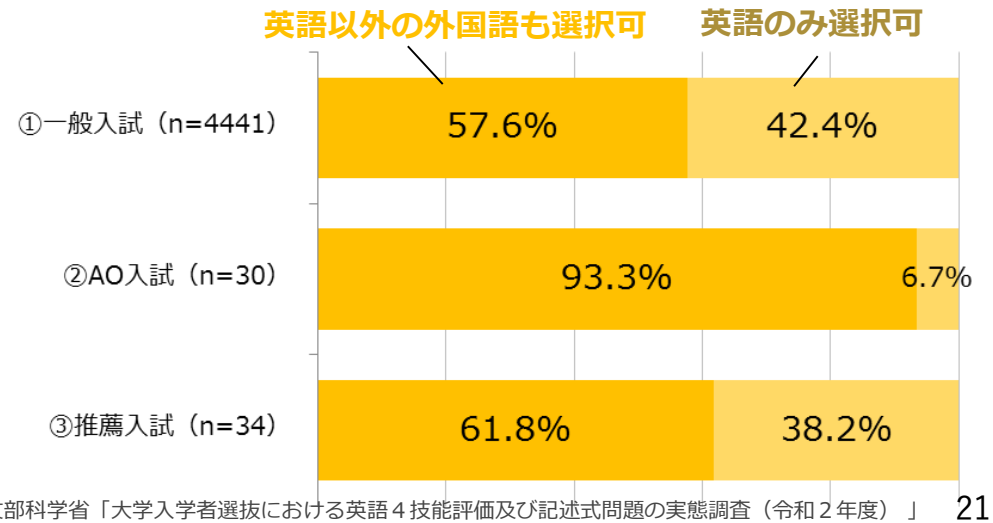
センター試験を利用する選抜区分のうち外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）の利用状況は、一般入試で「必須科目としている」が60.6%、「選択科目としている」が35.1%である。



必須科目の内訳



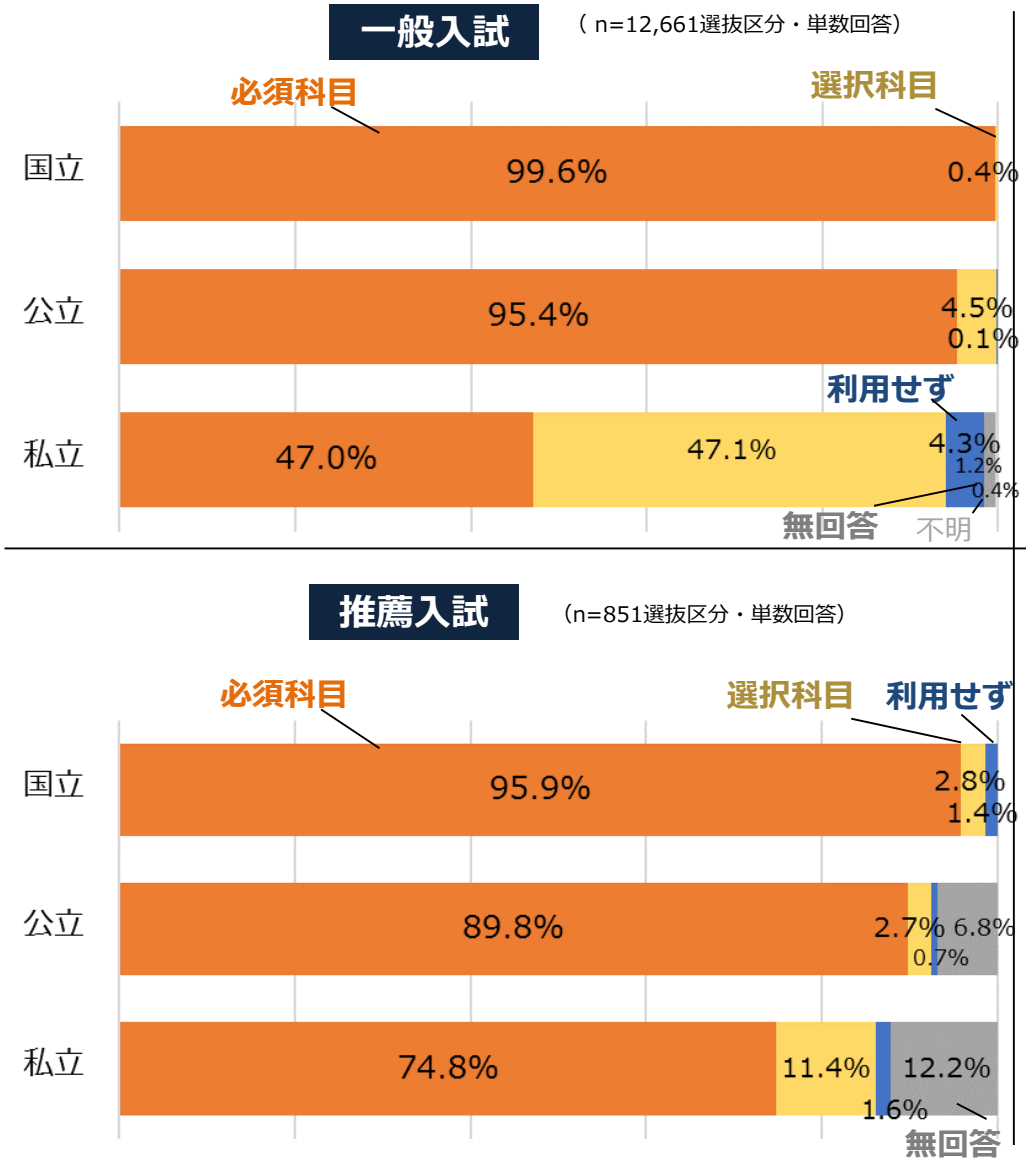
選択科目の内訳

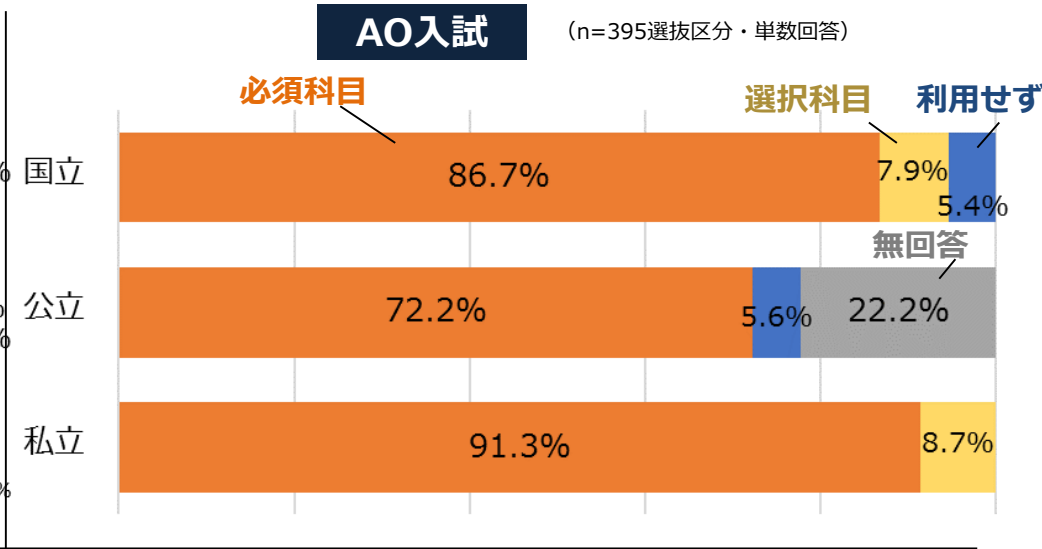


※ nは、センター試験を利用する選抜区分数

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

センター試験の外国語の利用②（国公私別）





※ nは、センター試験を利用する選抜区分数

○一般入試
国立：n=2,621選抜区分
公立：n=　690選抜区分
私立：n=9,350選抜区分

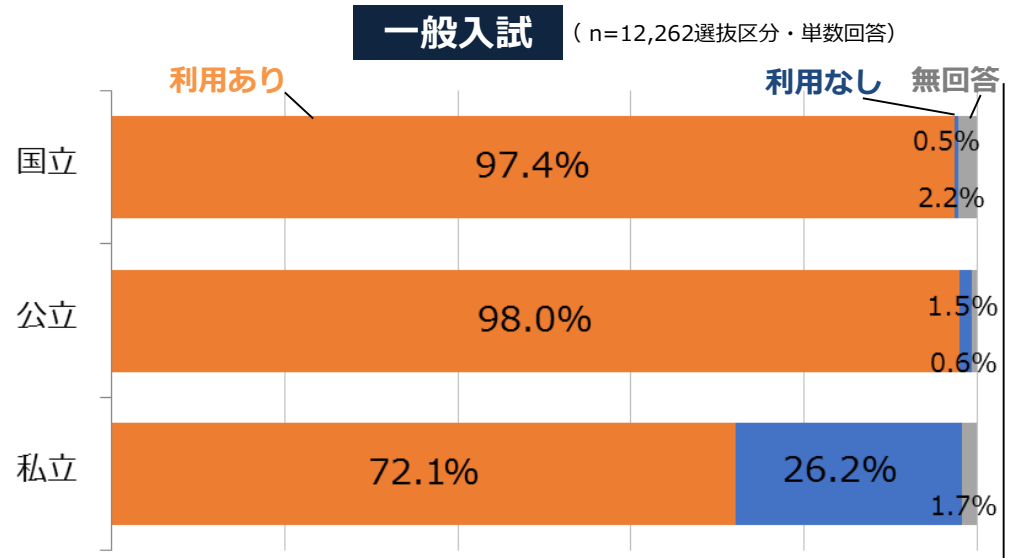
○AO入試
国立：n=331選抜区分
公立：n=　18選抜区分
私立：n=　46選抜区分

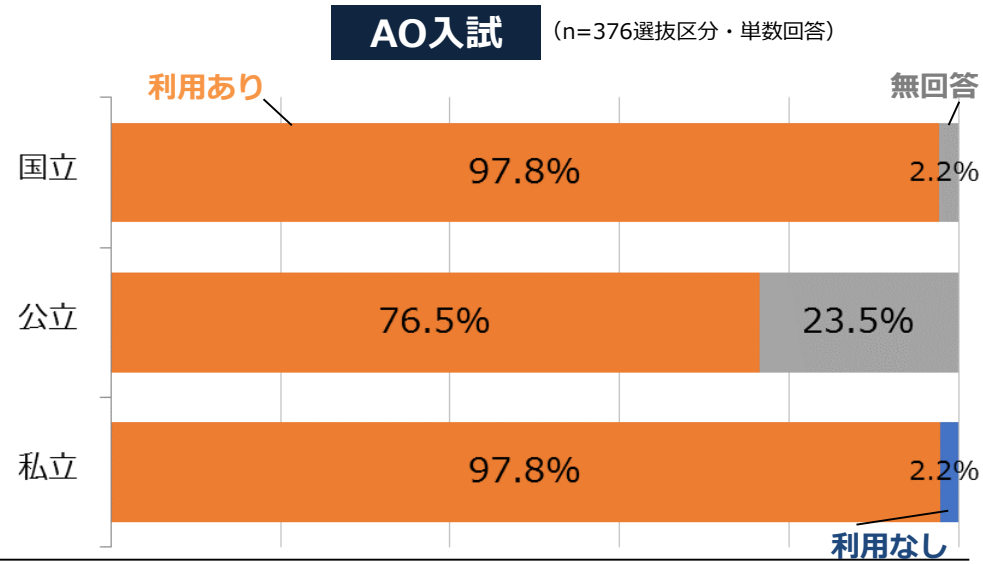
○推薦入試
国立：n=581選抜区分
公立：n=147選抜区分
私立：n=123選抜区分

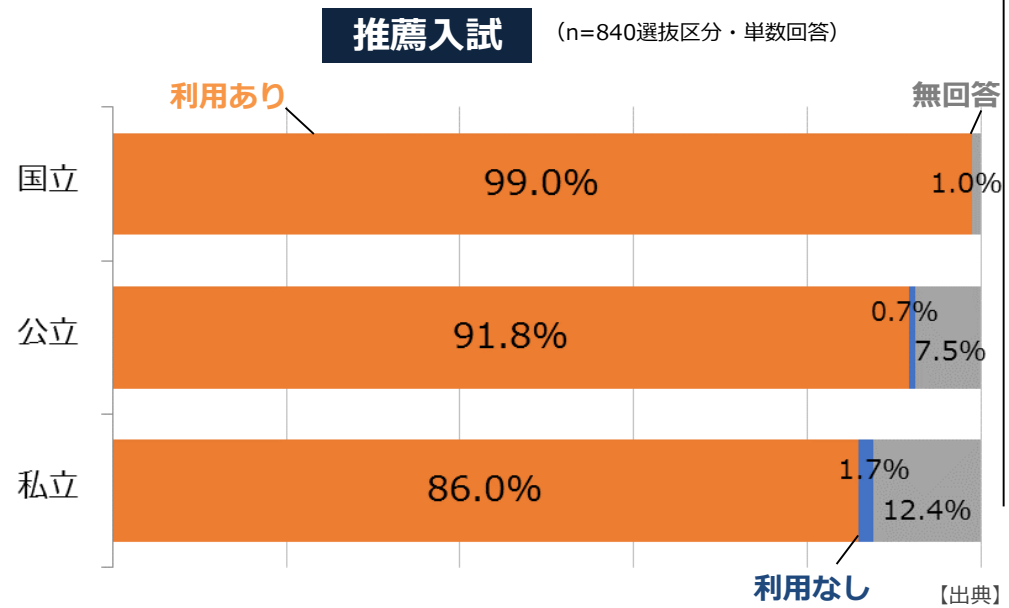
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

センター試験英語のリスニングの利用

センター試験英語を利用する場合、一般入試では、リスニングを利用するのは、国立大学で97.4%、公立大学で98.0%、私立大学で72.1%である。







※ nは、センター試験の英語を利用する選抜区分数

○一般入試
国立：n=2,621選抜区分
公立：n=　689選抜区分
私立：n=8,952選抜区分

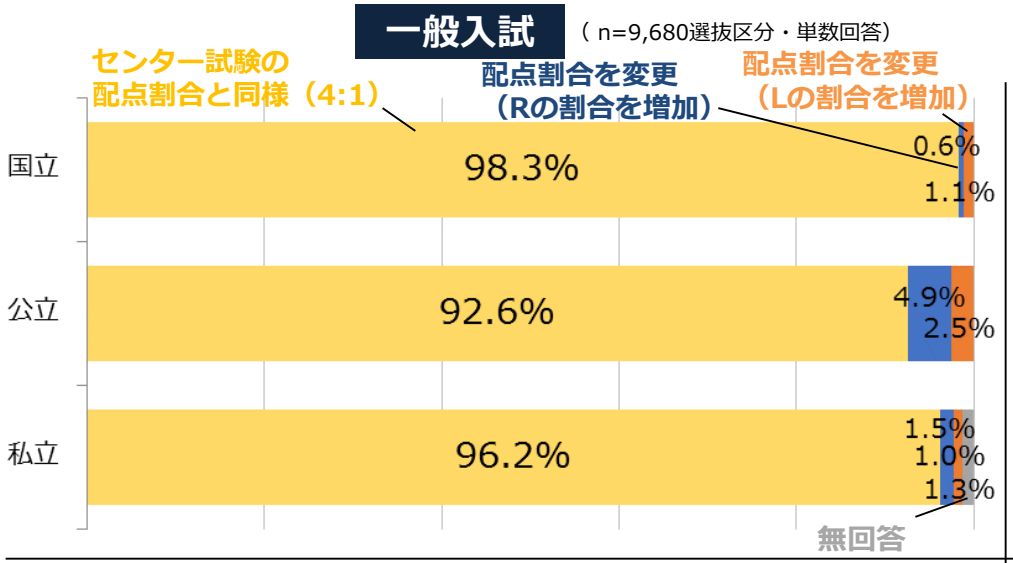
○AO入試
国立：n=313選抜区分
公立：n=　17選抜区分
私立：n=　46選抜区分

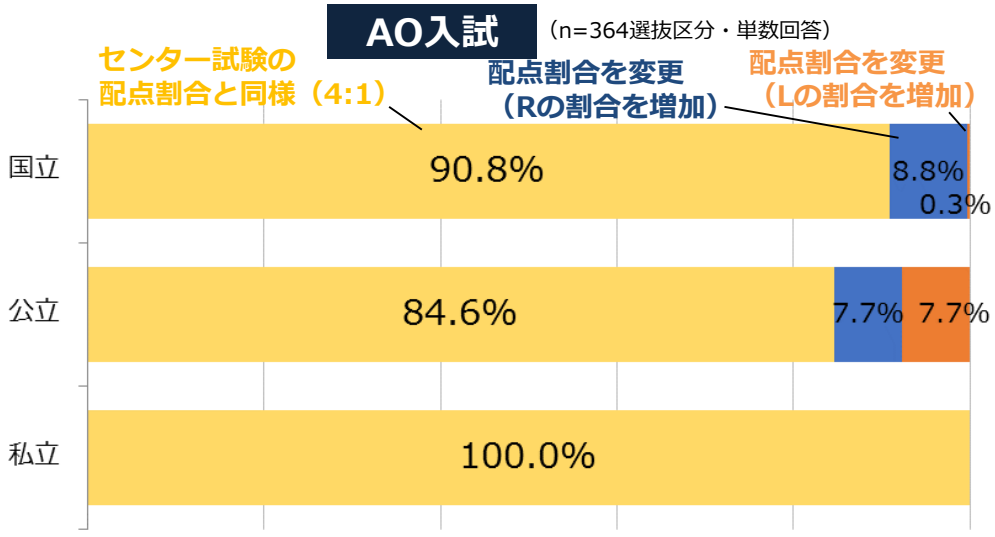
○推薦入試
国立：n=573選抜区分
公立：n=146選抜区分
私立：n=121選抜区分

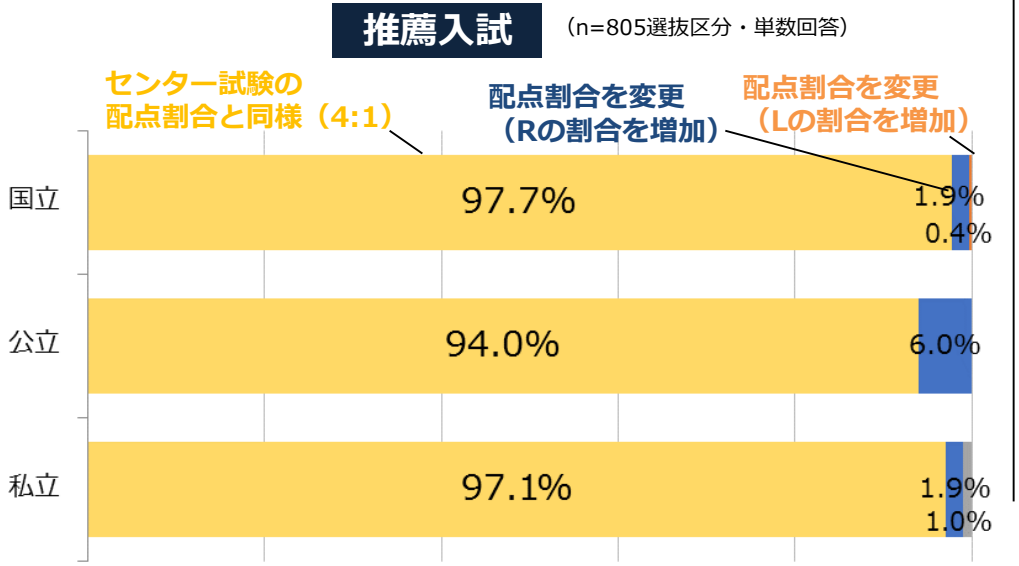
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

リスニングを利用する場合の外国語の得点算出方法

センター試験の英語のリスニングの得点算出方法について、一般入試においては、センター試験の配点割合と同様の４：１とする選抜区分が、国立大学では96.5%、公立大学では92.6%、私立大学で96.2%である。







R：リーディング

L：リスニング

※ nは、センター試験の英語を利用し、かつリスニングを利用する選抜区分数

○一般入試
国立：n=2,552選抜区分
公立：n=　675選抜区分
私立：n=6,453選抜区分

○AO入試
国立：n=306選抜区分
公立：n=　13選抜区分
私立：n=　45選抜区分

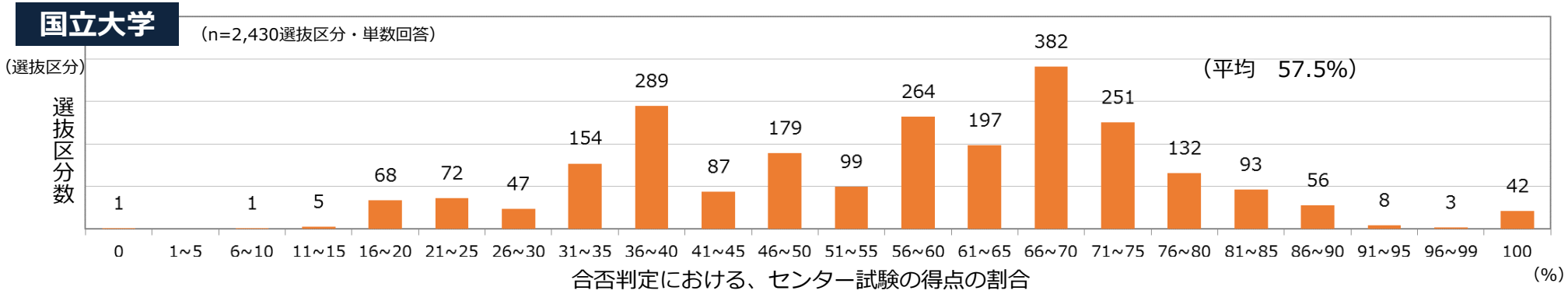
○推薦入試
国立：n=567選抜区分
公立：n=134選抜区分
私立：n=104選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

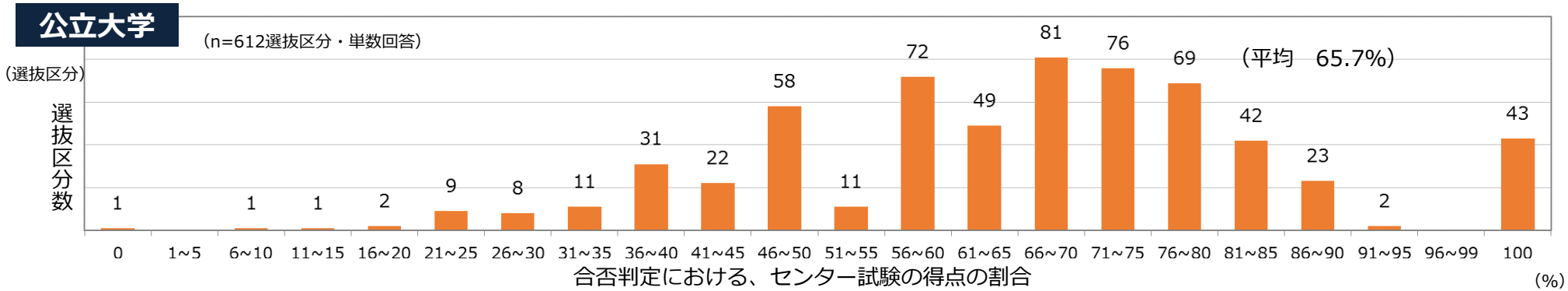
センター試験の合否判定時の換算点の割合（一般入試）

一般入試において、合否判定での総合点に占めるセンター試験の配点の割合は、平均して、国立大学では57.5%、公立大学では65.7%、私立大学では個別選抜のみあるいはセンター試験のみによる選抜区分が多い。

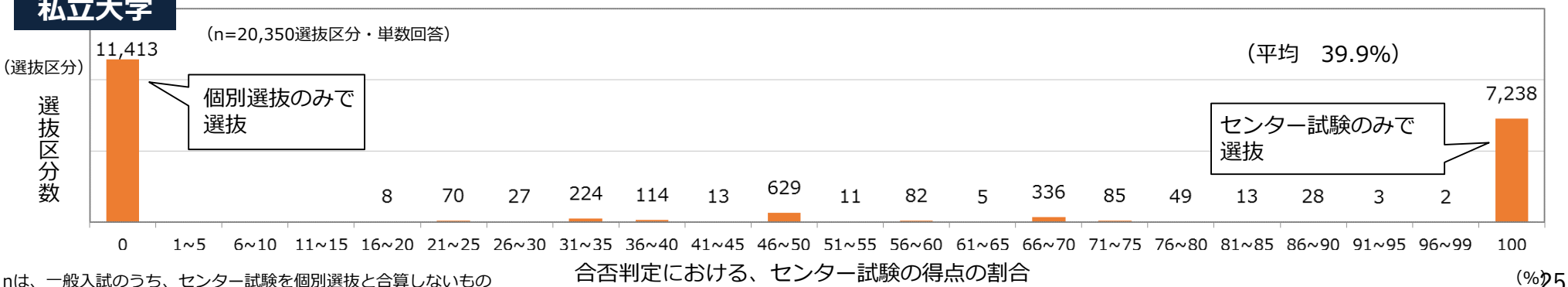
国立大学



公立大学



私立大学



※ nは、一般入試のうち、センター試験を個別選抜と合算しないもの及び合否判定時の換算点の回答がないものを除外している

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

主な調査項目（個別選抜の実態）

共通事項

2．センター試験の利用の実態

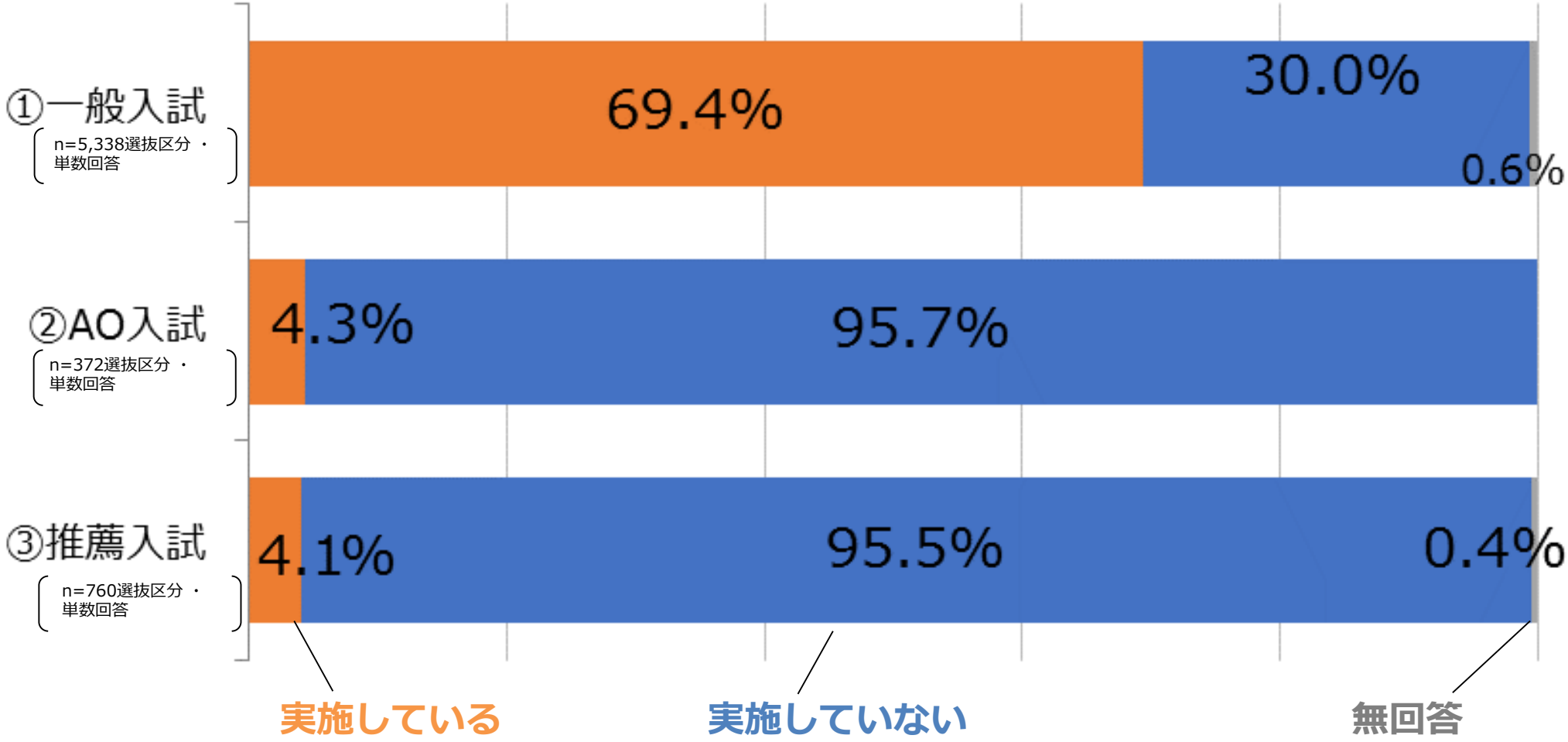
3．個別選抜の実態

・個別学力検査実施の有無 27
・合否判定に利用する個別学力検査の科目数 28
・一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況 31
・英語に係る技能別の出題の有無 45
・小論文出題状況 46
・AO入試における学力把握措置 47
・推薦入試における学力把握措置 48
・AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況 49
・推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況 50
・学力検査以外の資料等の考慮 51
・学力検査以外に考慮する資料等の利用率 52

4．英語資格・検定試験の活用の実態

個別学力検査実施の有無（センター試験の利用あり）

センター試験を利用していると回答した選抜区分（n=6,479）のうち、更に、個別学力検査を実施しているのは、一般入試が69.4%（3,704選抜区分）、AO入試が4.3%（16選抜区分）、推薦入試が4.1%（31選抜区分）。



※ nはセンター試験のみで選抜を実施する選抜区分を含まない。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用あり）

センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、国立大学では２・１・４科目、公立大学では１・２科目、私立大学では１・２科目が多い。

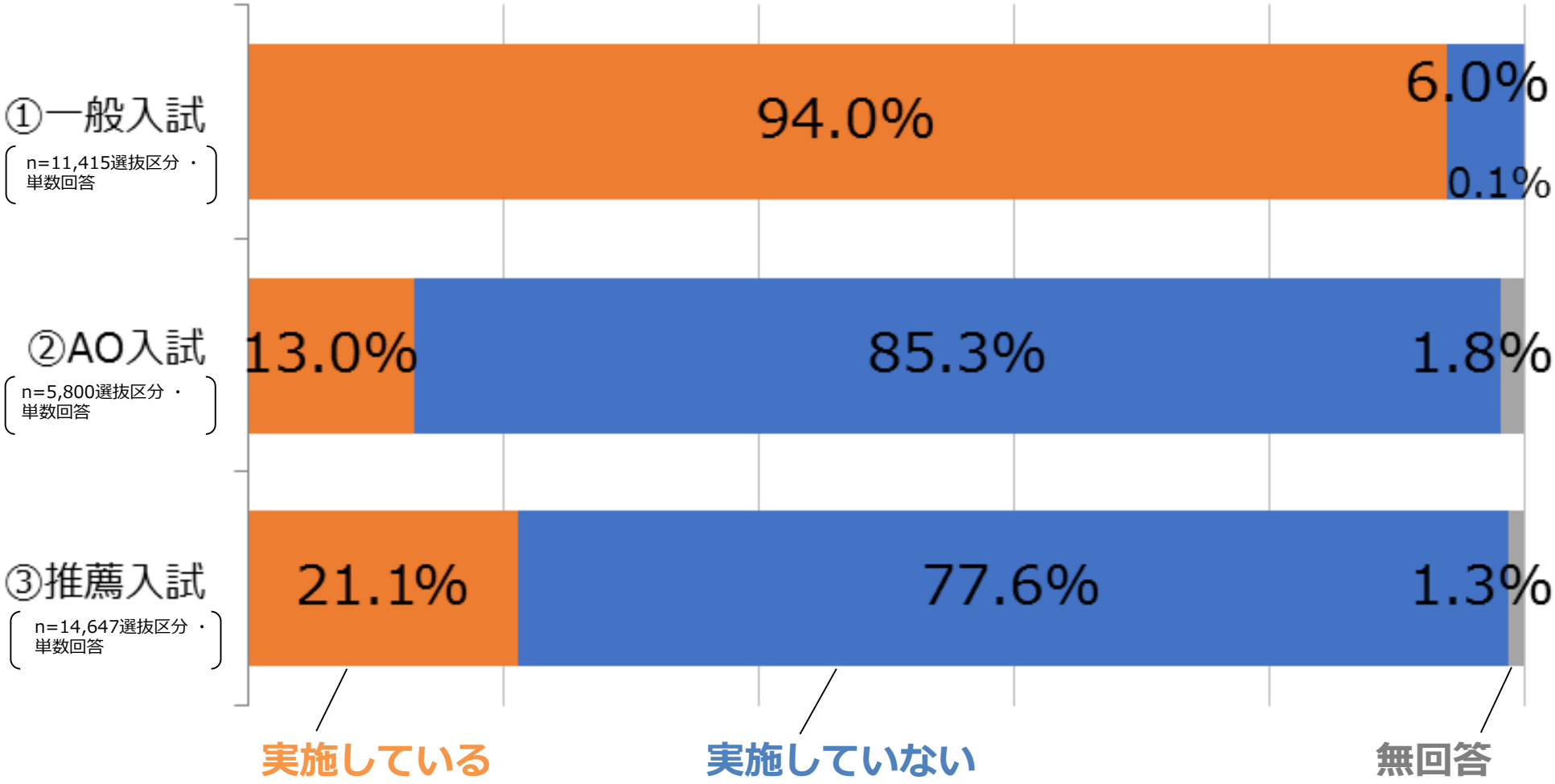
入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	無回答	平均科目数
一般入試	国立（n=1,741選抜区分）	**27.8%**	**32.3%**	13.7%	**22.1%**	2.0%	0.0%	0.3%	1.2%	0.5%	**2.5**
	公立（n=357選抜区分）	**43.7%**	**34.5%**	13.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	**1.8**
	私立（n=1,606選抜区分）	**41.7%**	**36.9%**	19.7%	1.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.5%	**1.8**
AO入試	国立（n=13選抜区分）	**92.3%**	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.1**
	公立（n=0選抜区分）										
	私立（n=3選抜区分）	**66.7%**	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.3**
推薦入試	国立（n=6選抜区分）	**66.7%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	**1.0**
	公立（n=7選抜区分）	**71.4%**	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.6**
	私立（n=18選抜区分）	**83.3%**	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.2**

※ nは、センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が１～８の選抜区分のみ集計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

個別学力検査実施の有無（センター試験の利用なし）

センター試験を利用していないと回答した選抜区分（n=31,994）のうち、個別学力検査を実施していないのは、一般入試が6.0%（680選抜区分）、AO入試が85.3%（4,946選抜区分）、推薦入試が77.6%（11,362選抜区分）。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用なし）

センター試験を利用せず、個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、私立大学では２・３科目が多い。

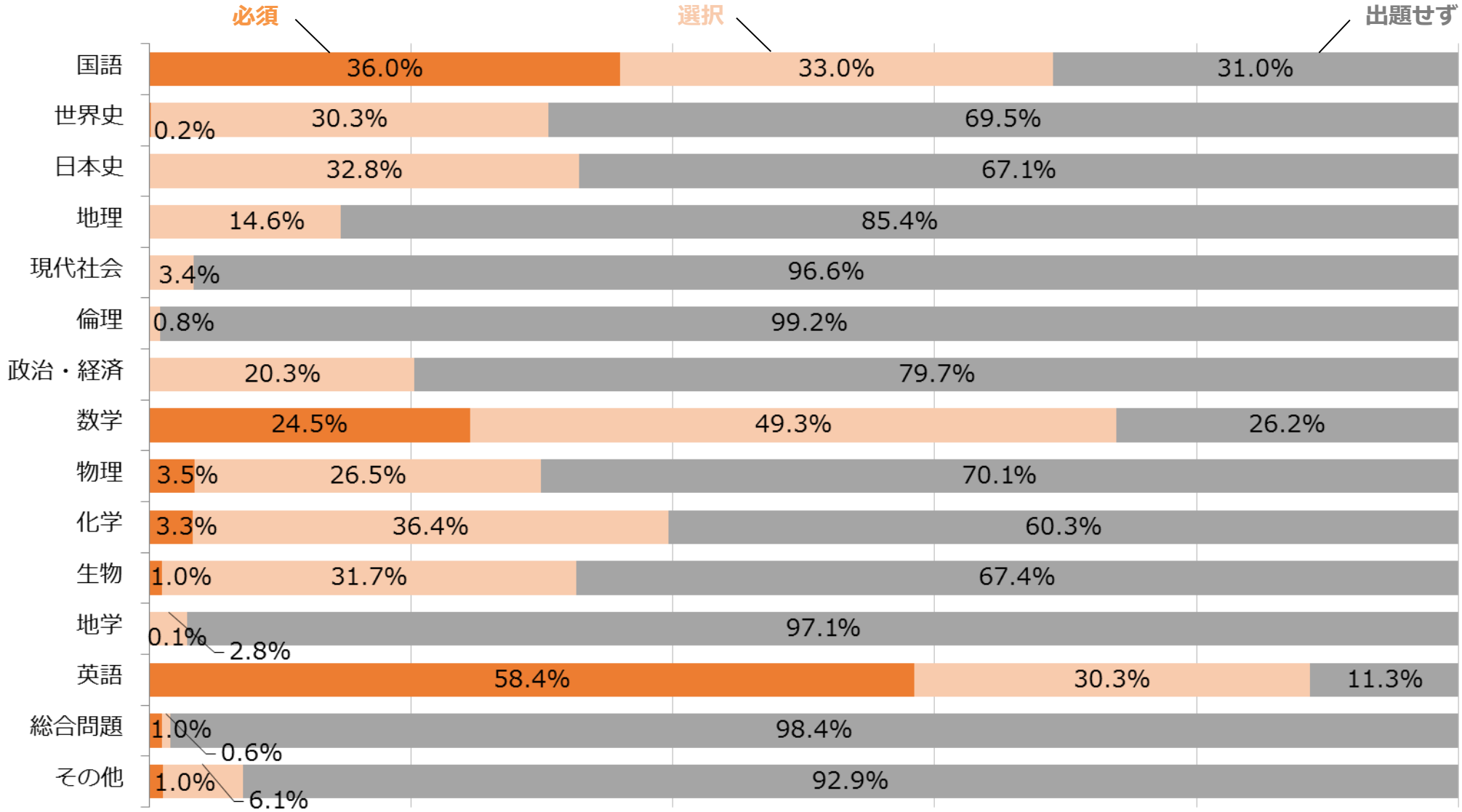
入試方法	国公私	1科目	2科目	3科目	4科目	5科目	6科目	7科目	8科目	無回答	平均科目数
一般入試	国立（n=0選抜区分）										
	公立（n=1選抜区分）	0.0%	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**2.0**
	私立（n=10,726選抜区分）	8.1%	**48.9%**	**39.7%**	2.1%	0.1%	0.3%	0.2%	0.0%	0.7%	**2.4**
AO入試	国立（n=50選抜区分）	**34.0%**	**48.0%**	18.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.8**
	公立（n=２選抜区分）	**50.0%**	**50.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.5**
	私立（n=700選抜区分）	**44.6%**	**35.1%**	15.4%	0.9%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	**1.8**
推薦入試	国立（n=22選抜区分）	**100.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	**1.0**
	公立（n=59選抜区分）	**62.7%**	15.3%	1.7%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.3%	**1.4**
	私立（n=3,015選抜区分）	39.8%	**51.1%**	5.7%	0.7%	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	1.8%	**1.7**

※ nは、センター試験を利用せず、個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が１～８の選抜区分のみ集計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況①

一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 88.7%）、数学（同 73.8%）、国語（同 69.0%）を出題する選抜区分が多い。

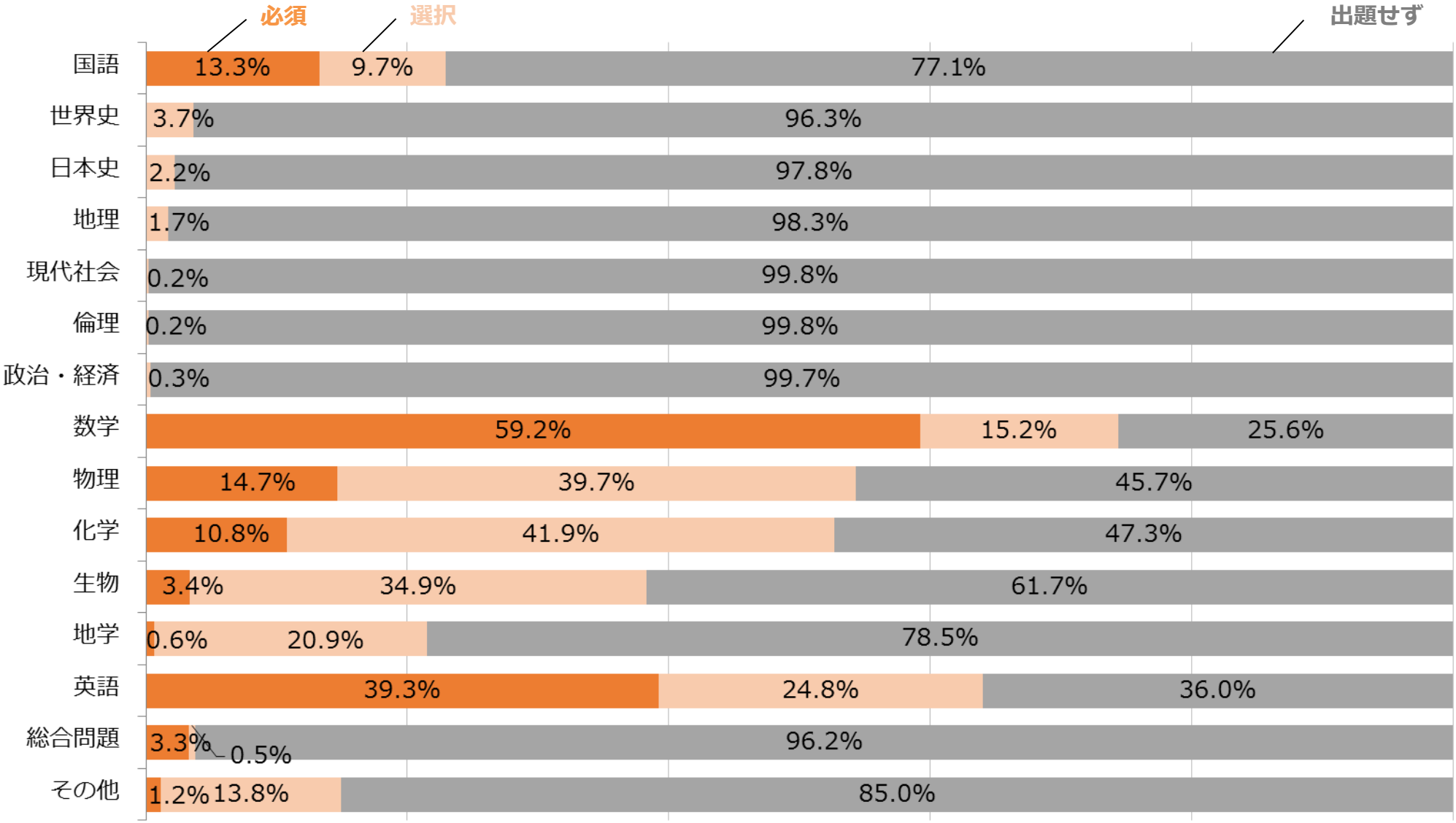


n=14,431選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況②（国立大学）

国立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 74.4%）、英語（同 64.1%）、物理（同 54.4%）を出題する選抜区分が多い。

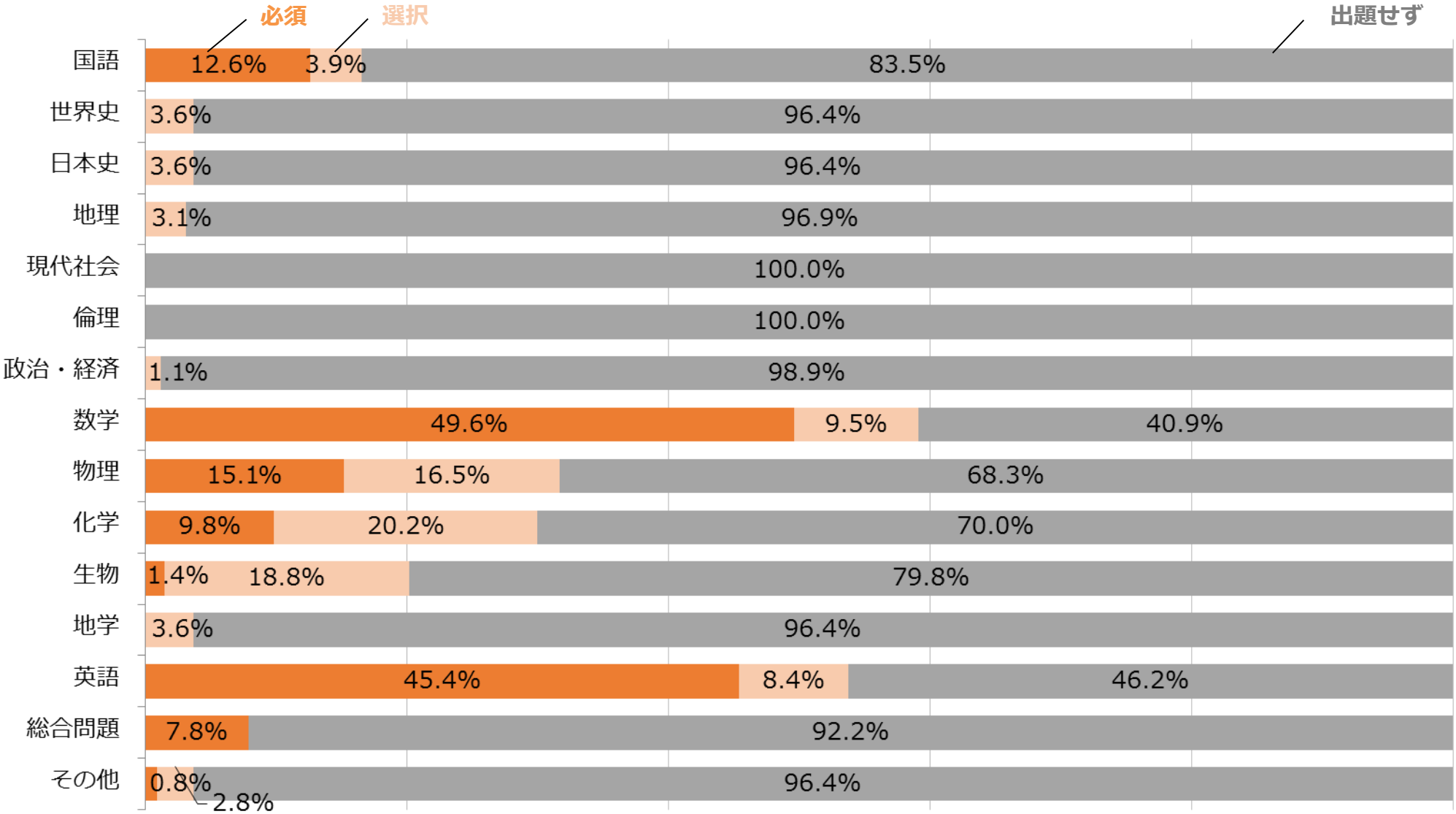


n=1,741選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況③（公立大学）

公立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 59.1%）、英語（同 53.8%）、物理（同 31.6%）を出題する選抜区分が多い。

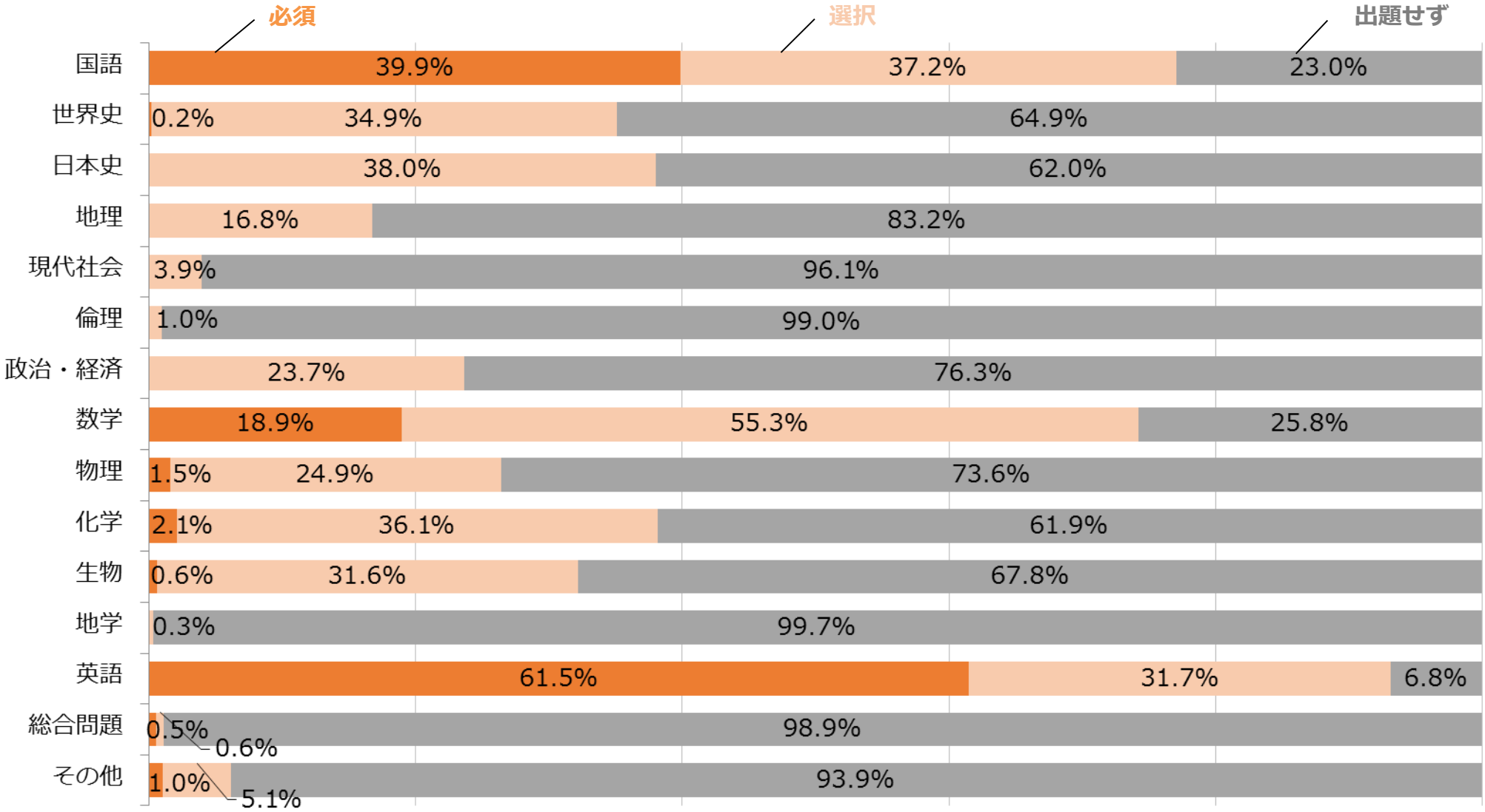


n=358選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況④（私立大学）

私立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.2%）、国語（同 77.1%）、数学（同 74.2%）を出題する選抜区分が多い。

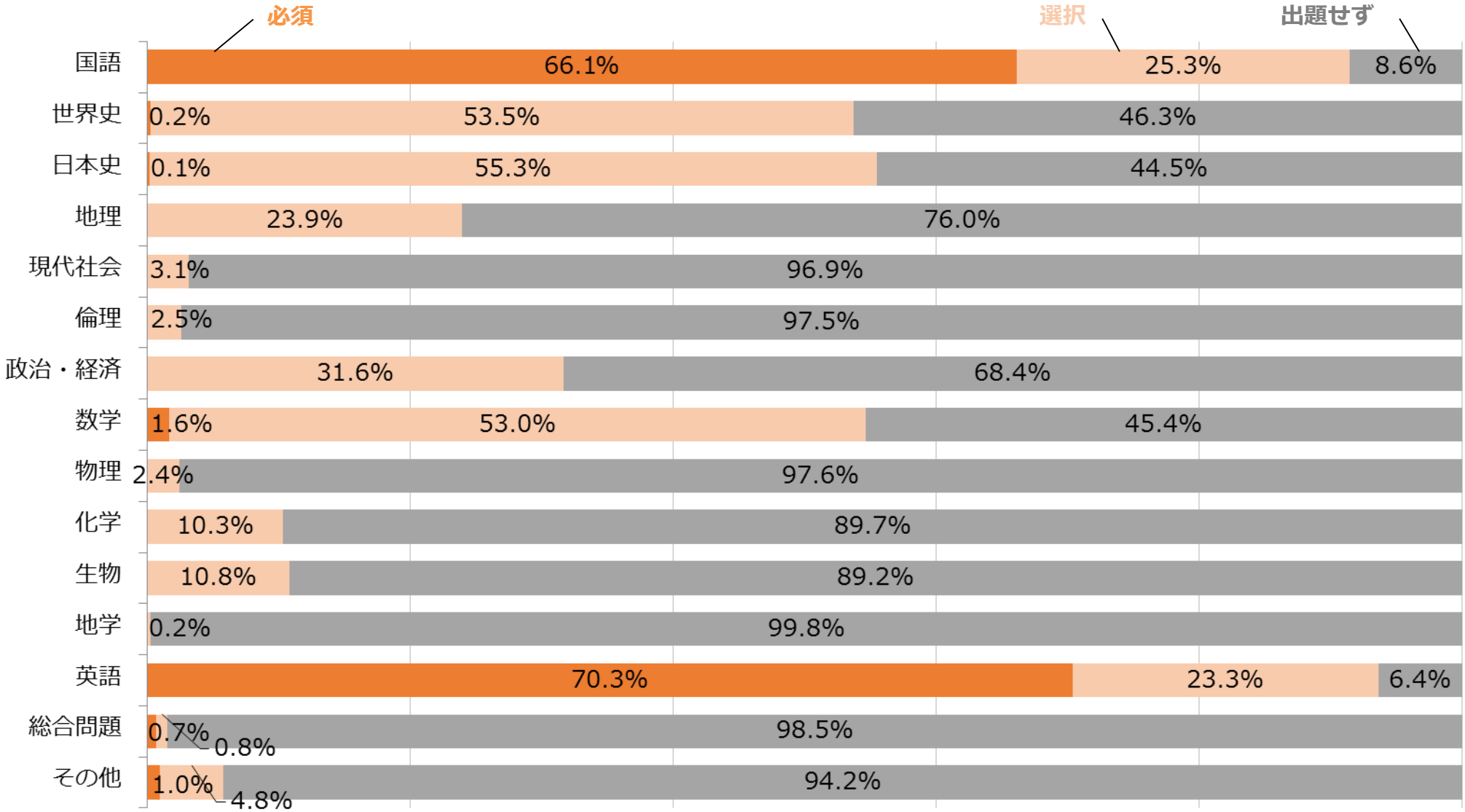


n=12,332選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑤（学科系統分類別／人文科学）

人文科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.6%）、国語（同 91.4%）、日本史（同 55.4%）を出題する選抜区分が多い。

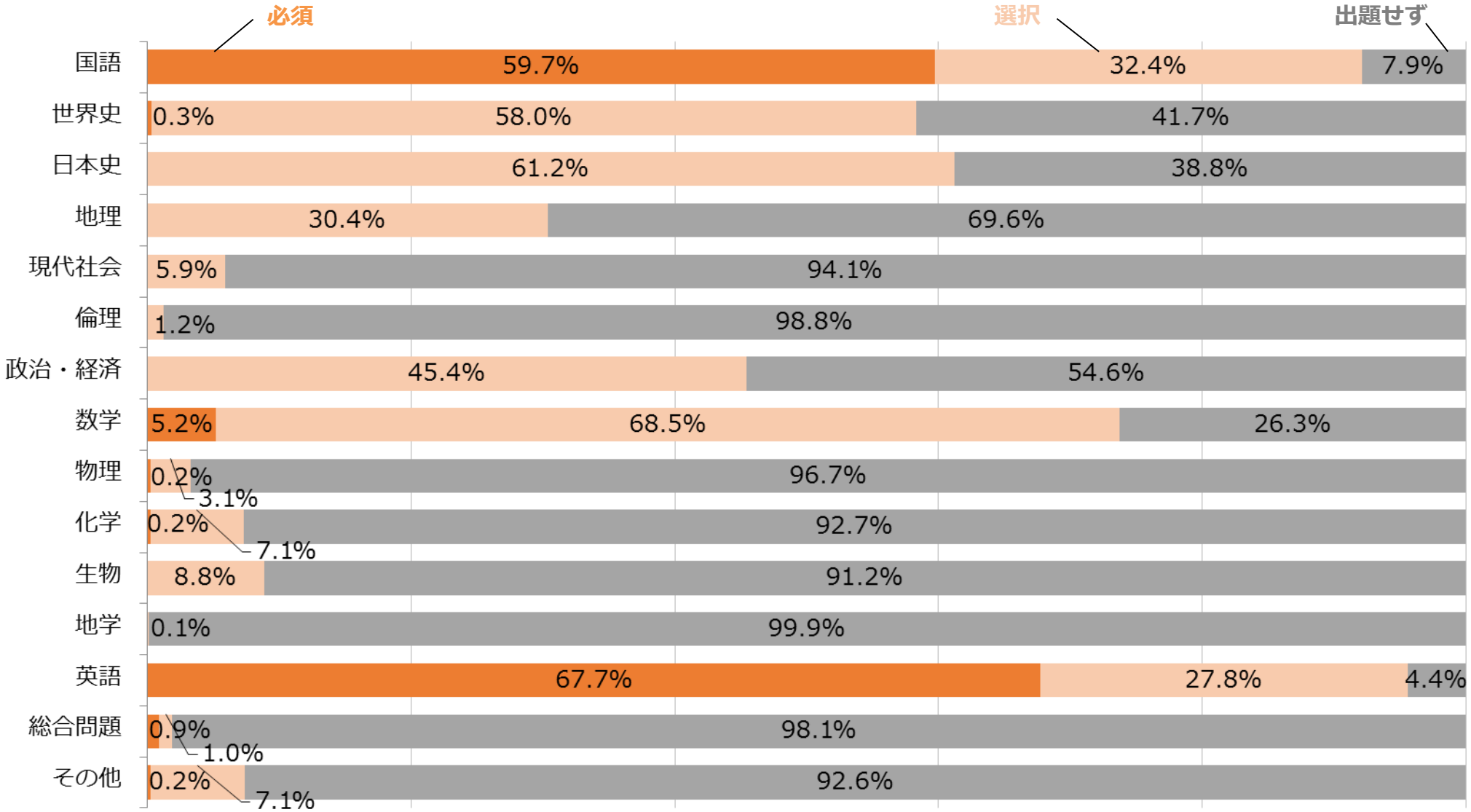


n=2,427選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑥（学科系統分類別／社会科学）

社会科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 95.5%）、国語（同 92.1%）、数学（同 73.7%）を出題する選抜区分が多い。

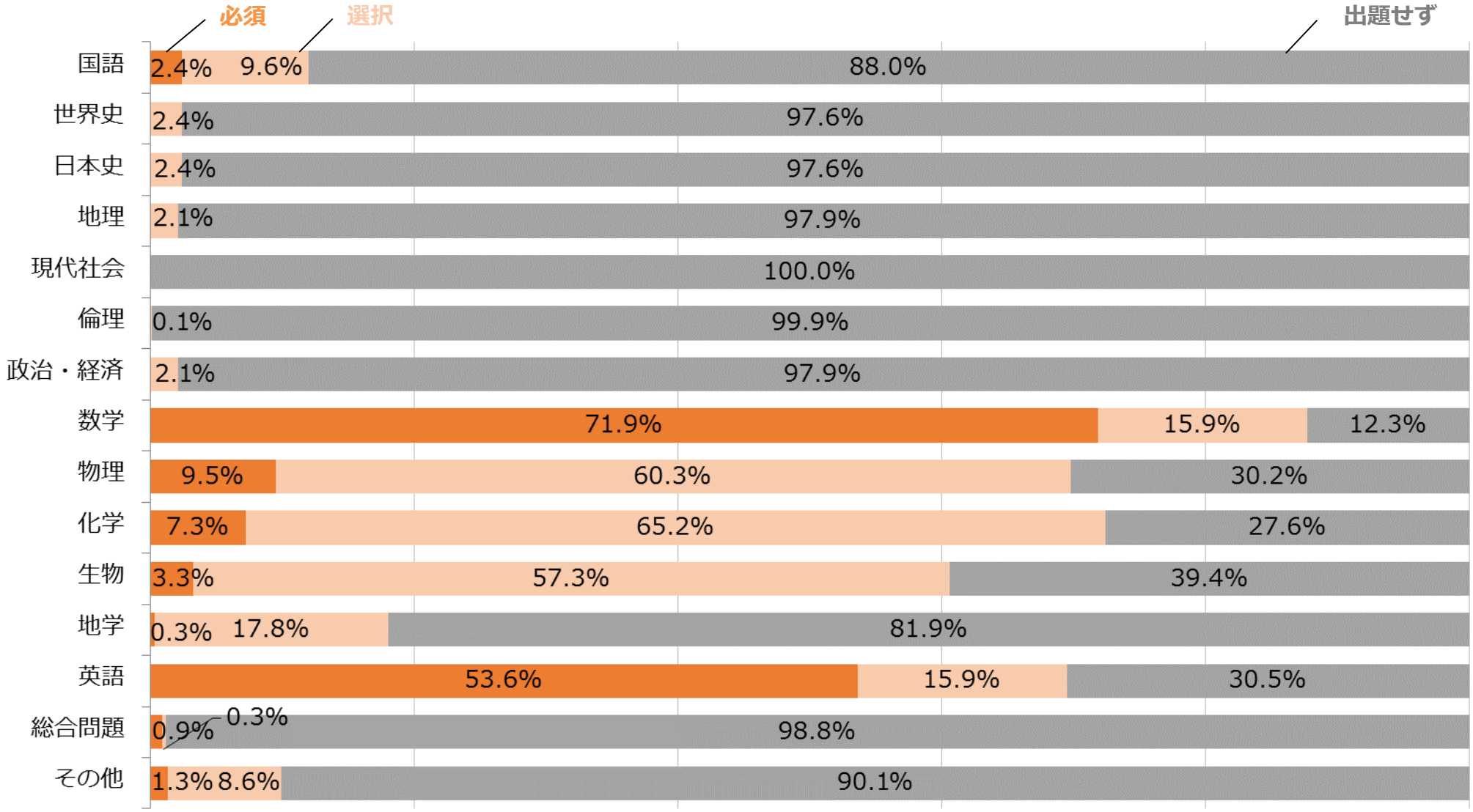


n=3,258選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑦（学科系統分類別／理学）

理学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 87.8%）、化学（72.5%）、物理（69.8%）を出題する選抜区分が多い。

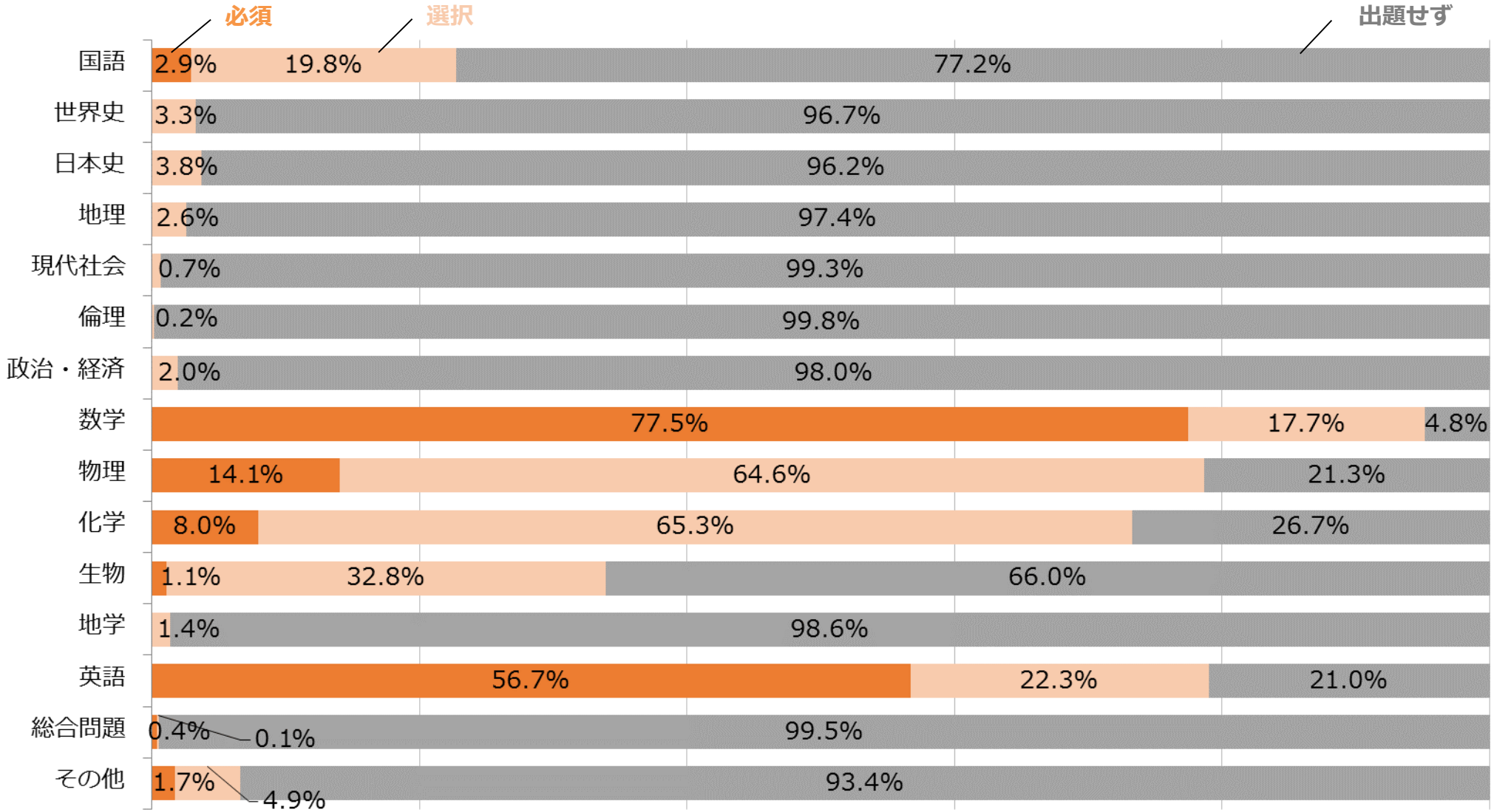


n=676選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑧（学科系統分類別／工学）

工学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 95.2%）、英語（同 79.0%）、物理（同 78.7%）を出題する選抜区分が多い。

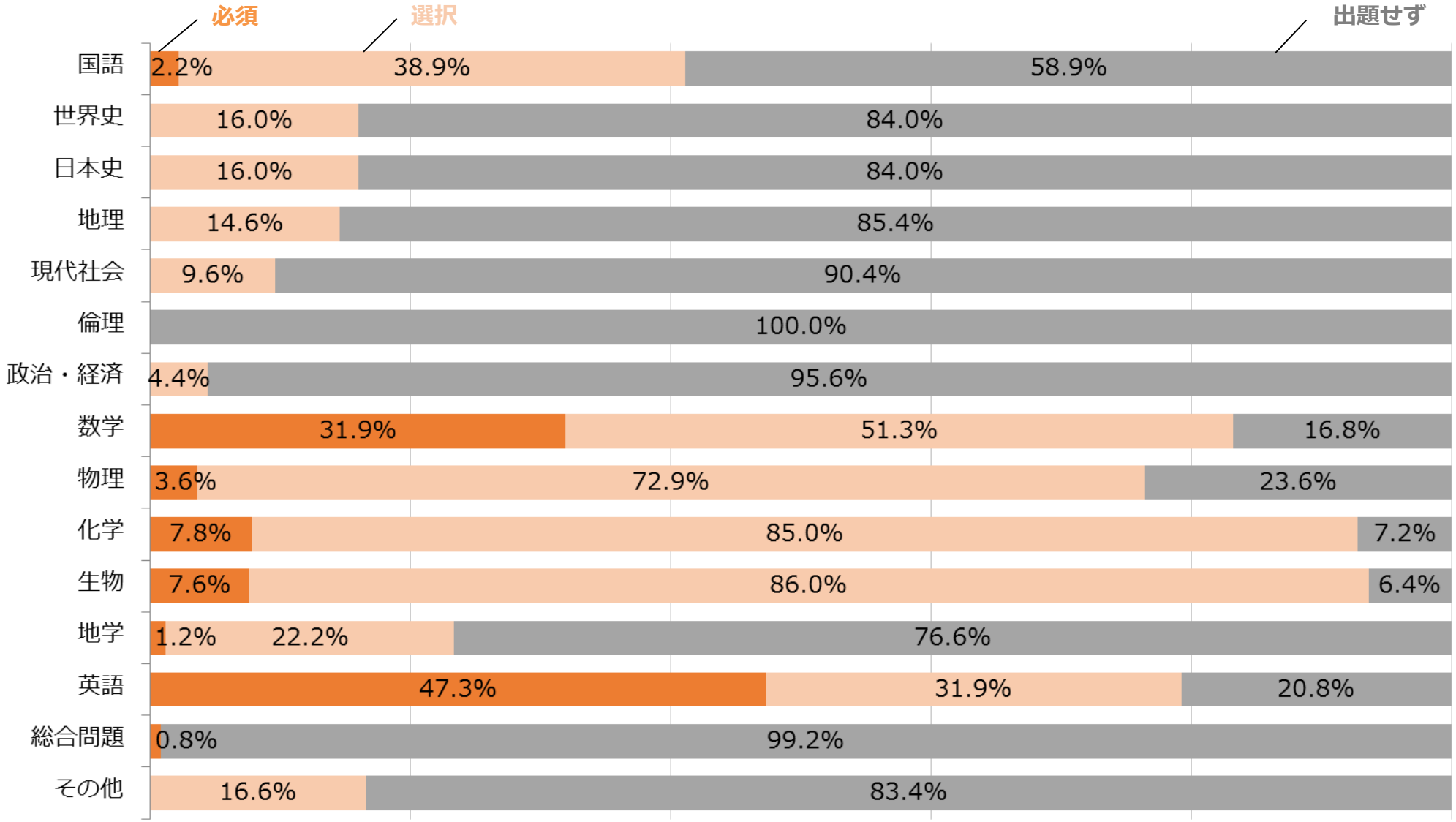


n=2,433選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑨（学科系統分類別／農学）

農学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、生物（必須＋選択 93.6%）、化学（同 92.8%）、数学（同 83.2%）を出題する選抜区分が多い。

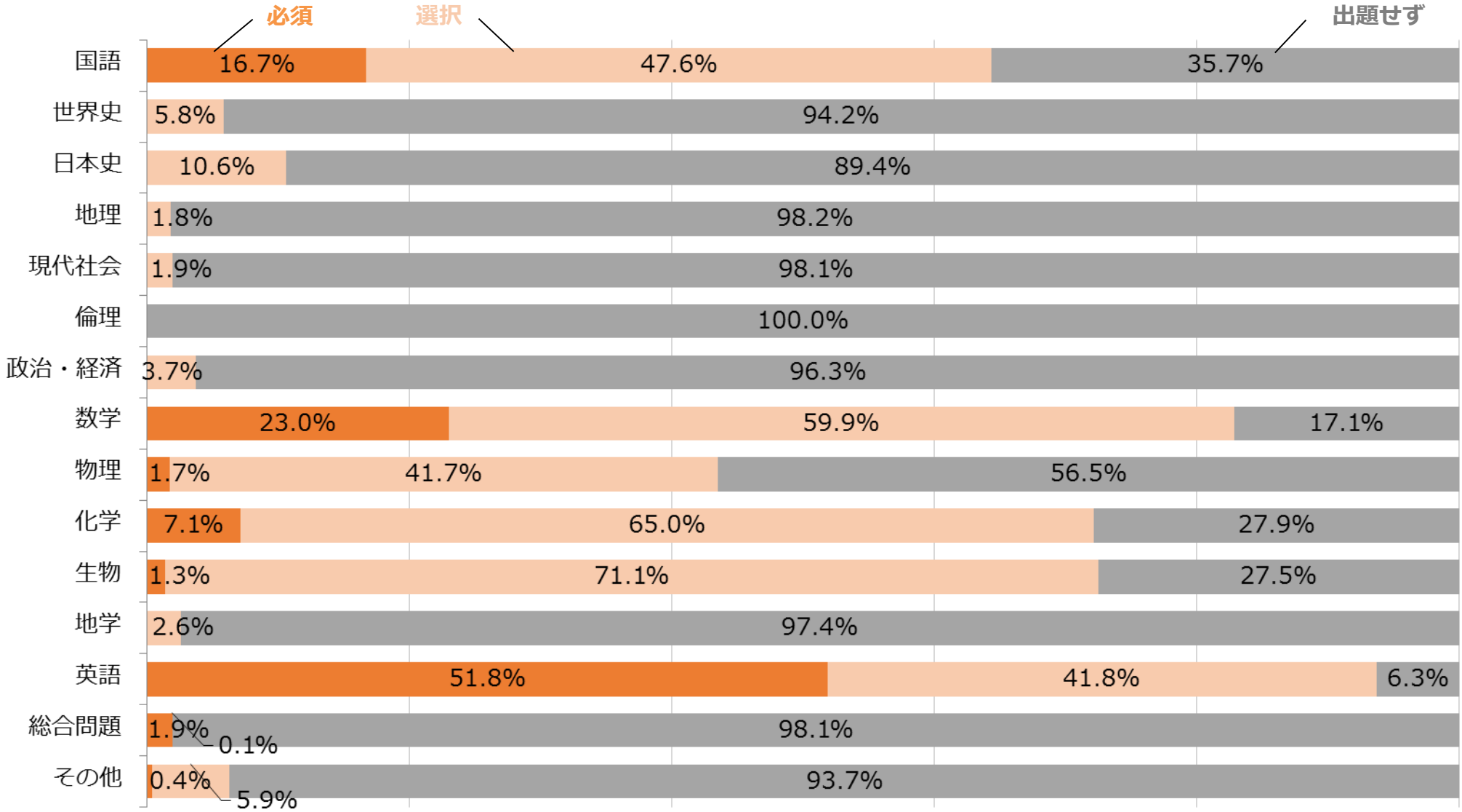


n=504選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑩（学科系統分類別／保健）

保健系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.6%）、数学（同 82.9%）、生物（同 72.4%）を出題する選抜区分が多い。

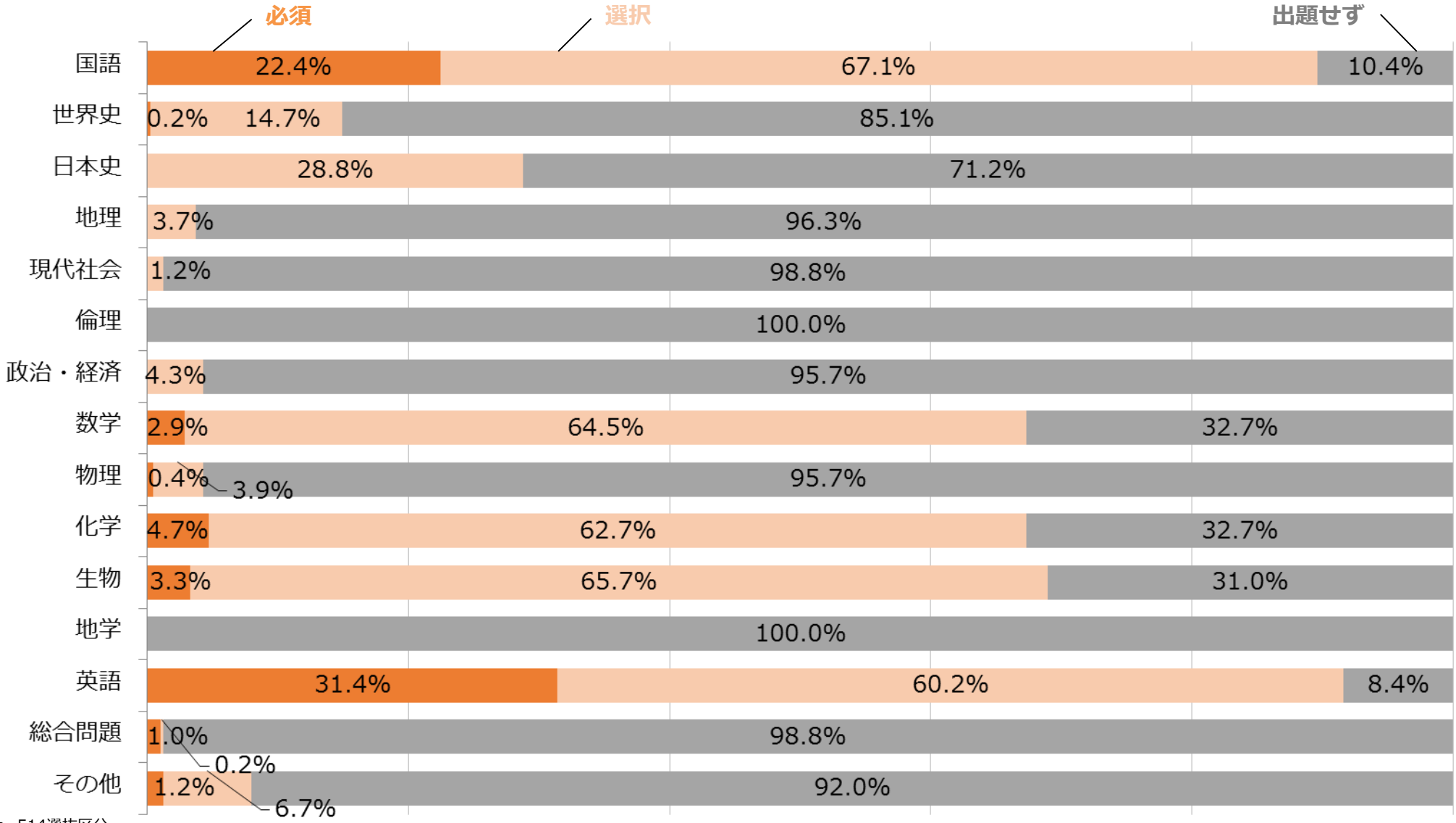


n=1,817選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑪（学科系統分類別／家政）

家政系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 91.6%）、国語（同 89.5%）、生物（同 69.0%）を出題する選抜区分が多い。

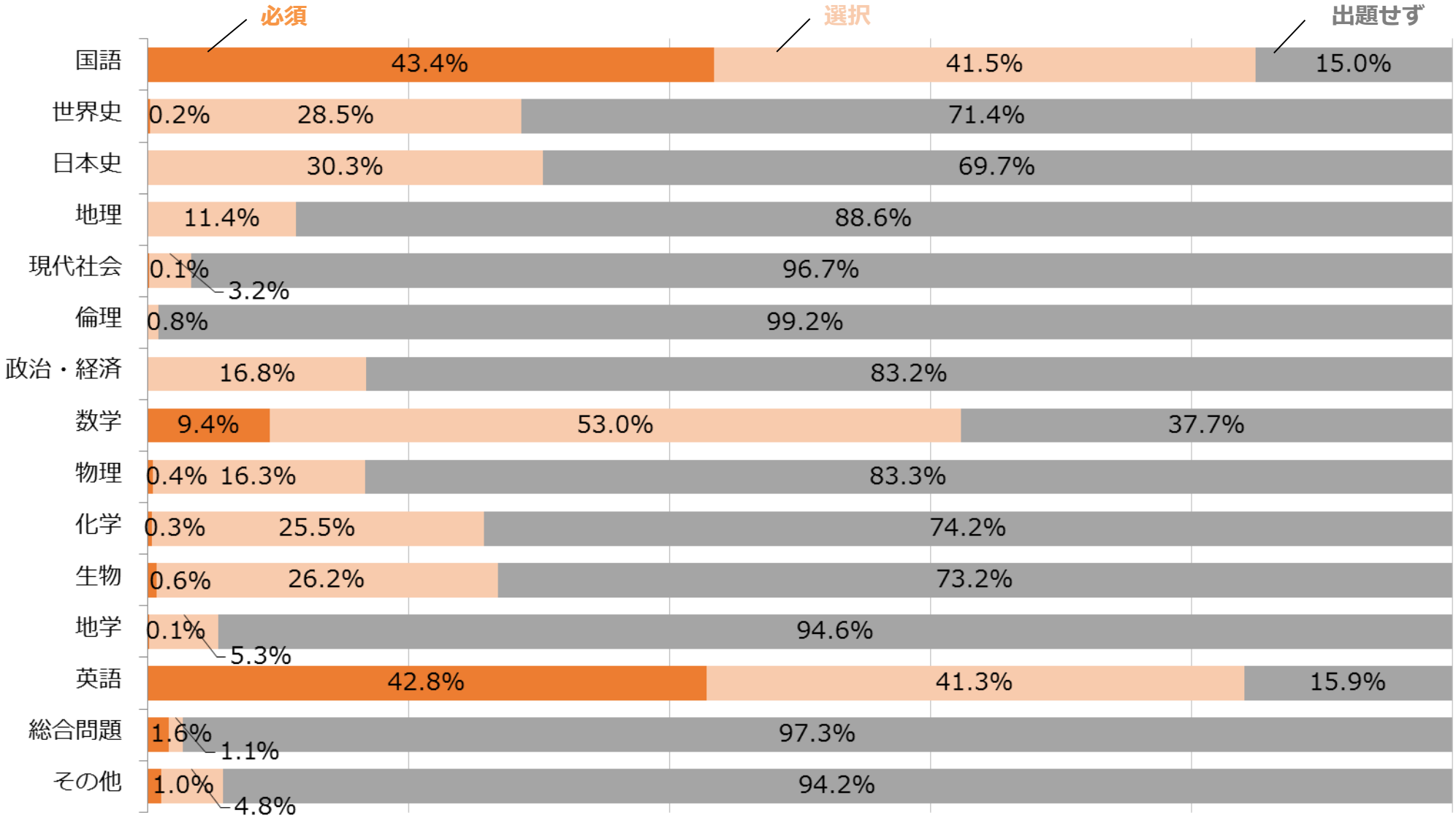


n=514選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑫（学科系統分類別／教育）

教育系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、国語（必須＋選択 84.9%）、英語（同 84.1%）、数学（同 62.4%）を出題する選抜区分が多い。

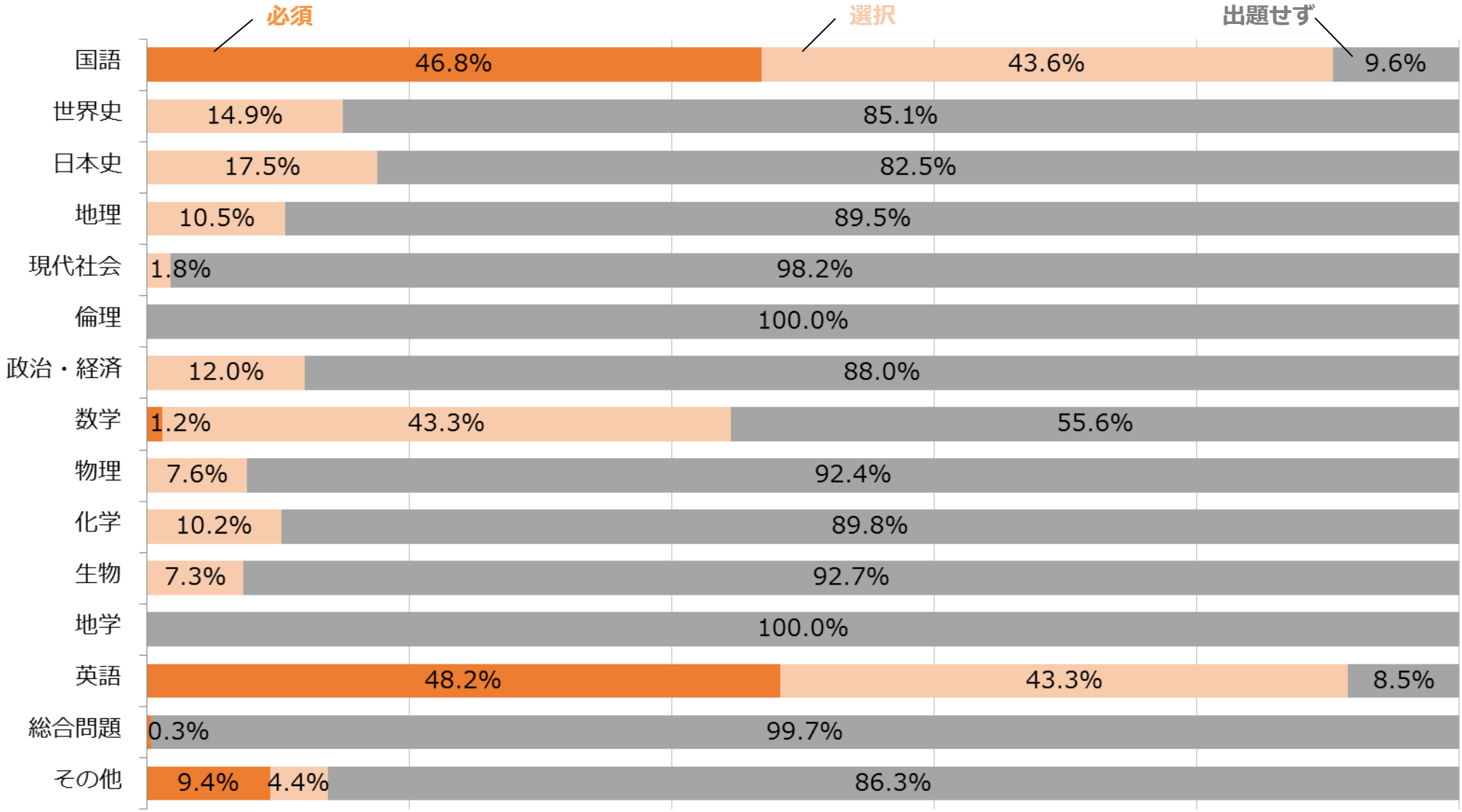


n=1,123選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑬（学科系統分類別／芸術）

芸術系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 91.5%）、国語（同 90.4%）、数学（同 44.5%）を出題する選抜区分が多い。

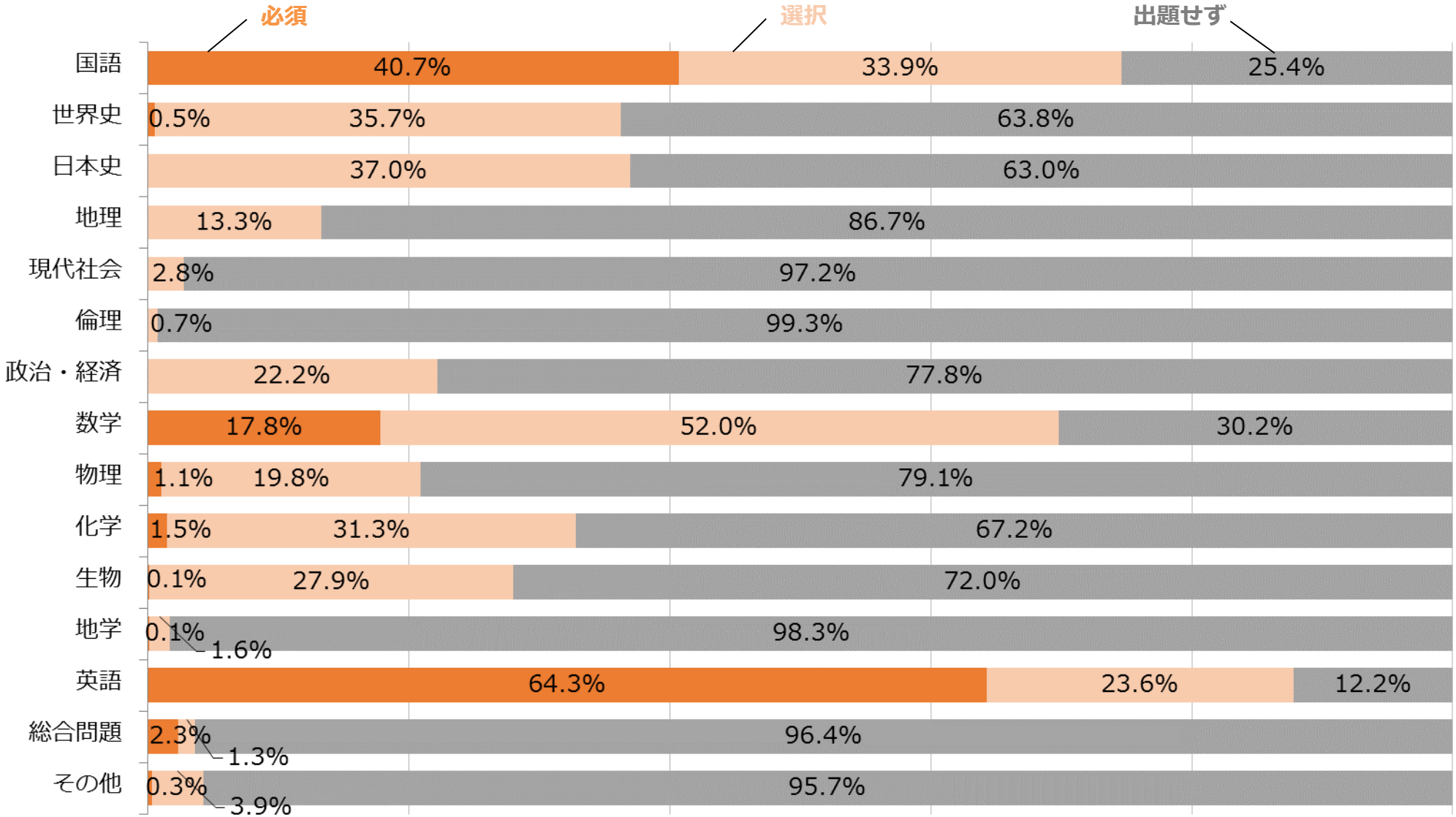


n=346選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑭（学科系統分類別／その他）

前記以外のその他の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 17.9%）、国語（同 74.6%）、数学（同 69.8%）を出題する選抜区分が多い。

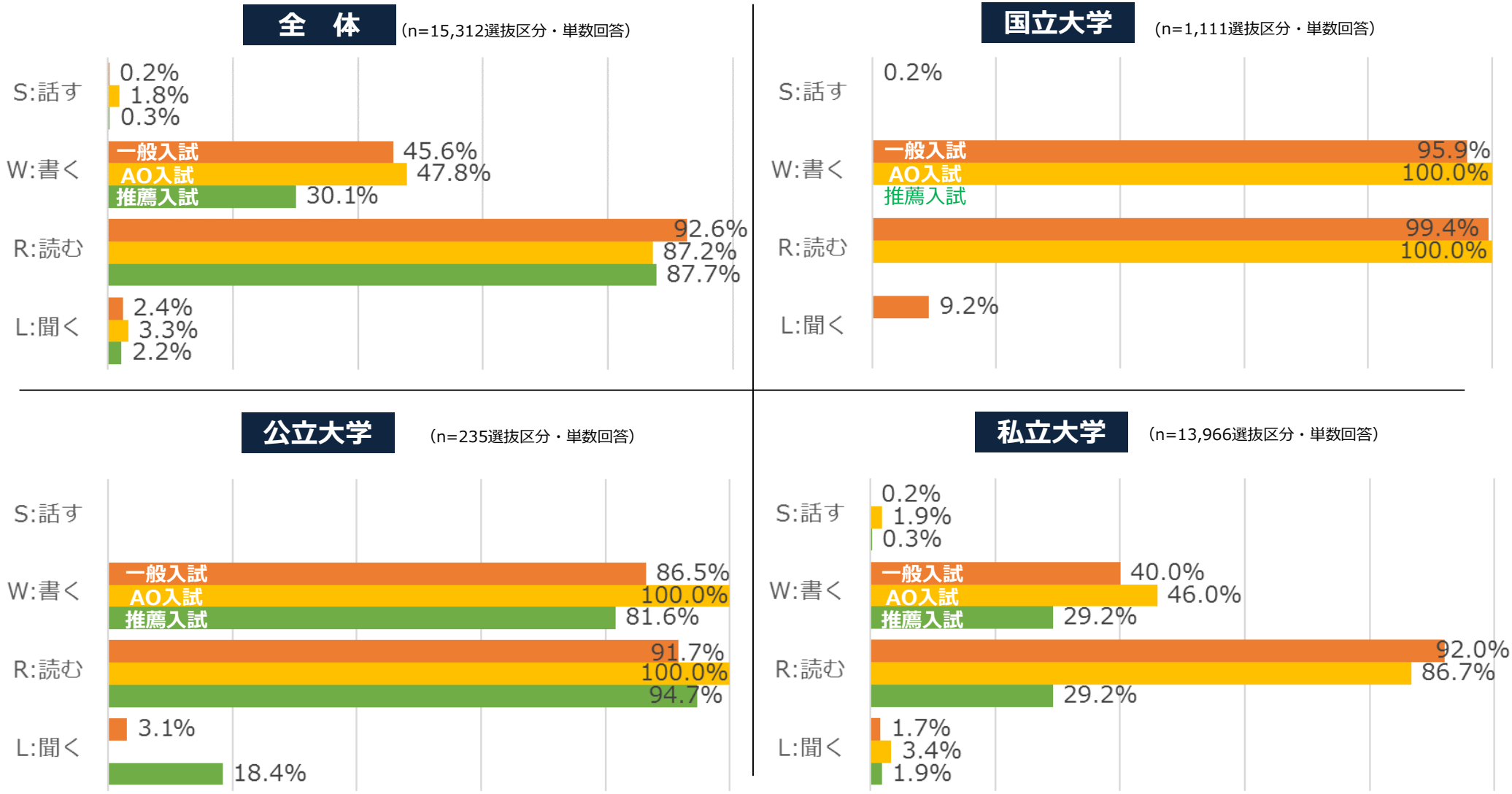


n=941選抜区分
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

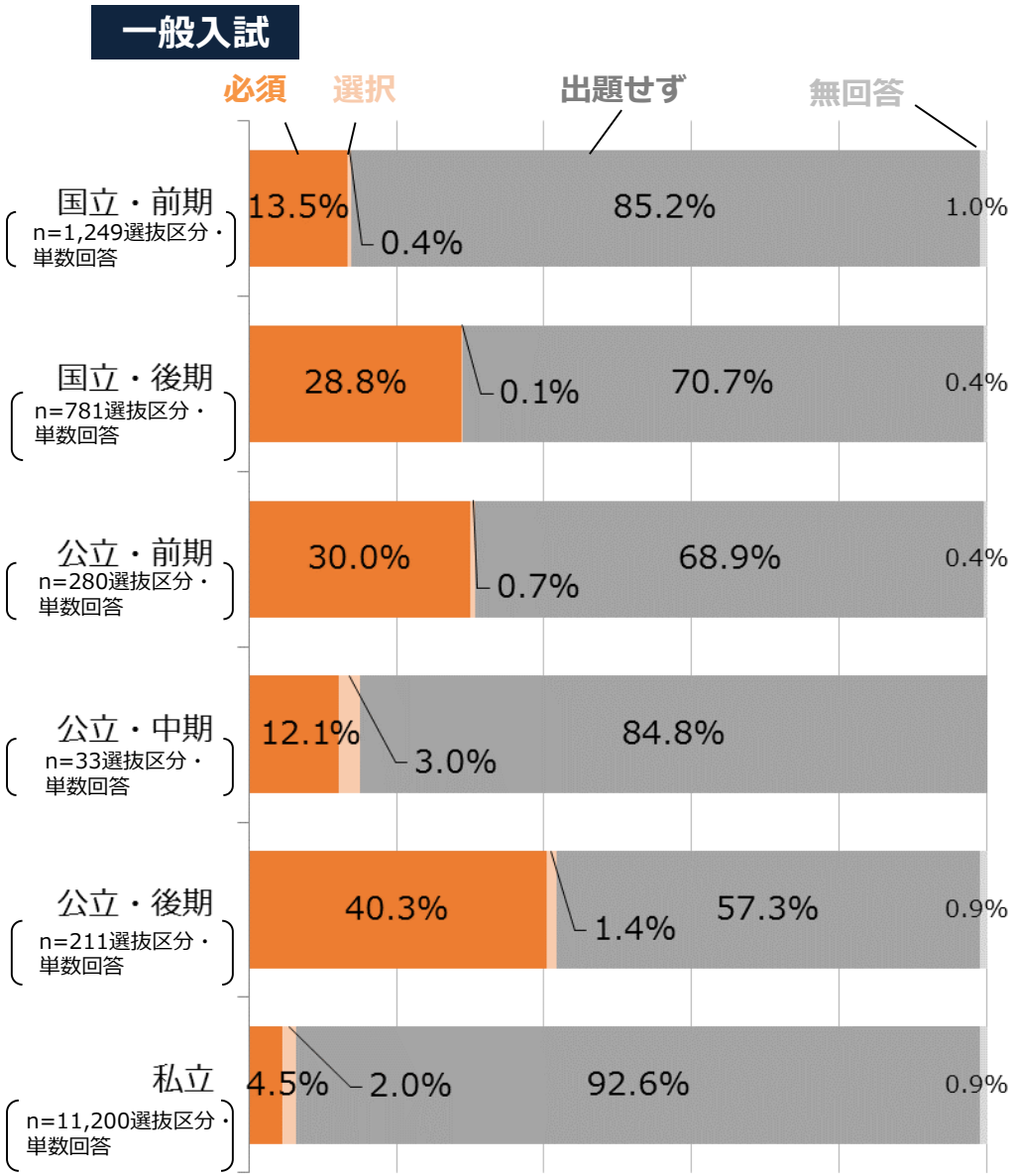
英語に係る技能別の出題の有無（国公私）

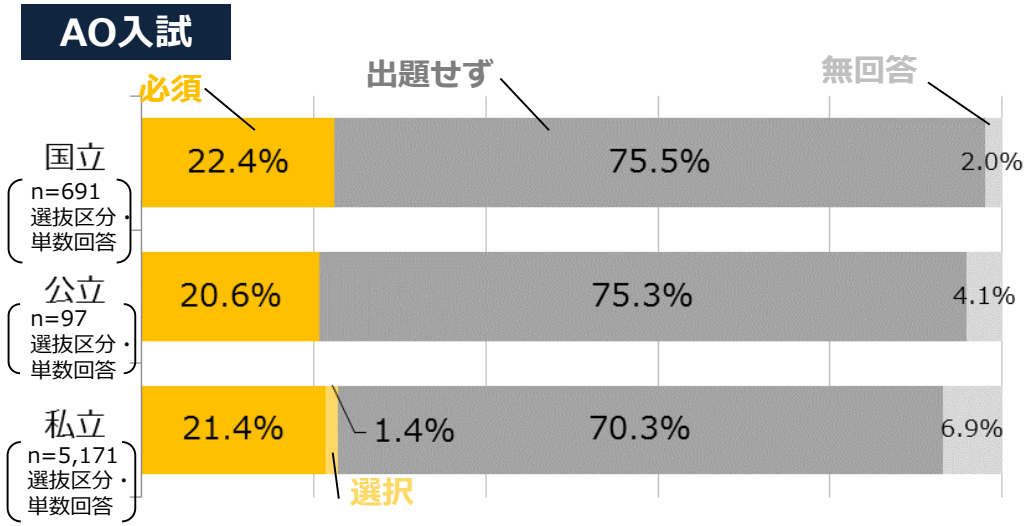
一般入試の個別学力検査「英語」では、「読むこと（例：筆記試験）」を92.6%、「書くこと（例：筆記試験（記述式）」を45.6%、「聞くこと（例：リスニングテスト）」を2.4%、「話すこと（例：スピーキングテスト）」を0.2%の選抜区分で出題している。

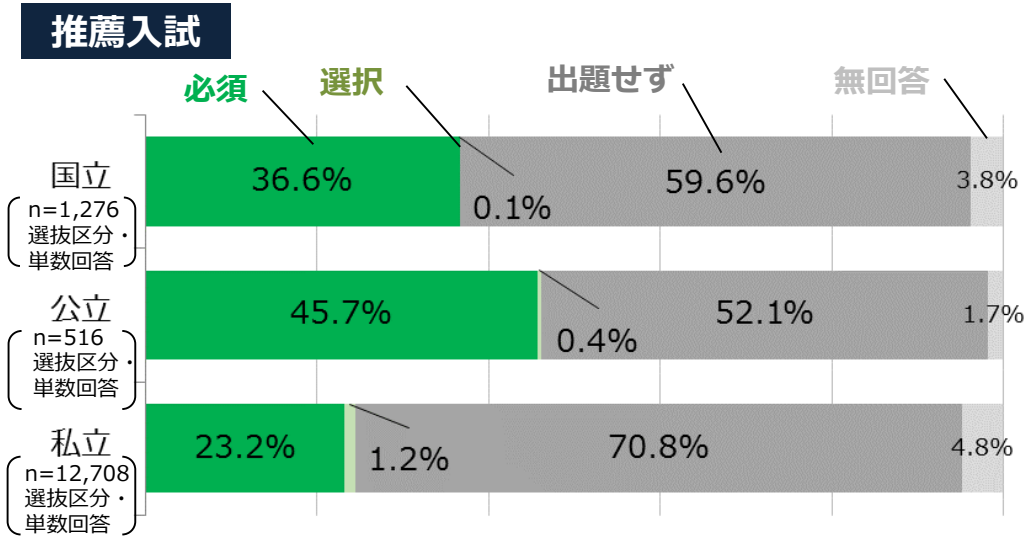


【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

小論文出題状況



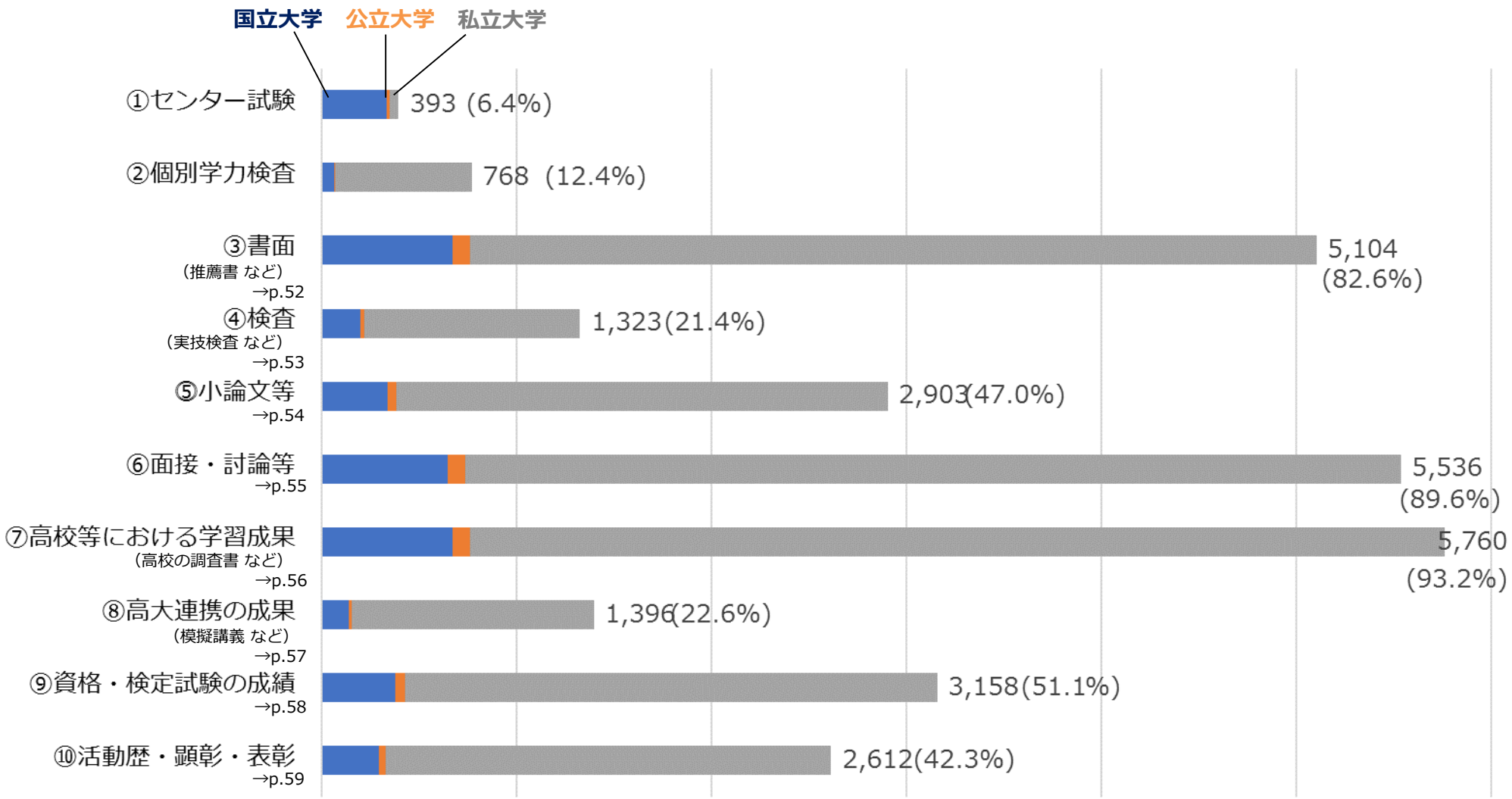




※本スライドにおける小論文は、試験科目として小論文を課すもののみを対象とし、
個別学力検査におけるテストの枝問として出題する小論文を含まない。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

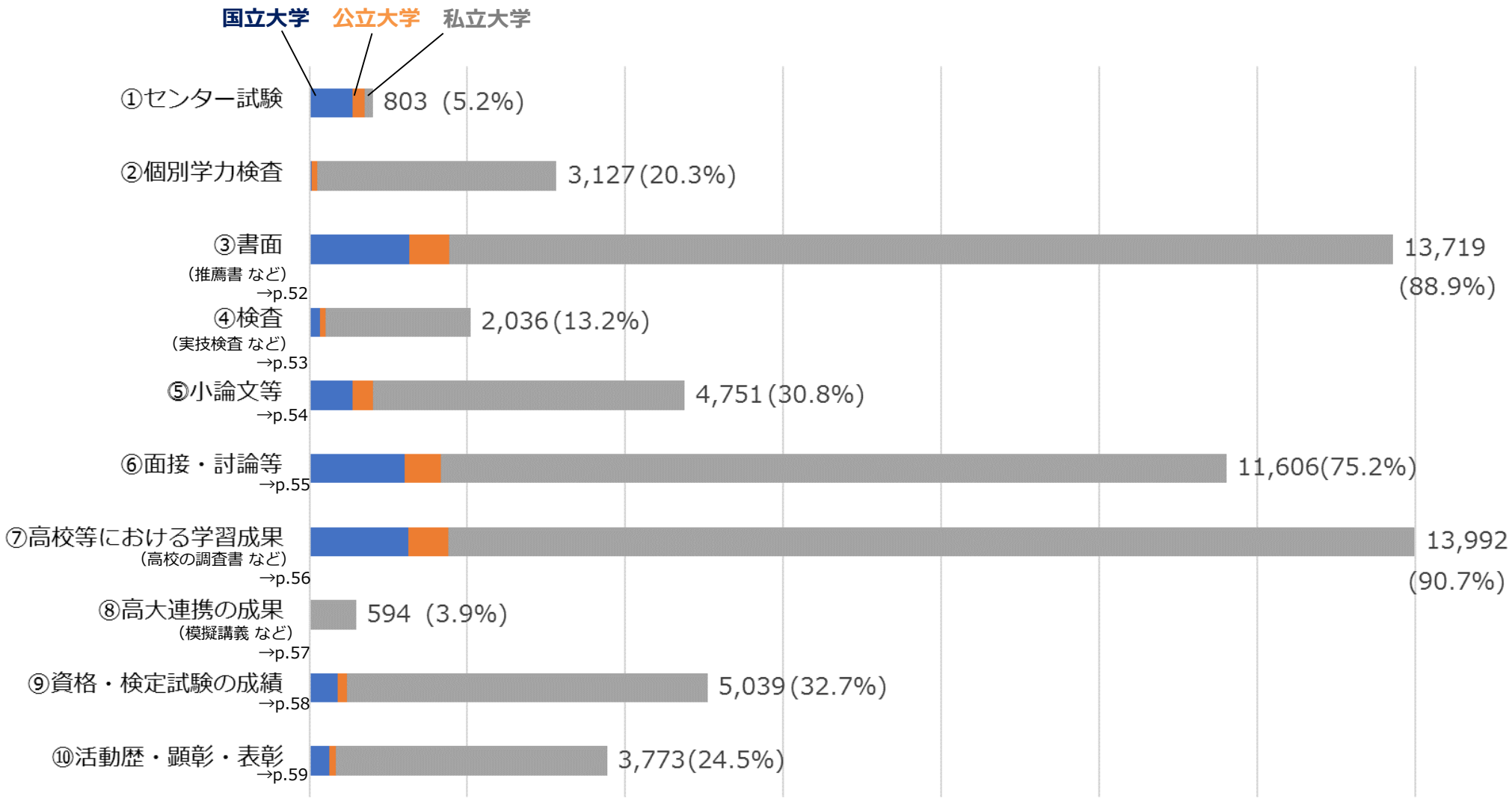
AO入試における学力把握措置



n=6,177選抜区分
複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

推薦入試における学力把握措置

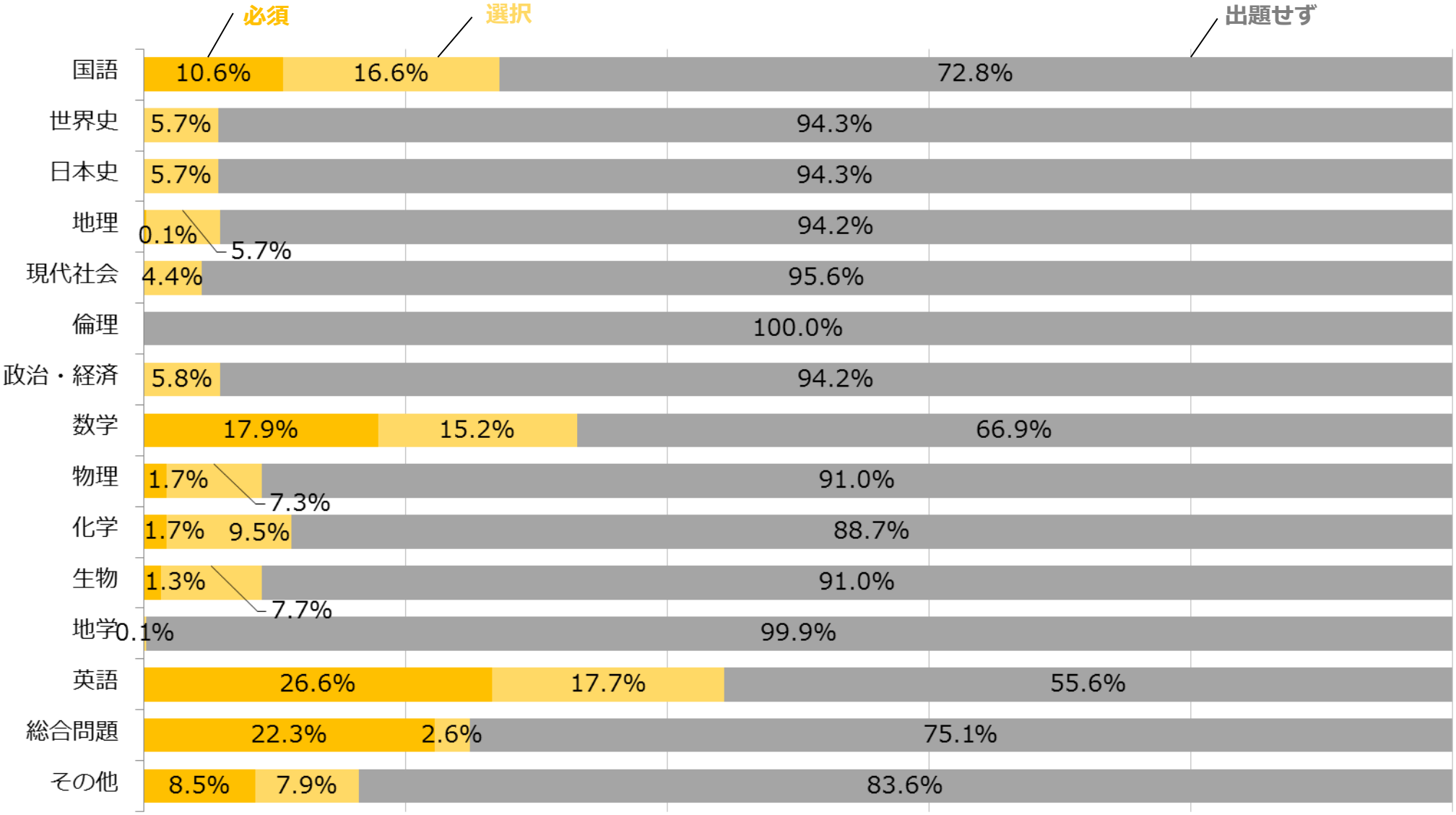


n=15,426選抜区分
複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況

AO入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 44.3%）、数学（同 33.1%）、国語（同 27.2%）を出題する選抜区分が多い。

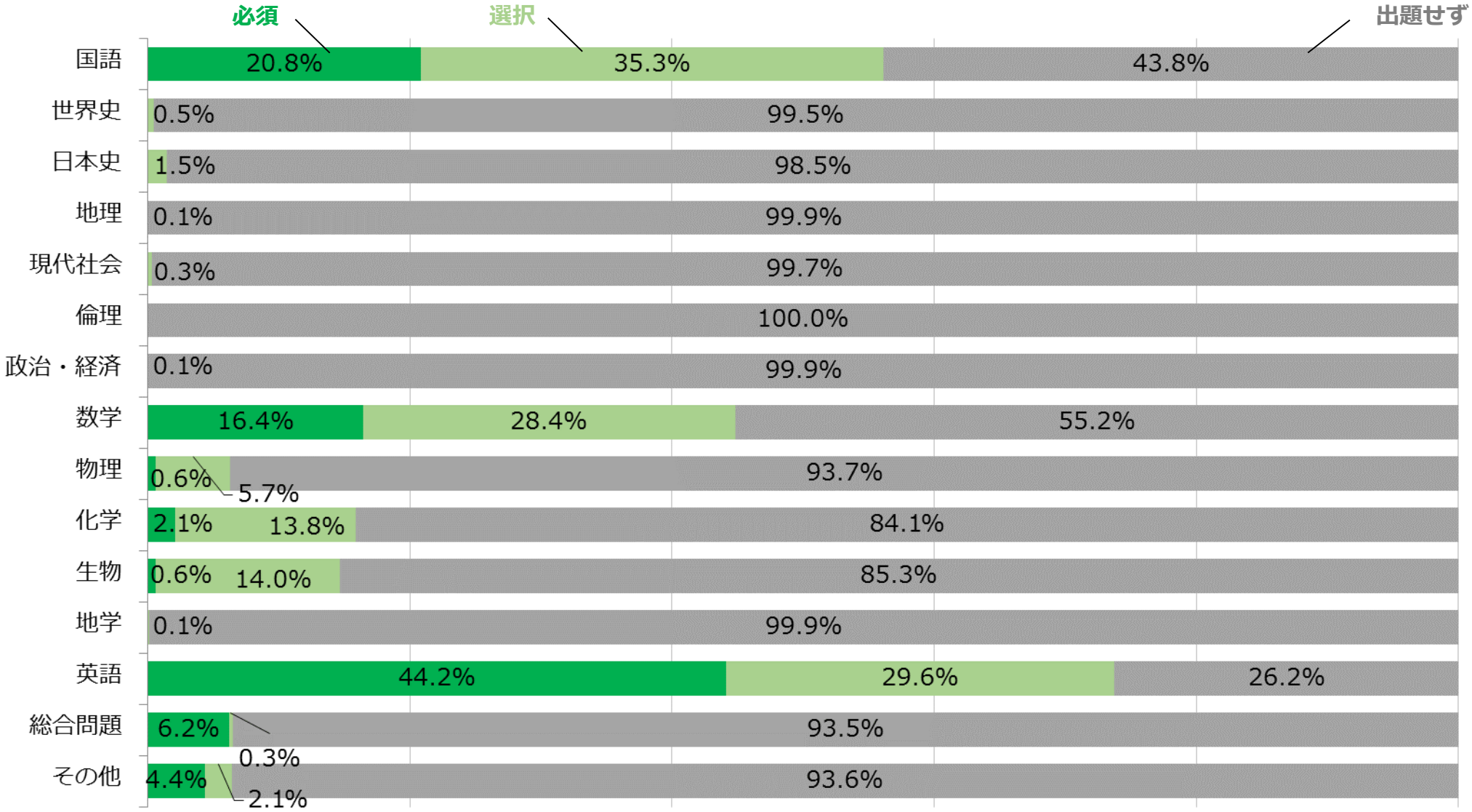


n=768選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況

推薦入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 73.8%）、国語（同 56.2%）、数学（同 44.8%）を出題する選抜区分が多い。



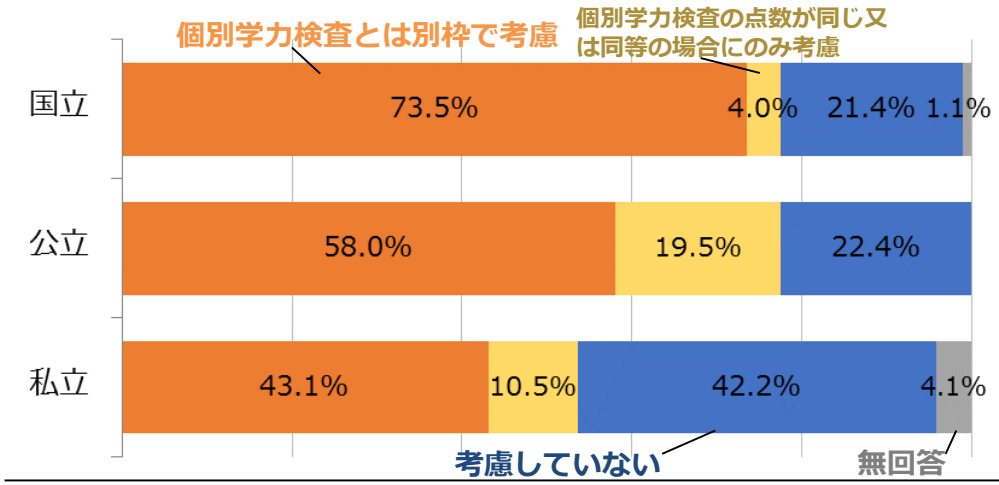
n=3,127選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

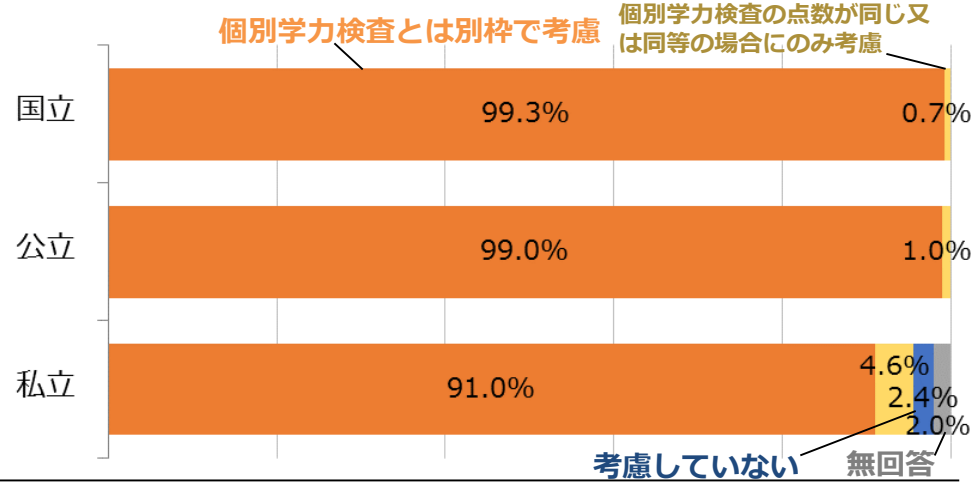
学力検査以外の資料等の考慮

学力検査以外の資料等については、一般入試よりAO入試・推薦入試で活用されている。

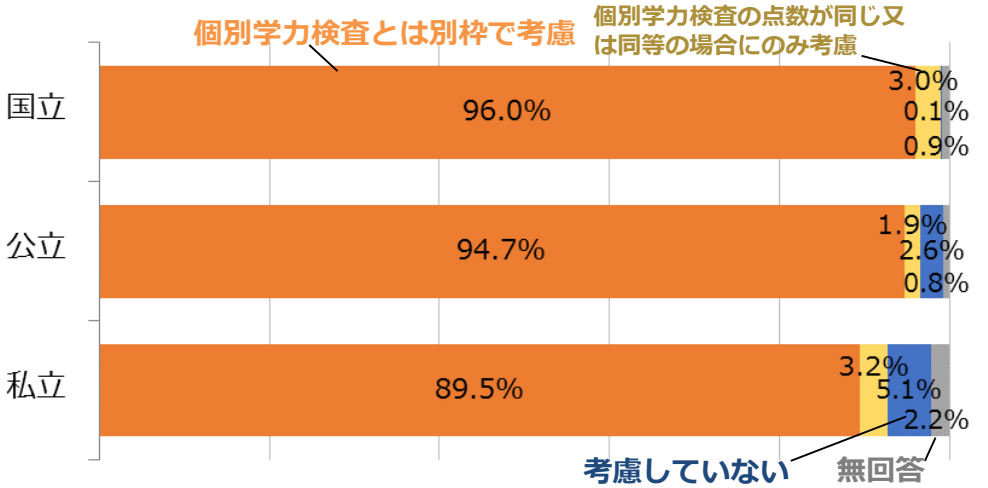
一般入試（n=24,076選抜区分・単数回答）



AO入試（n=6,195選抜区分・単数回答）



推薦入試（n=15,498選抜区分・単数回答）



【各選抜区分数】

○一般入試
国立：n= 2,622選抜区分
公立：n= 691選抜区分
私立：n=20,763選抜区分

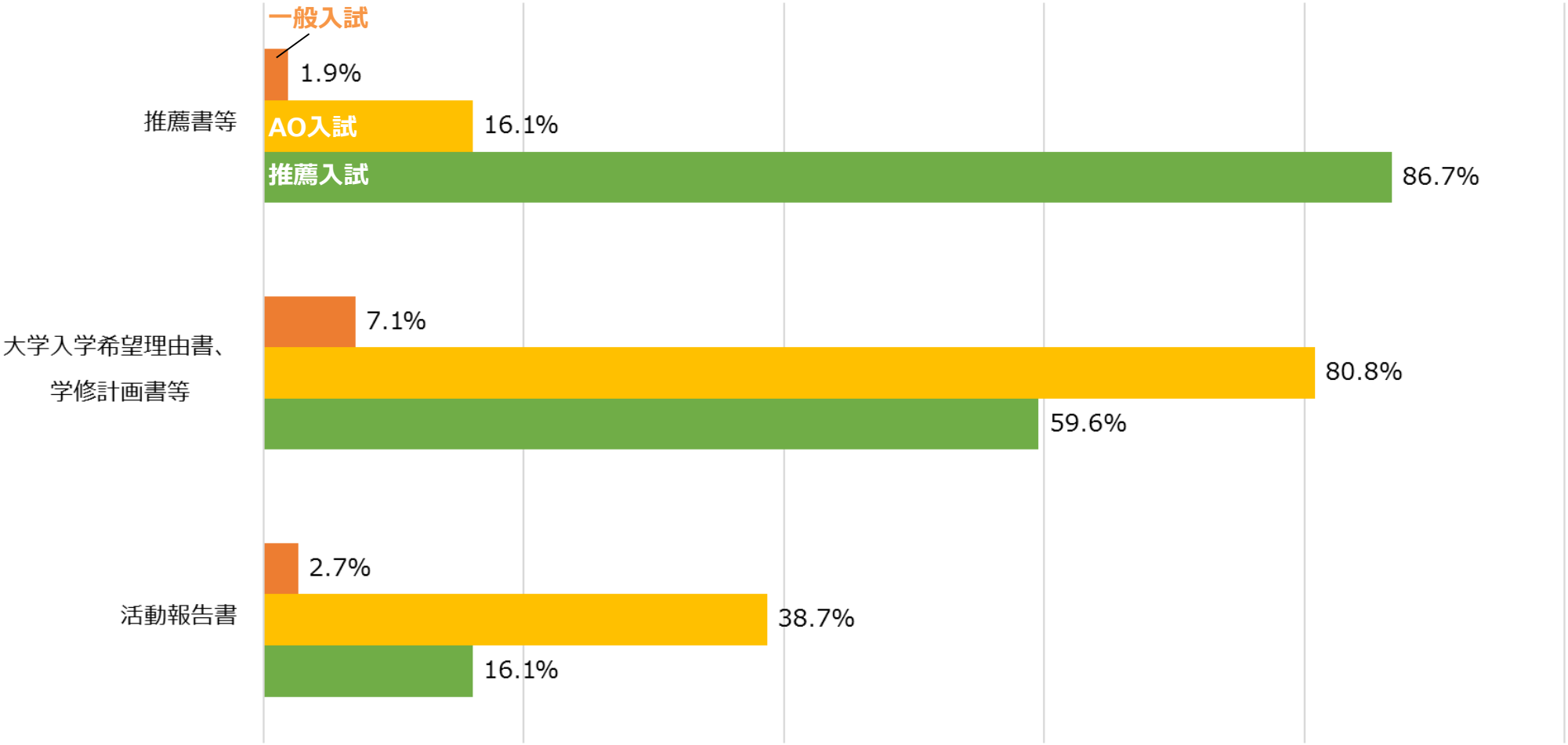
○AO入試
国立：n= 691選抜区分
公立：n= 97選抜区分
私立：n=5,407選抜区分

○推薦入試
国立：n= 1,288選抜区分
公立：n= 532選抜区分
私立：n=13,678選抜区分

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率①（書面）

- 推薦書等を利用(※)する選抜区分は、一般入試が1.9%、AO入試が16.1%、推薦入試が86.7%である。
- 大学入学希望理由書、学習計画書等を利用する選抜区分は、一般入試が7.1%、AO入試が80.8%、推薦入試が59.6%である。
- 活動報告書を利用する選抜区分は、一般入試が2.7%、AO入試が38.7%、推薦入試が16.1%である。



※利用とは、当該資料を加点や換算を含む得点、総合評価、参考資料、出願資格として扱うことを指す（以下同じ）。

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率②（検査）

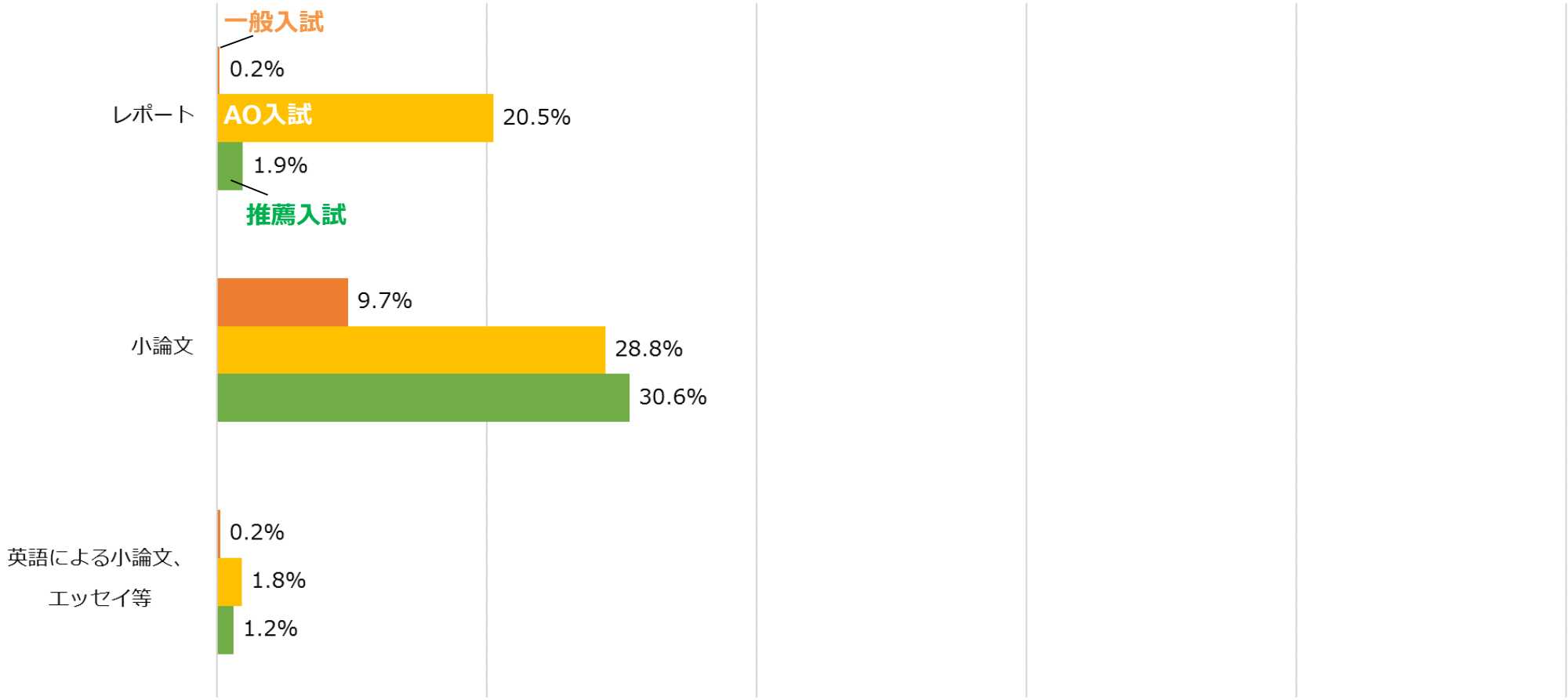
- 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査を利用する選抜区分は、一般入試が3.1%、AO入試が15.4%、推薦入試が9.0%である。
- 適性検査を利用する選抜区分は、一般入試が0.8%、AO入試が1.6%、推薦入試が2.3%である。
- 実技検査を利用する選抜区分は、一般入試が5.1%、AO入試が5.9%、推薦入試が3.7%である。

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率③（小論文等）

- レポートを利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が20.5%、推薦入試が1.9%である。
- 小論文を利用する選抜区分は、一般入試が9.7%、AO入試が28.8%、推薦入試が30.6%である。
- 英語による小論文、エッセイ等を利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が1.8%、推薦入試が1.2%である。

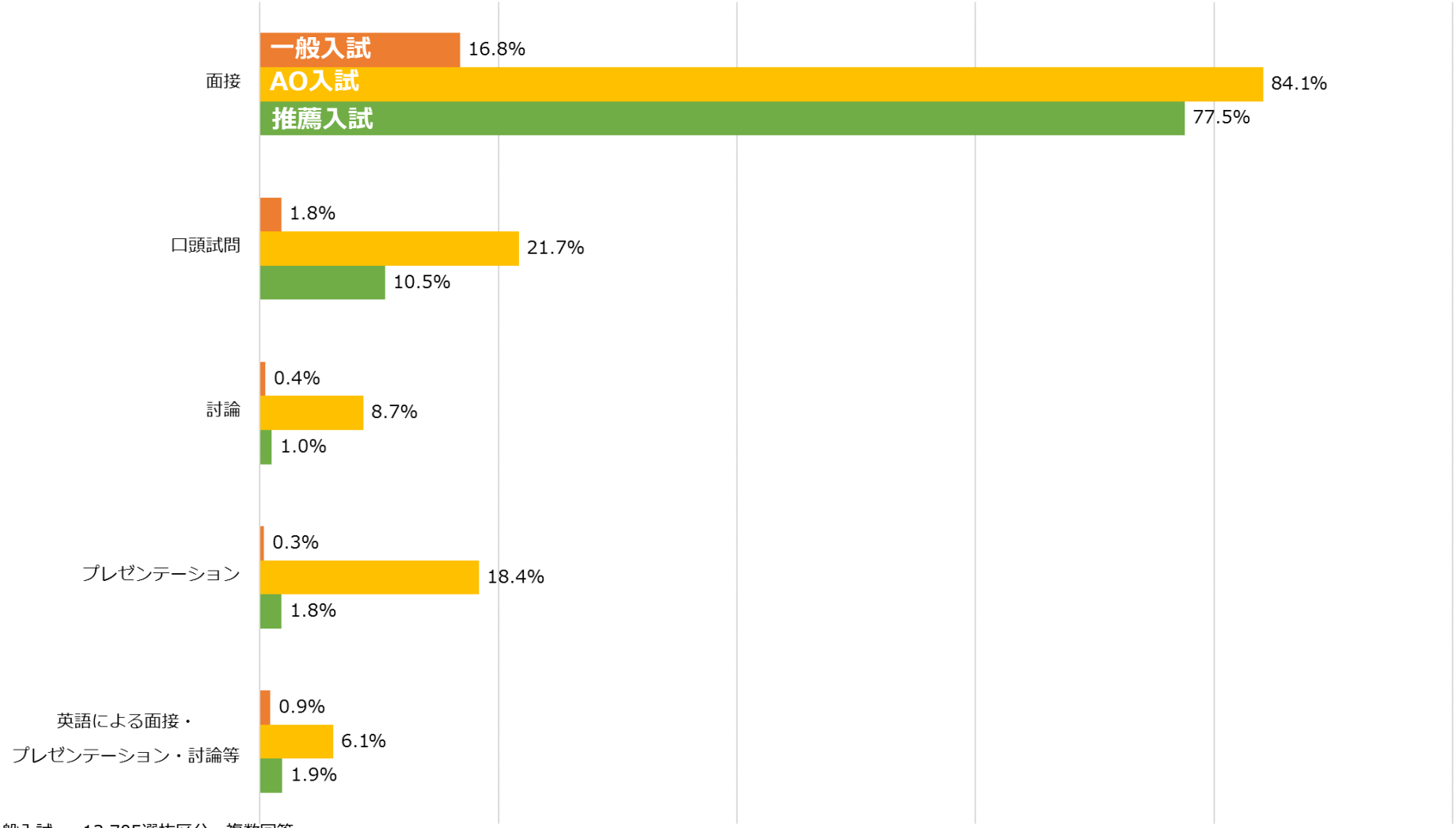


一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率④（面接・討論等）

- 面接を利用する選抜区分は、一般入試が16.8%、AO入試が84.1%、推薦入試が77.5%である。
- 口頭試問を利用する選抜区分は、一般入試が1.8%、AO入試が21.7%、推薦入試が10.5%である。
- 討論、プレゼンテーションなどは、AO入試での利用が多い。

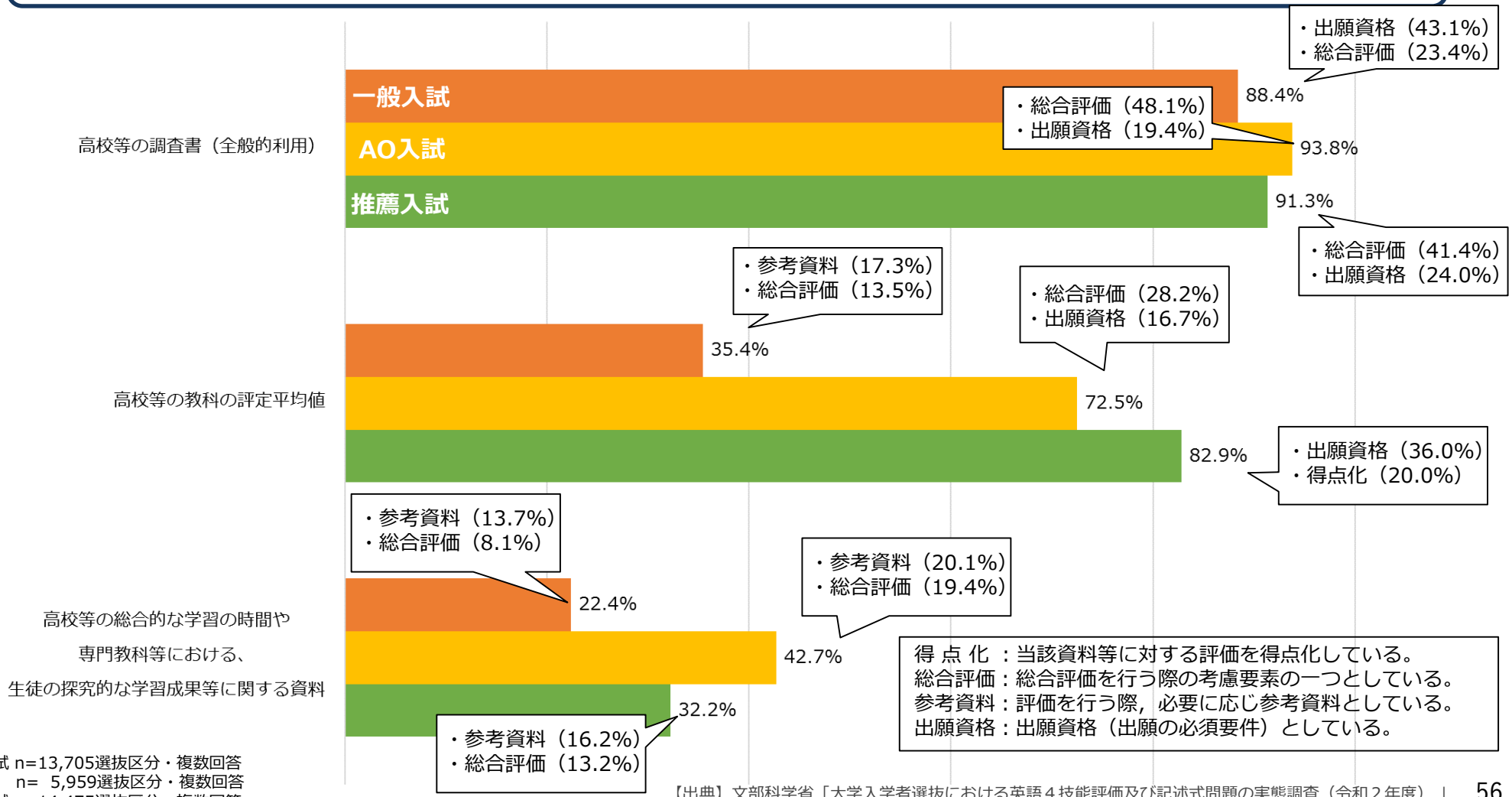


一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑤（高校等における学習成果）

- 高校の調査書を利用する選抜区分は、一般入試が88.4%、AO入試が93.8%、推薦入試が91.3%である。
- 調査書のうち教科の評定平均値を利用する選抜区分は、一般入試が35.4%、AO入試が72.5%、推薦入試が82.9%である。
- 生徒の探究的な学習成果等に関する資料を利用する選抜区分は、一般入試が22.4%、AO入試が42.7%、推薦入試が32.2%である。

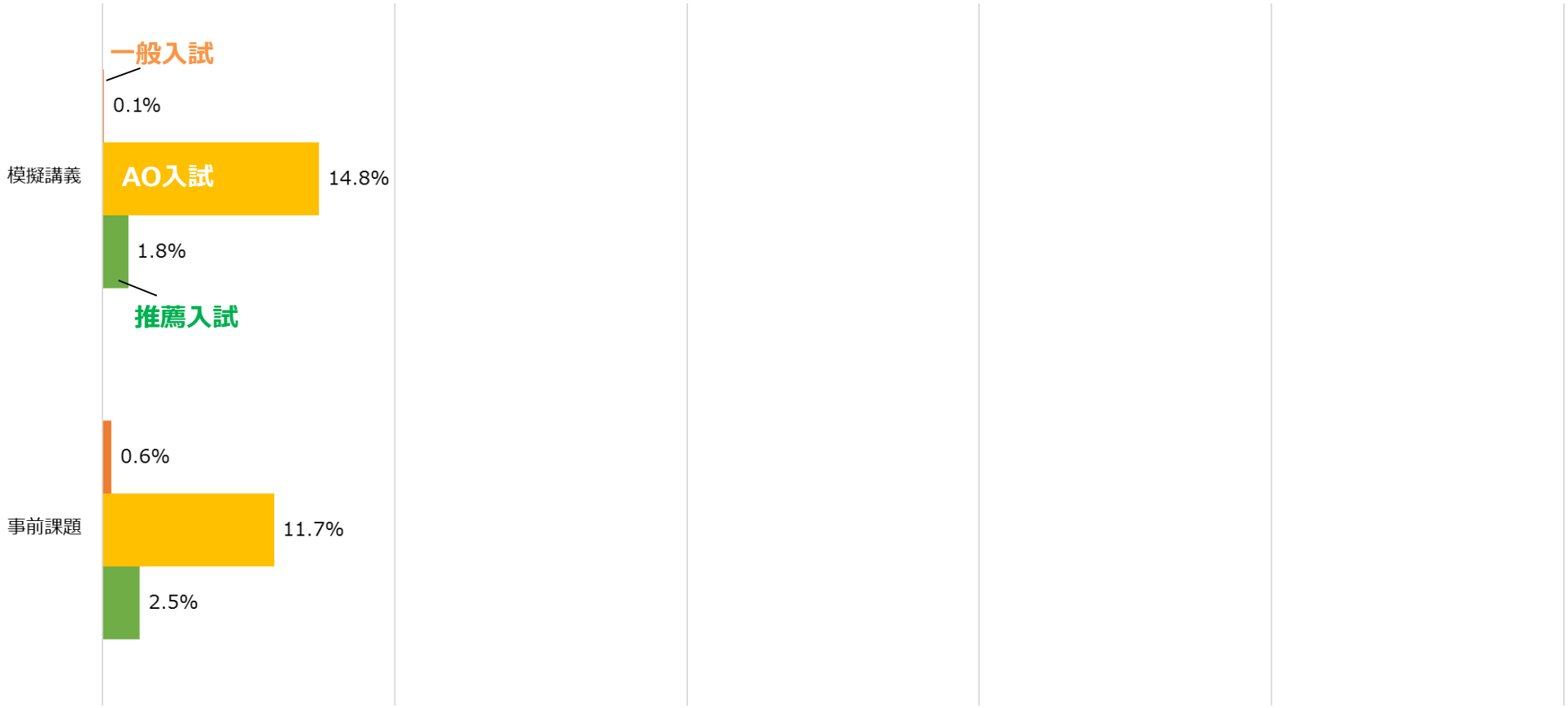


一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑥（高大連携の成果）

- 模擬講義を利用する選抜区分は、一般入試が0.1%、AO入試が14.8%、推薦入試が1.8%である。
- 事前課題を利用する選抜区分は、一般入試が0.6%、AO入試が11.7%、推薦入試が2.5%である。



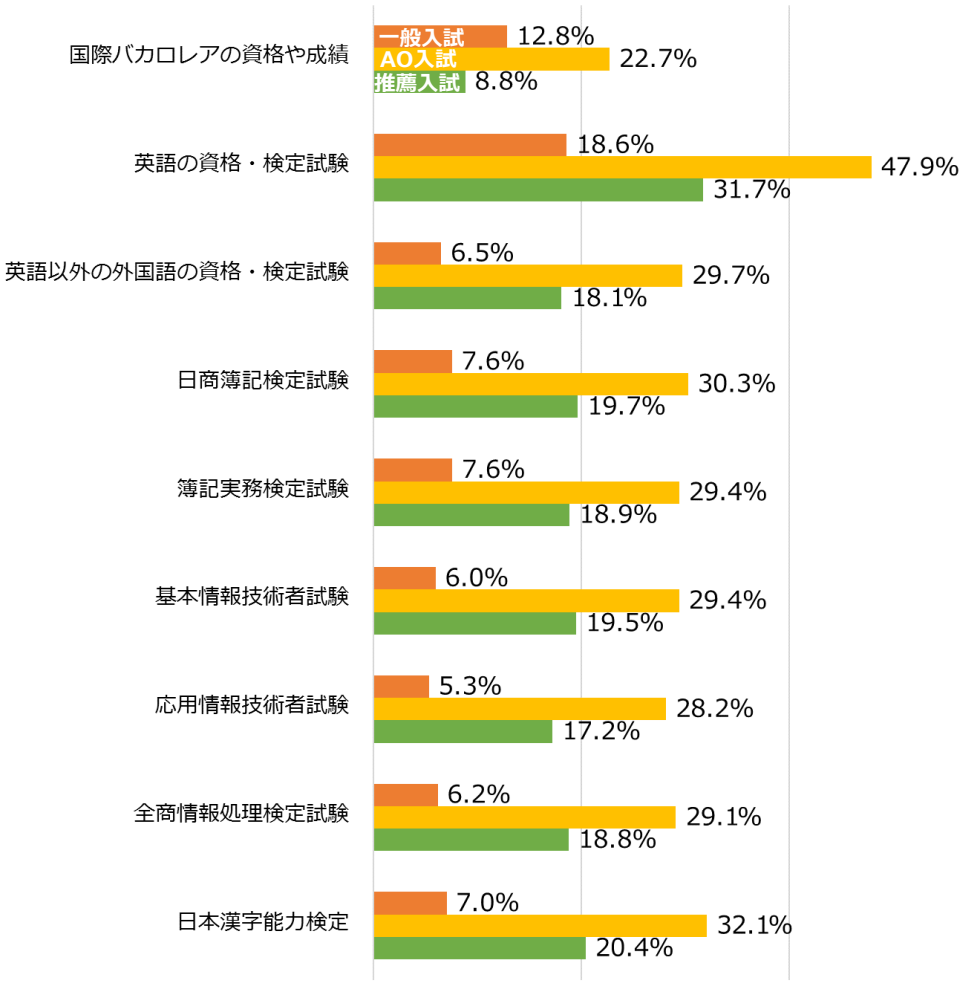
※ 模擬講義は、模擬講義等（実験等を含む）を受講することを要件とする選抜方法。また、模擬講義等の理解力等を問うレポート等も含む。
※ 事前課題は、予め受験生に課題を示した上で、後日回答（作品等を含む）を回収する選抜方法。

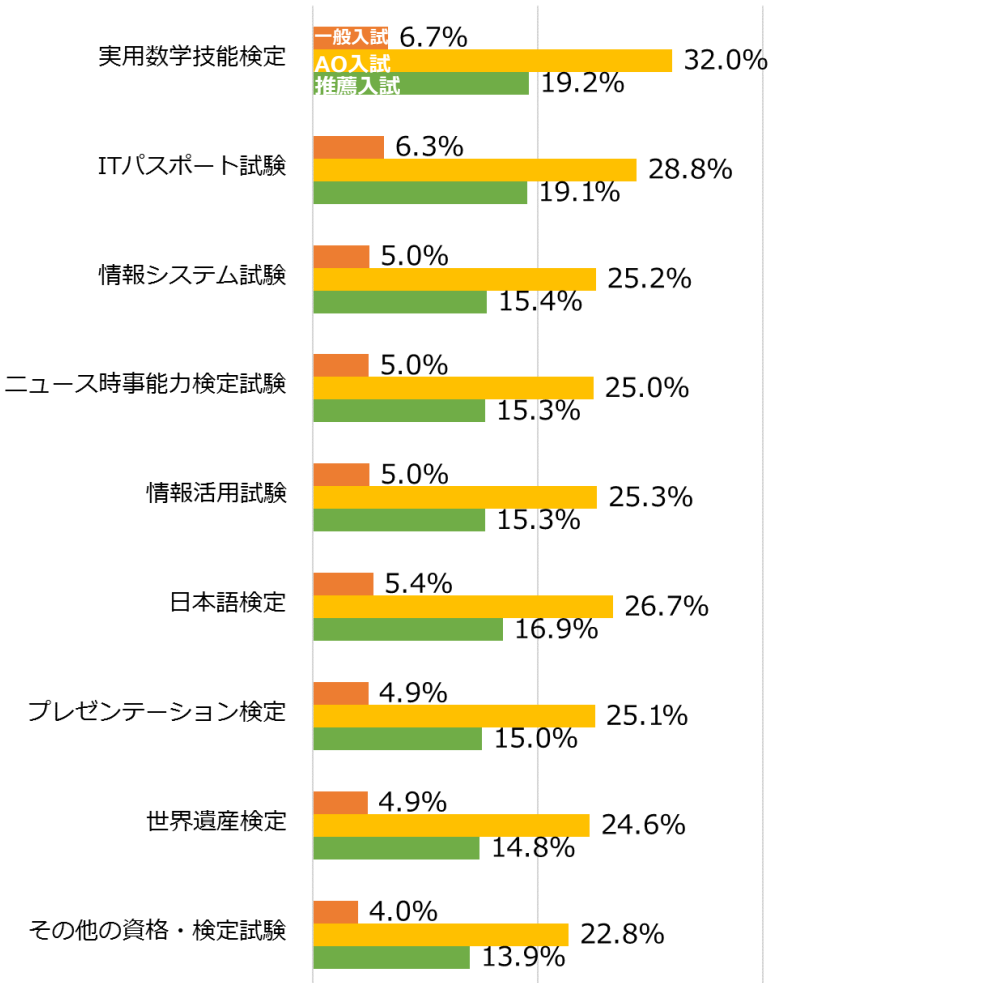
一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑦（資格・検定試験の成績）

英語の資格・検定試験を利用する選抜区分は、一般入試が18.6%、AO入試が47.9%、推薦入試が31.7%である。





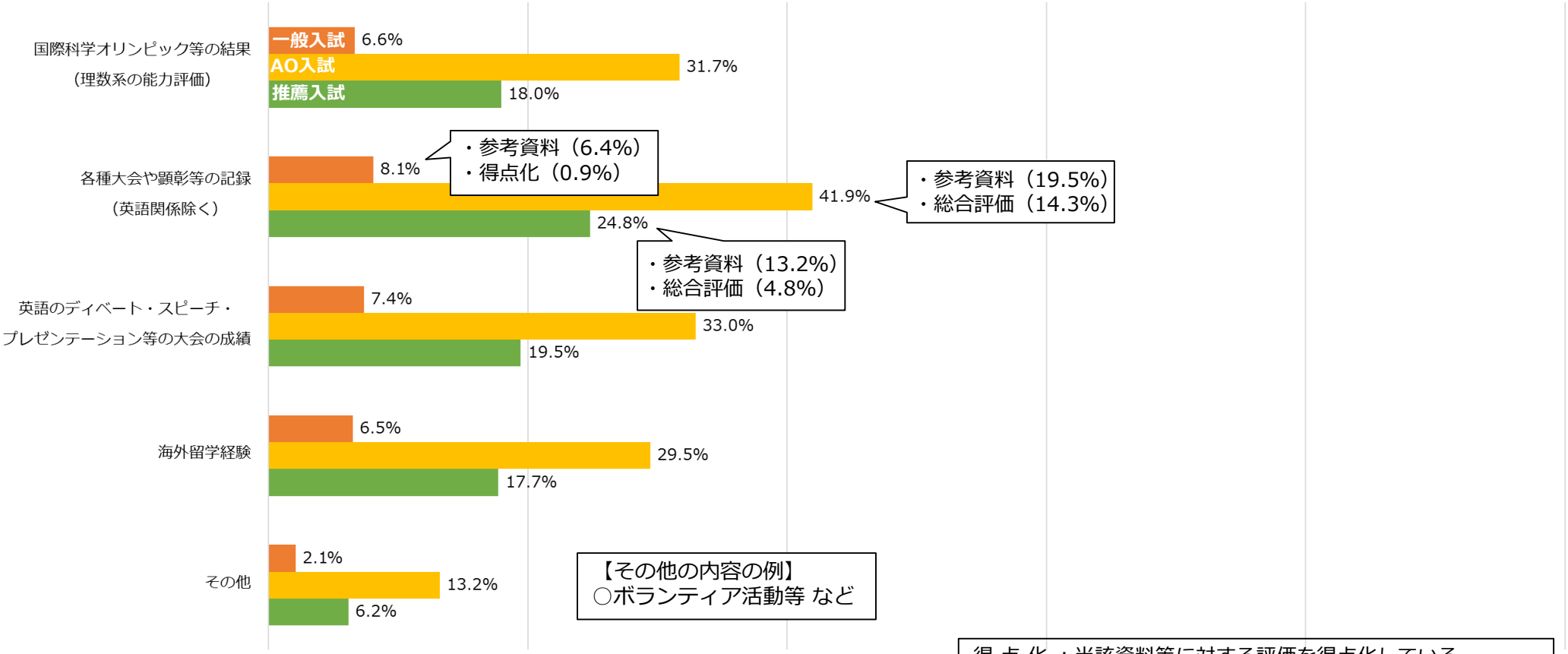
【その他の資格・検定試験の例】
○珠算　○書道　○全経簿記能力検定　○全商商業経済検定　など

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑧（活動歴・顕彰・表彰）

- 各種大会や顕彰等を利用する選抜区分は、一般入試が１割未満、AO入試が３～４割程度、推薦入試が２割程度である。



得 点 化 ：当該資料等に対する評価を得点化している。
総合評価：総合評価を行う際の考慮要素の一つとしている。
参考資料：評価を行う際，必要に応じ参考資料としている。
出願資格：出願資格（出願の必須要件）としている。

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答
AO入試　n=　5,959選抜区分・複数回答
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

主な調査項目（英語資格・検定試験の活用の実態）

共通事項

２．センター試験の利用の実態

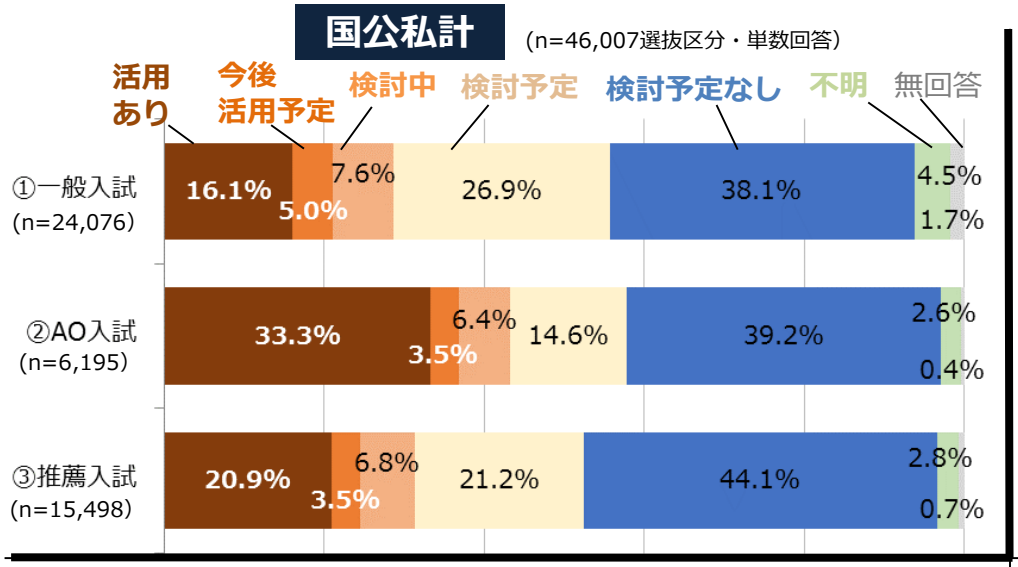
３．個別選抜の実態

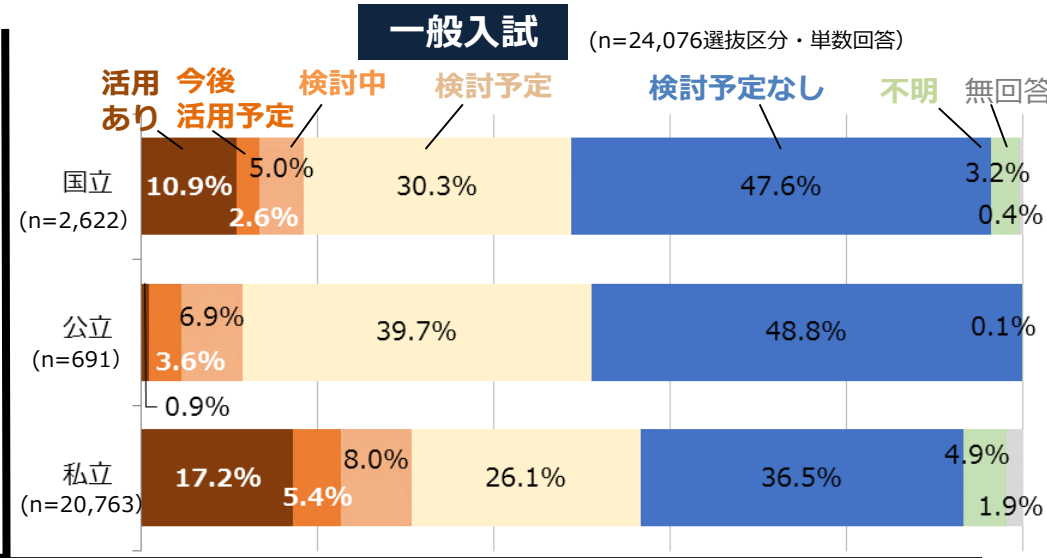
４．英語資格・検定試験の活用の実態

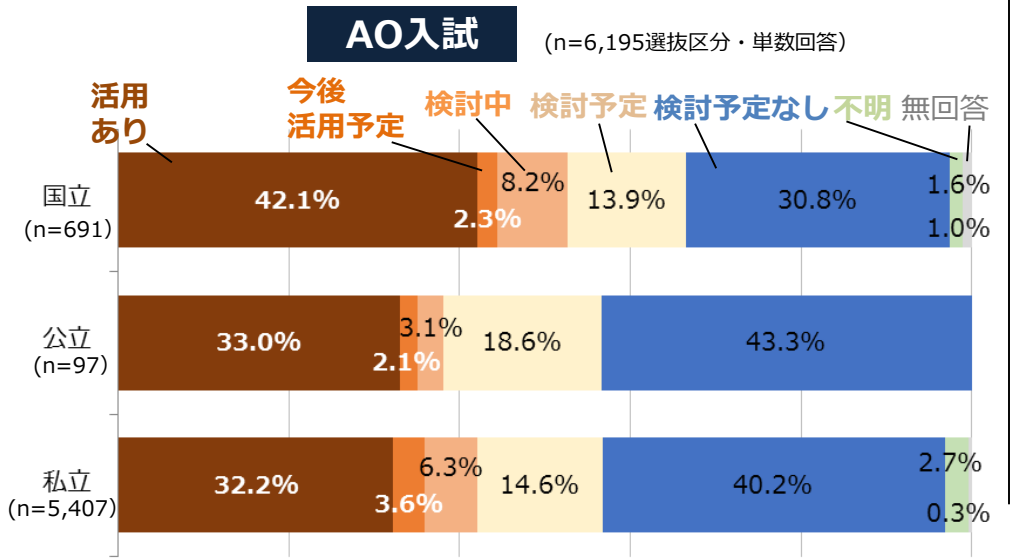
・英語資格・検定試験活用の有無 61
・英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数 63
・英語資格・検定試験活用方法 67
・利用可能な英語資格・検定試験 70
・複数の英語資格・検定試験が利用可能な場合にスコアを比較する方法 73
・英語資格・検定試験の有効期限 74
・英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置 75

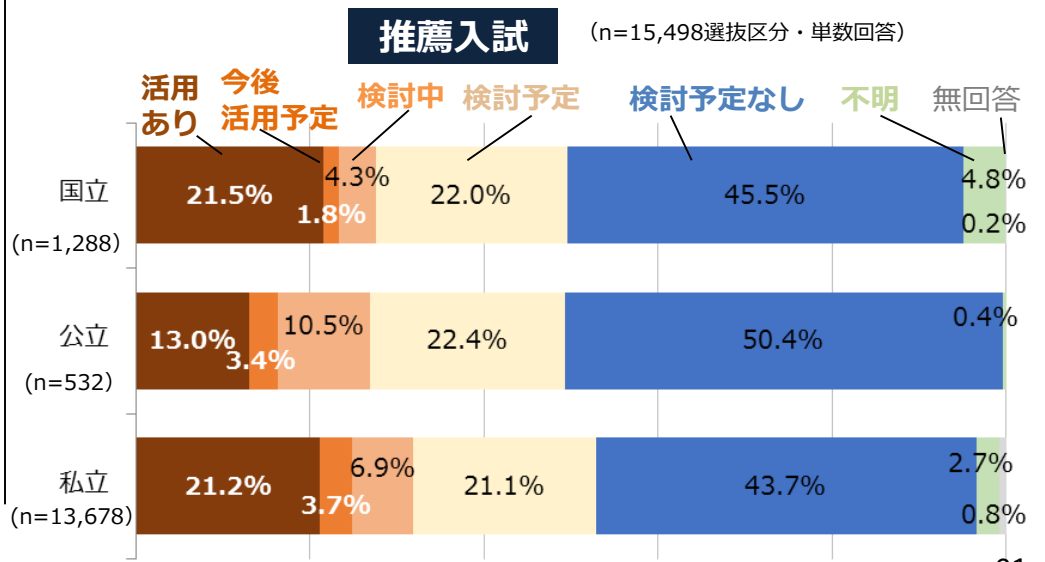
英語資格・検定試験活用の有無①（国公私）

英語の資格・検定試験の活用（活用あり＋活用予定）は、一般入試で21.1%、AO入試が36.8%、推薦入試が24.4%であり、検討（検討中＋検討予定）は、一般入試で34.5%、AO入試が21.0%、推薦入試が28.0%である。





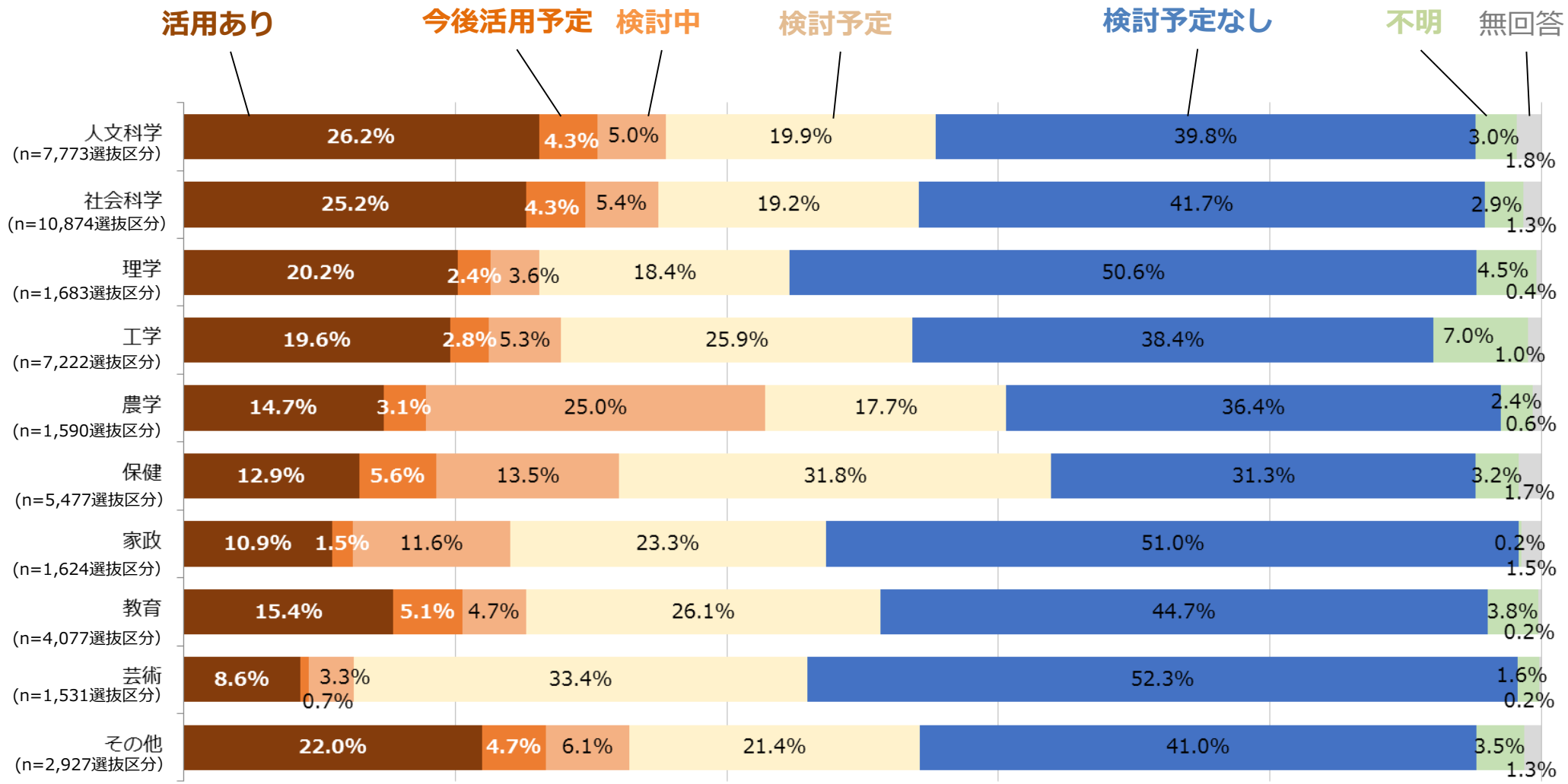




【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用の有無②（学科系統分類）

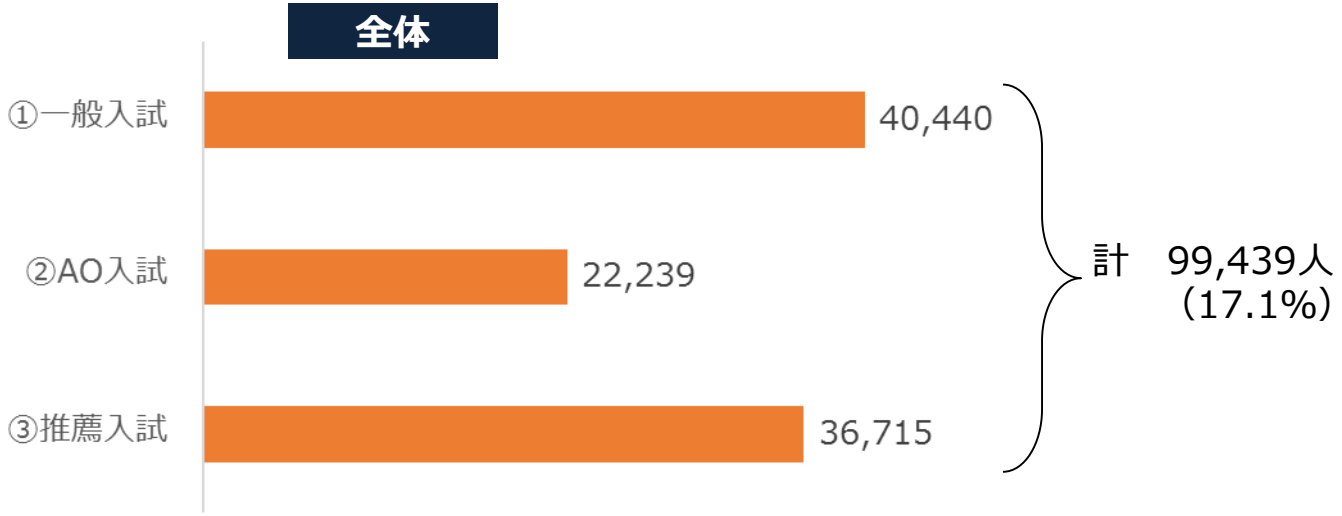
英語の資格・検定試験の活用率を学科系統分類別でみると、活用（活用あり＋活用予定）としているのが、多い順に、人文科学（30.5%）、社会科学（29.5%）、理学（22.6%）である。



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

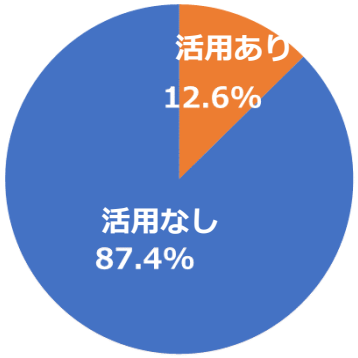
英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数①

令和２年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が40,440人、AO入試が22,239人、推薦入試が36,715人の計99,439人である。

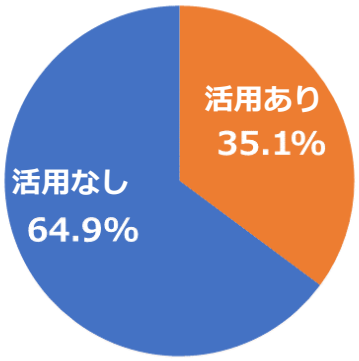


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】※ 全入学者数は延べ582,427人（うち、952人分は入試方法が無回答）

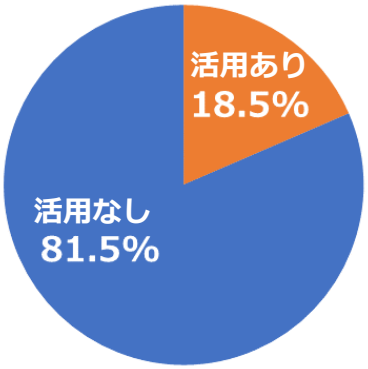
①一般入試 (n=319,689人)



②AO入試 (n=63,281人)



③推薦入試 (n=198,505人)

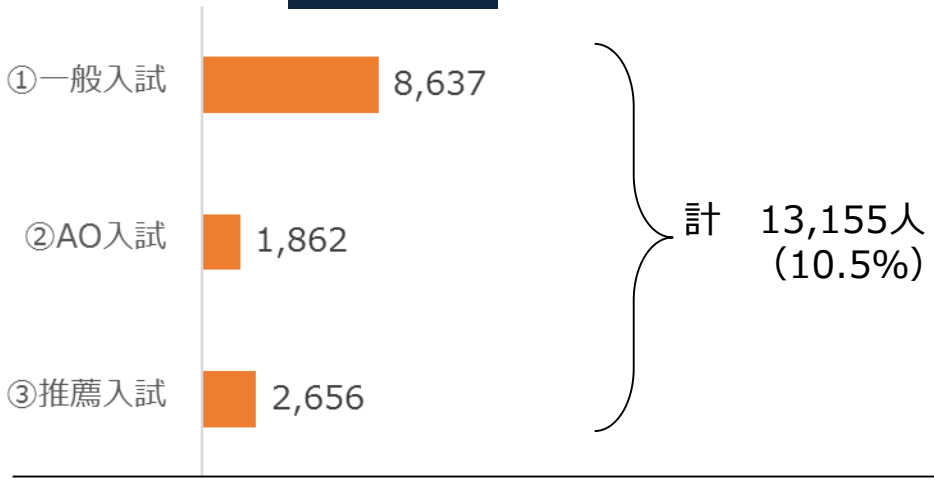


【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数②（国立大学）

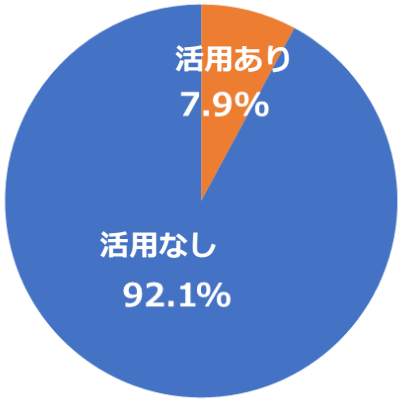
国立大学における令和２年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が8,637人、AO入試が1,862人、推薦入試が2,656人の計13,155人である。

国立大学

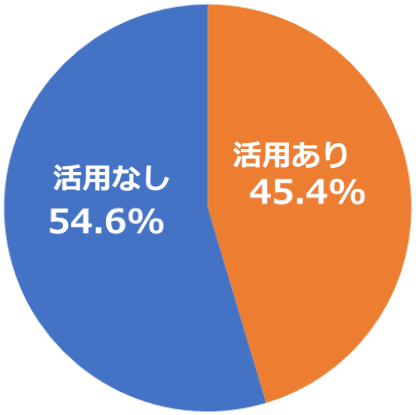


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】※ 全入学者数は延べ124,939人（うち、32人分は入試方法が無回答）

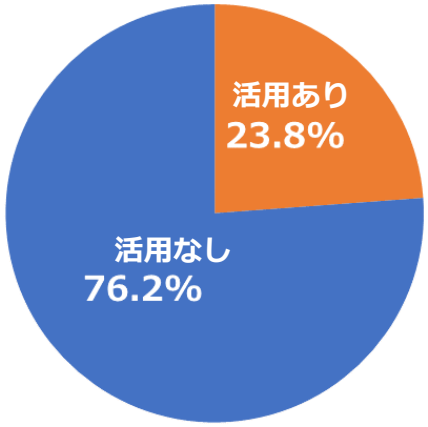
①一般入試（n=109,659人）



②AO入試（n=4,103人）



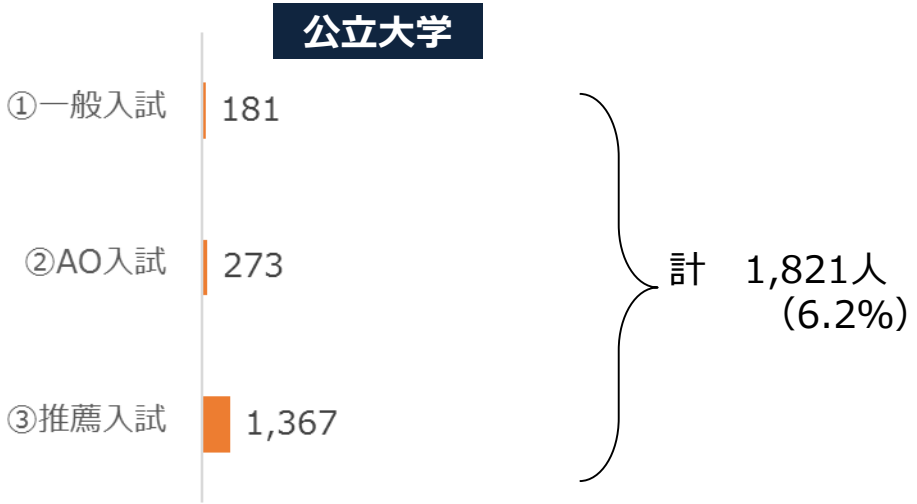
③推薦入試（n=11,145人）



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

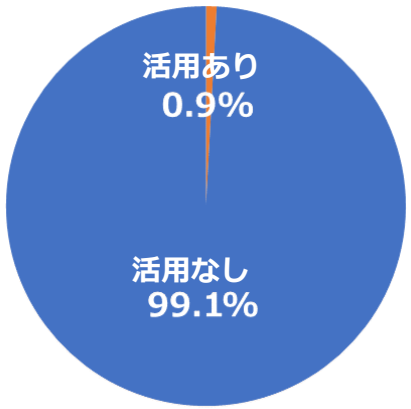
英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数③（公立大学）

公立大学における令和２年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が181人、AO入試が273人、推薦入試が1,367人の計1,821人である。

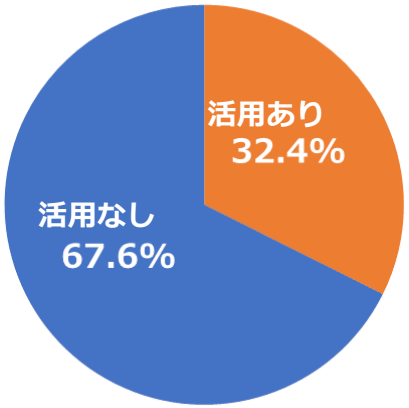


【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】※ 全入学者数は延べ29,296人（うち、111人分は入試方法が無回答）

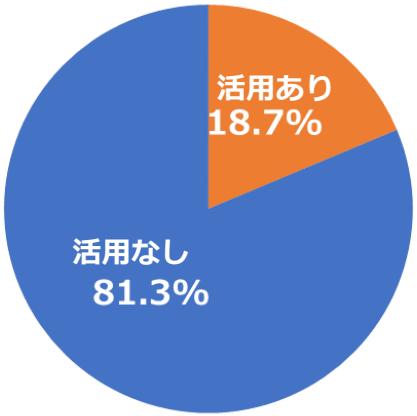
①一般入試 (n=21,022人)



②AO入試 (n=843人)



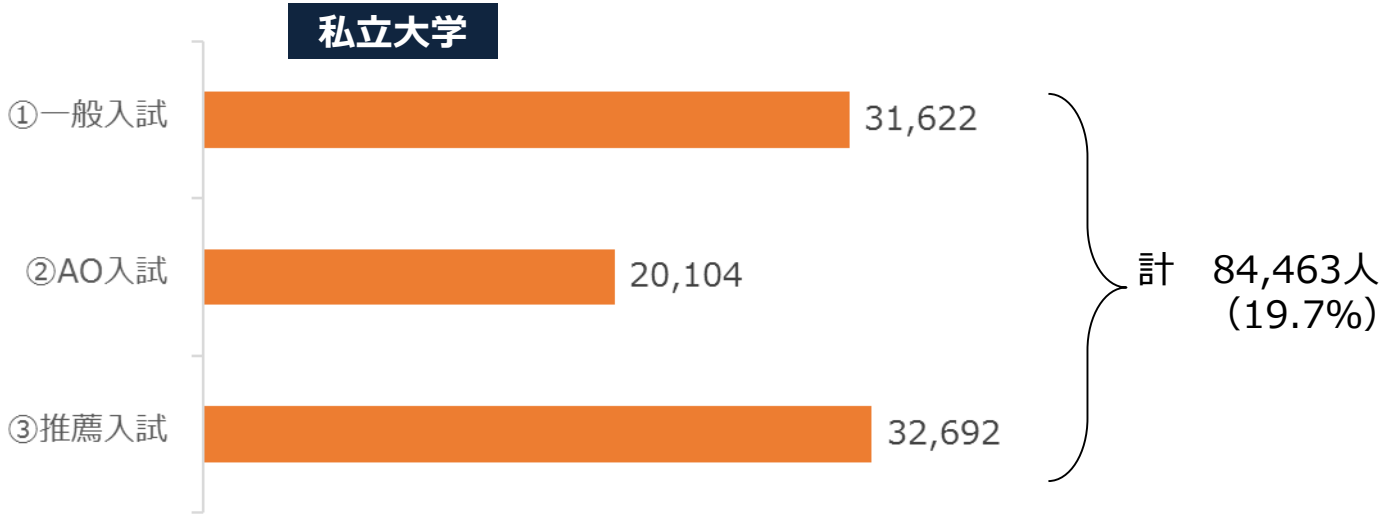
③推薦入試 (n=7,320人)



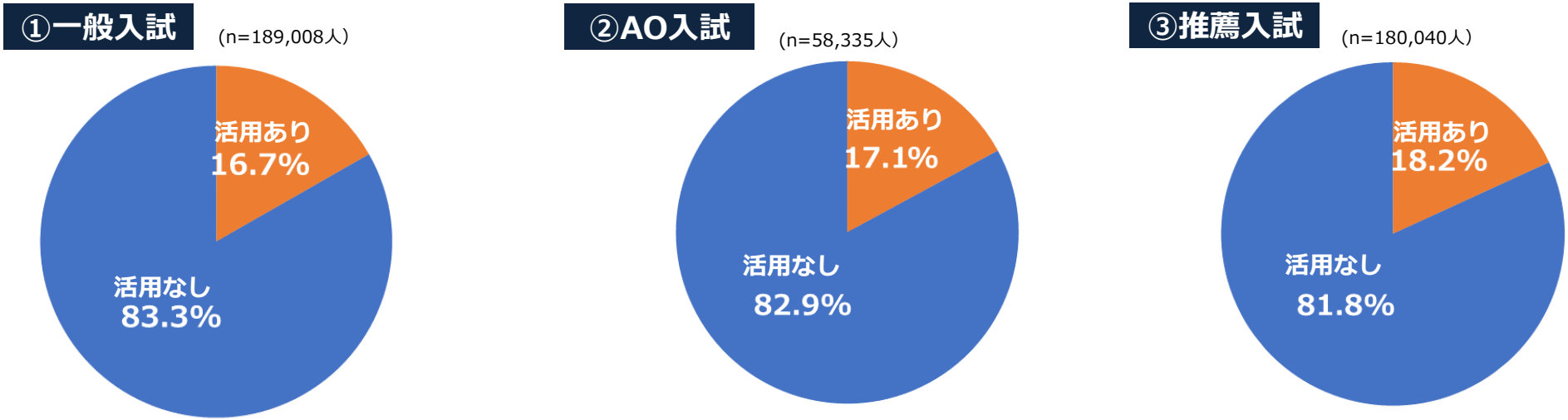
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数④（私立大学）

私立大学における令和２年度入試において、英語の資格・検定試験の「活用あり」の選抜区分により入学した者（延べ人数）は、一般入試が31,622人、AO入試が20,104人、推薦入試が32,692人の計84,463人である。



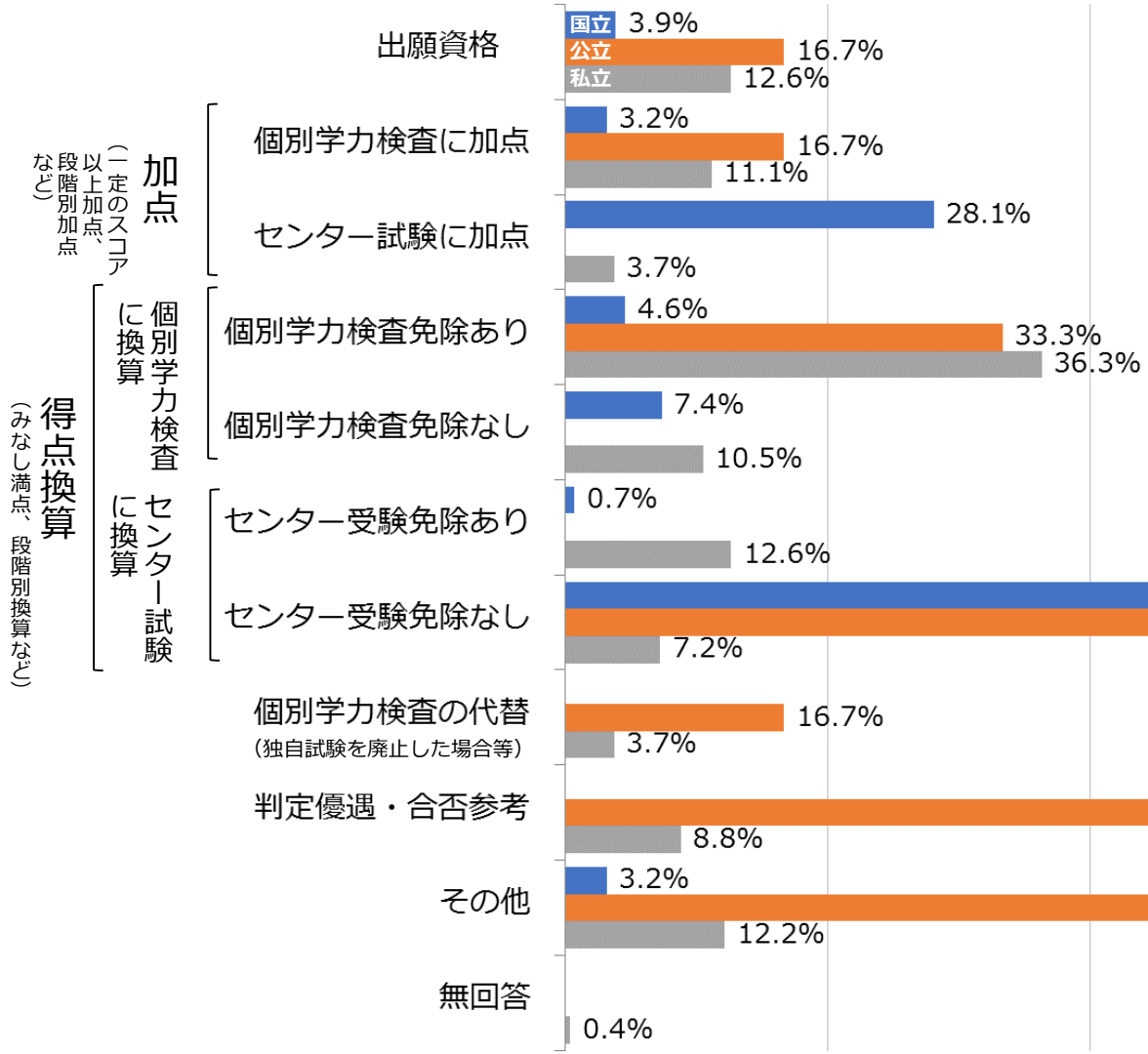
【入試方法毎の全入学者数に占める「英語資格・検定試験活用の選抜区分による入学者数」の割合】※ 全入学者数は延べ428,192人（うち、809人分は入試方法が無回答）



【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用方法①（一般入試）

一般入試における活用方法としては、国立大学ではセンター試験に換算（免除なし）が80.0%、公立大学ではセンター試験に換算（免除なし）が50.0%、私立大学では個別学力検査に換算（免除あり）が36.3%が最も多い。



○出願資格：出願する上での必須要件としている。
○加点：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「加点」している。
○得点換算：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「換算」（置き換え）している。
○個別学力検査の代替：
大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
○判定優遇・合否参考：
英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

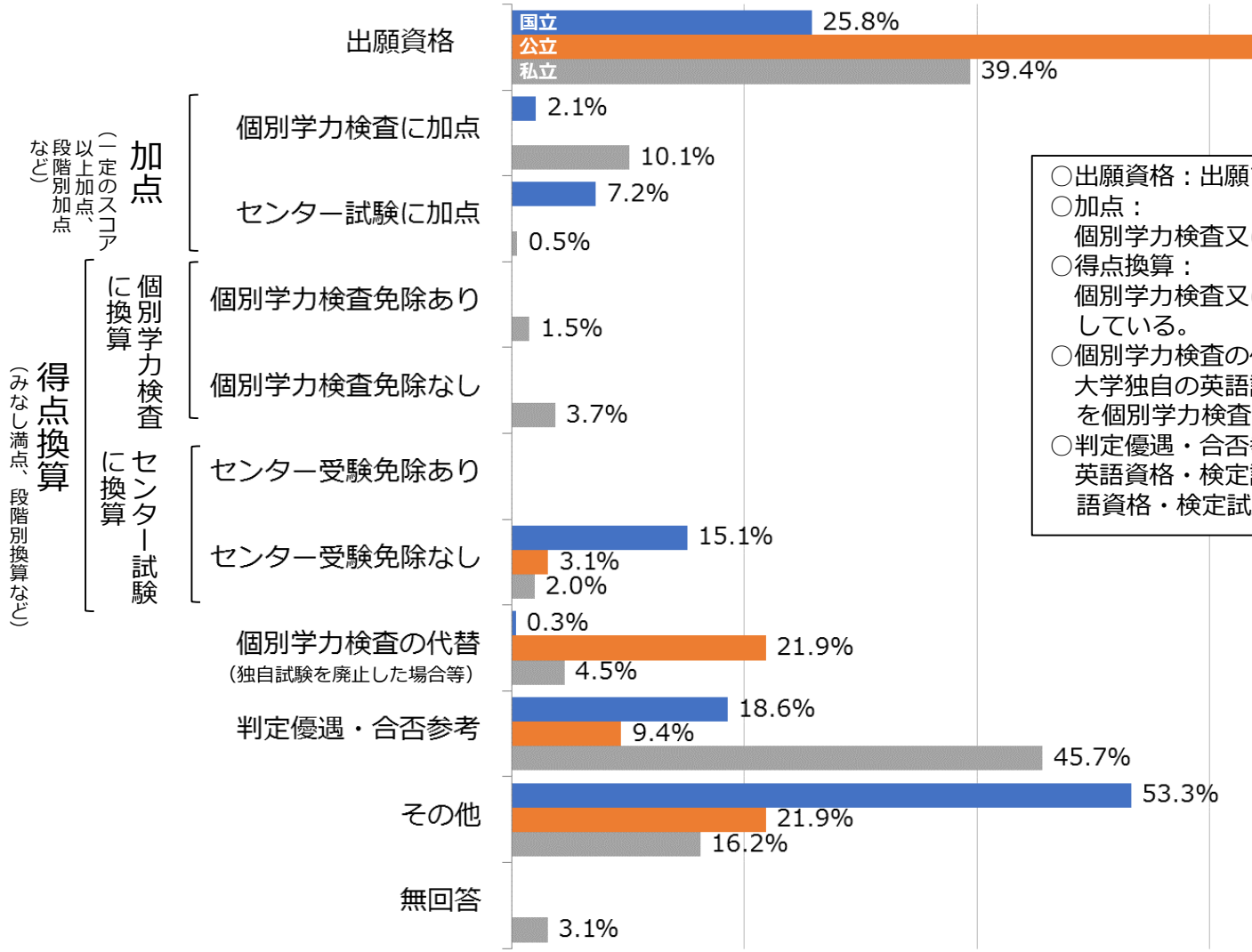
【その他の内容の例】
○二段階選抜のうち、第一段階選抜(書類選考)の得点として利用
○特待生の判定に活用

国立大学 n=285選抜区分・複数回答
公立大学 n=6選抜区分・複数回答
推薦入試 n=3,578選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用方法②（AO入試）

AO入試における活用方法としては、国立大学では出願資格が25.8%、公立大学では出願資格が90.6%、私立大学では判定優遇・合否参考が45.7%が最も多い。



○出願資格：出願する上での必須要件としている。
○加点：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「加点」している。
○得点換算：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「換算」（置き換え）している。
○個別学力検査の代替：
大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
○判定優遇・合否参考：
英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

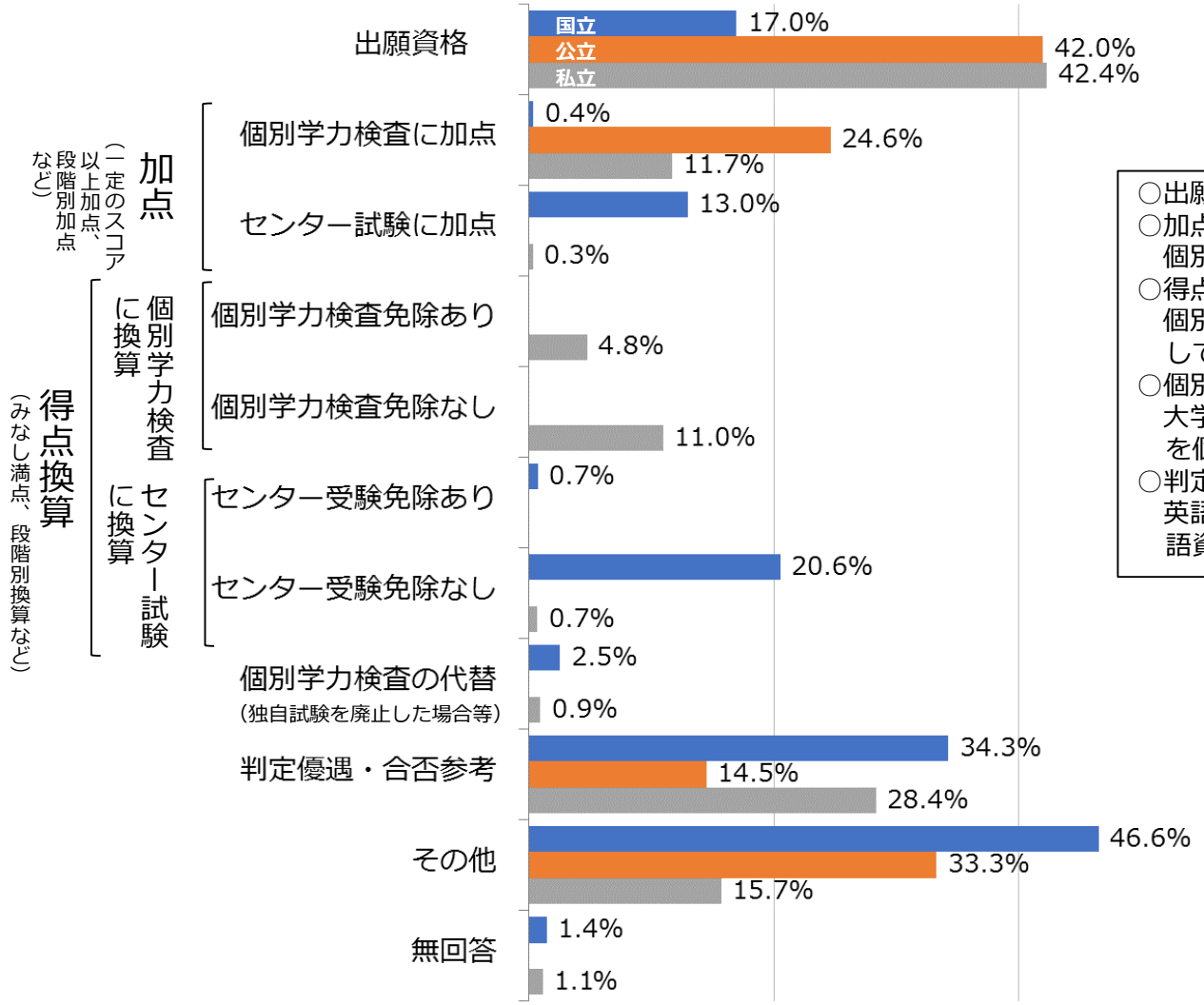
【その他の内容の例】
○二段階選抜のうち、第一段階選抜(書類選考)の得点として利用
○特待生の判定に活用

国立大学 n=291選抜区分・複数回答
公立大学 n=32選抜区分・複数回答
推薦入試 n=1,743選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験活用方法③（推薦入試）

推薦入試における活用方法としては、国立大学では判定優遇・合否参考が34.3%、公立大学では出願資格が42.0%、私立大学では出願資格が42.4%が最も多い。



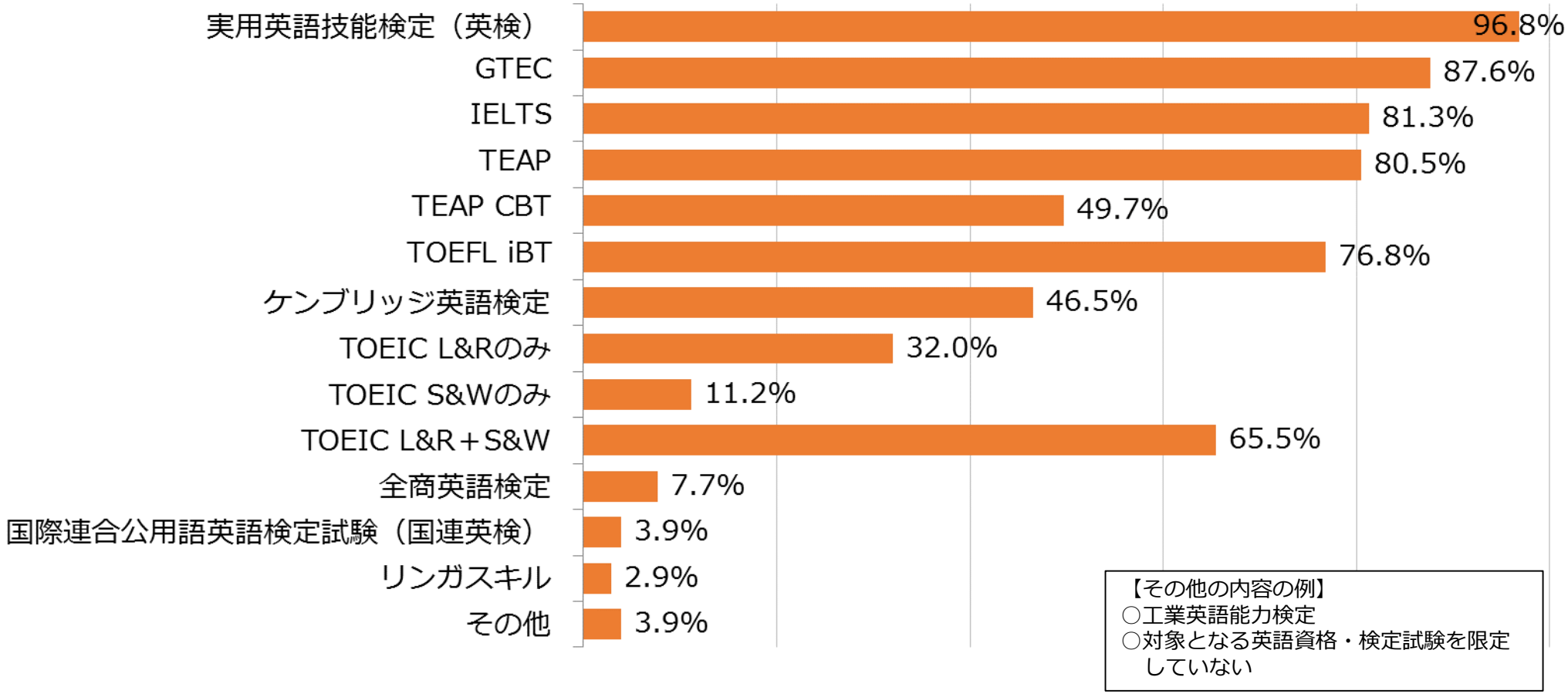
○出願資格：出願する上での必須要件としている。
○加点：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「加点」している。
○得点換算：
個別学力検査又はセンター試験の点数に「換算」（置き換え）している。
○個別学力検査の代替：
大学独自の英語試験を設けず、英語資格・検定試験の成績のみを個別学力検査の成績として用いている。
○判定優遇・合否参考：
英語資格・検定試験の成績によって合否判定を優遇したり、英語資格・検定試験の成績を合否判定の参考にしたりしている。

【その他の内容の例】
○二段階選抜のうち、第一段階選抜(書類選考)の得点として利用
○特待生の判定に活用

国立大学 n=277選抜区分・複数回答
公立大学 n=69選抜区分・複数回答
推薦入試 n=2,897選抜区分・複数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

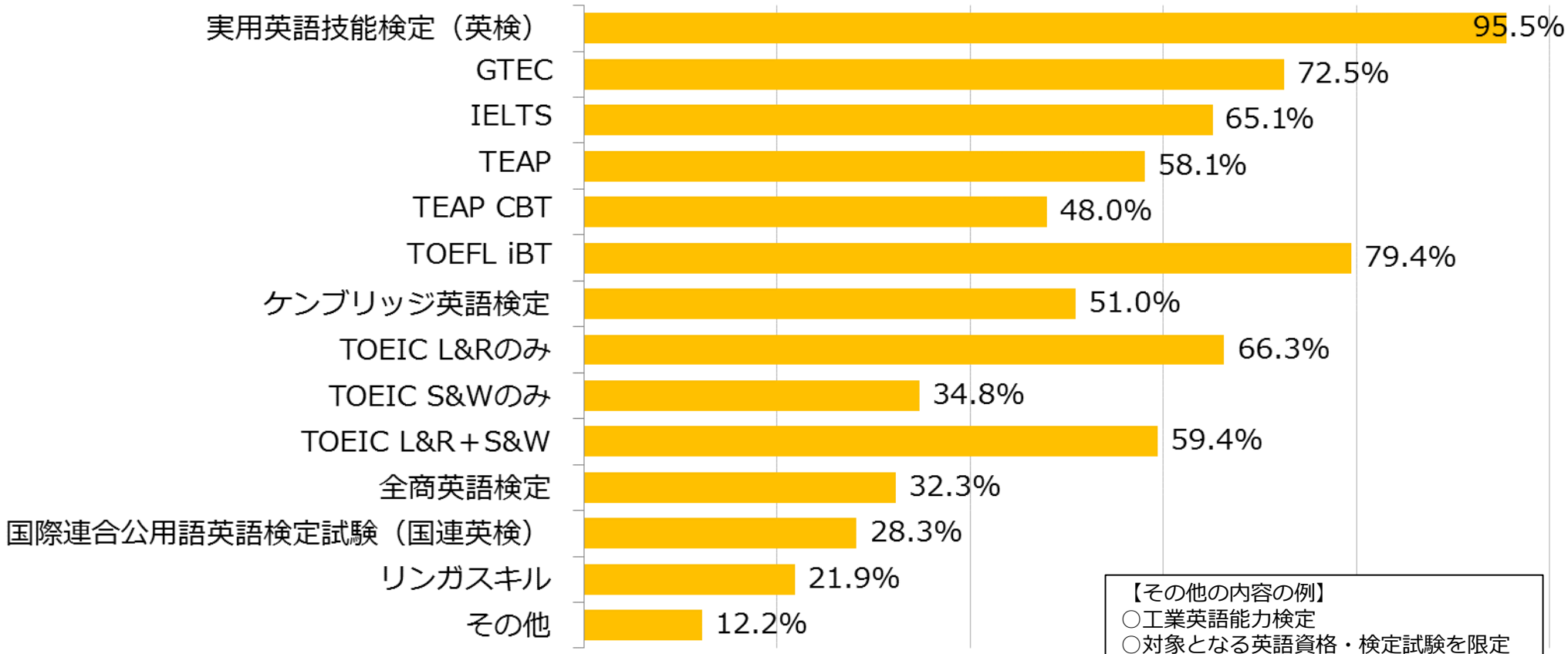
利用可能な英語資格・検定試験①（一般入試）



n=3,869選抜区分・複数回答
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

利用可能な英語資格・検定試験②（AO入試）



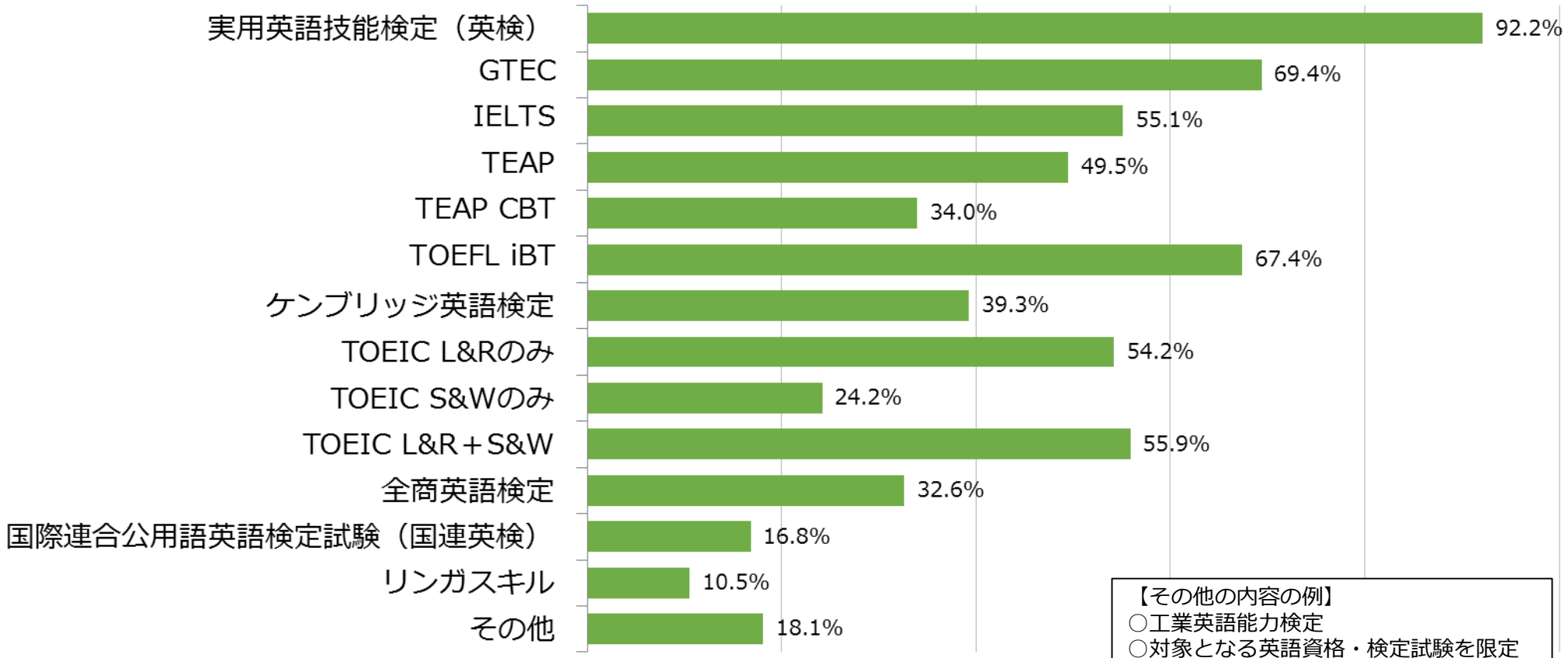
【その他の内容の例】
○工業英語能力検定
○対象となる英語資格・検定試験を限定していない

n=2,066選抜区分・複数回答

※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

利用可能な英語資格・検定試験③（推薦入試）

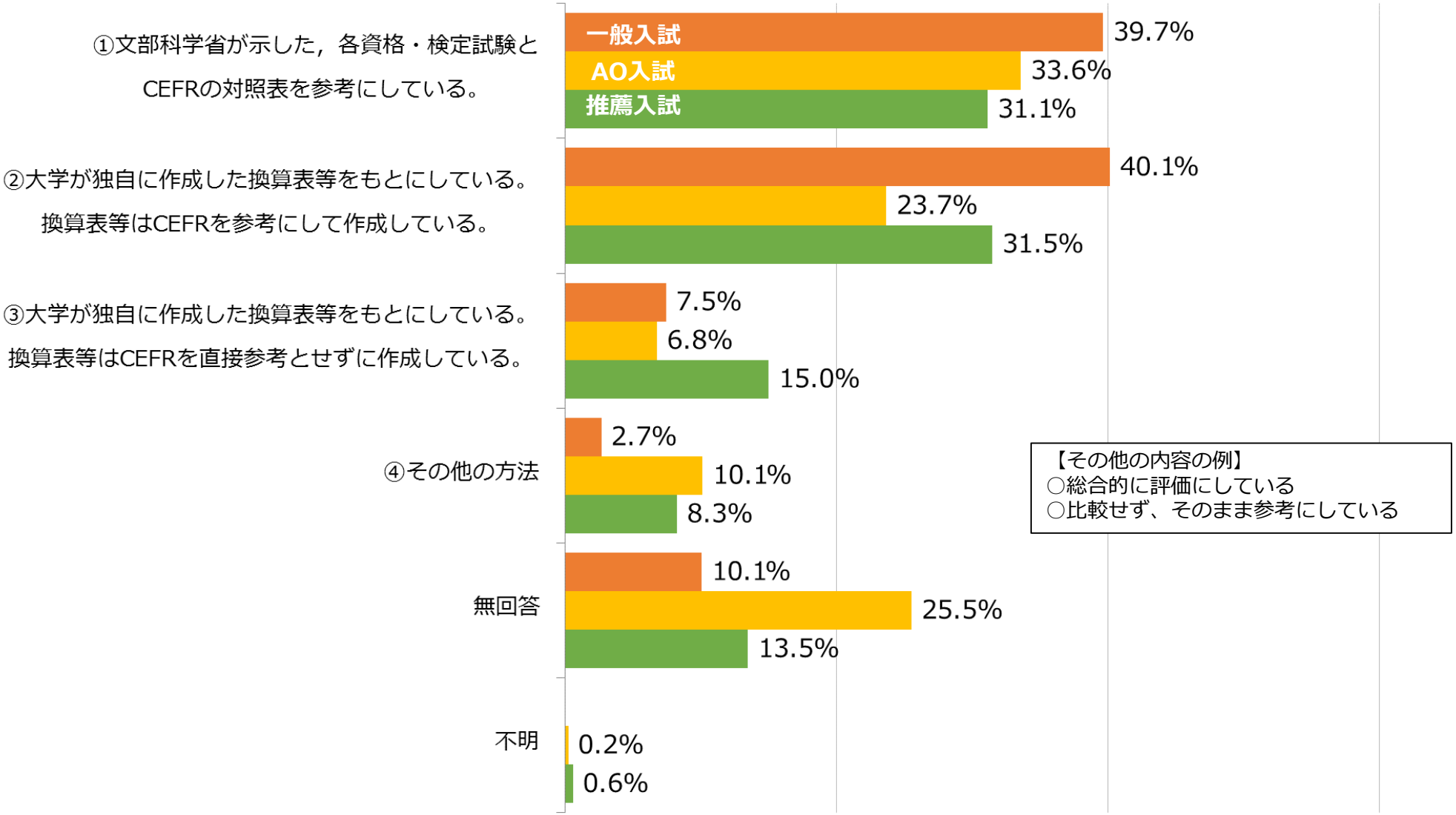


【その他の内容の例】
○工業英語能力検定
○対象となる英語資格・検定試験を限定していない

n=3,243選抜区分・複数回答
※国公私立計

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

複数の英語資格・検定試験が利用可能な場合にスコアを比較する方法

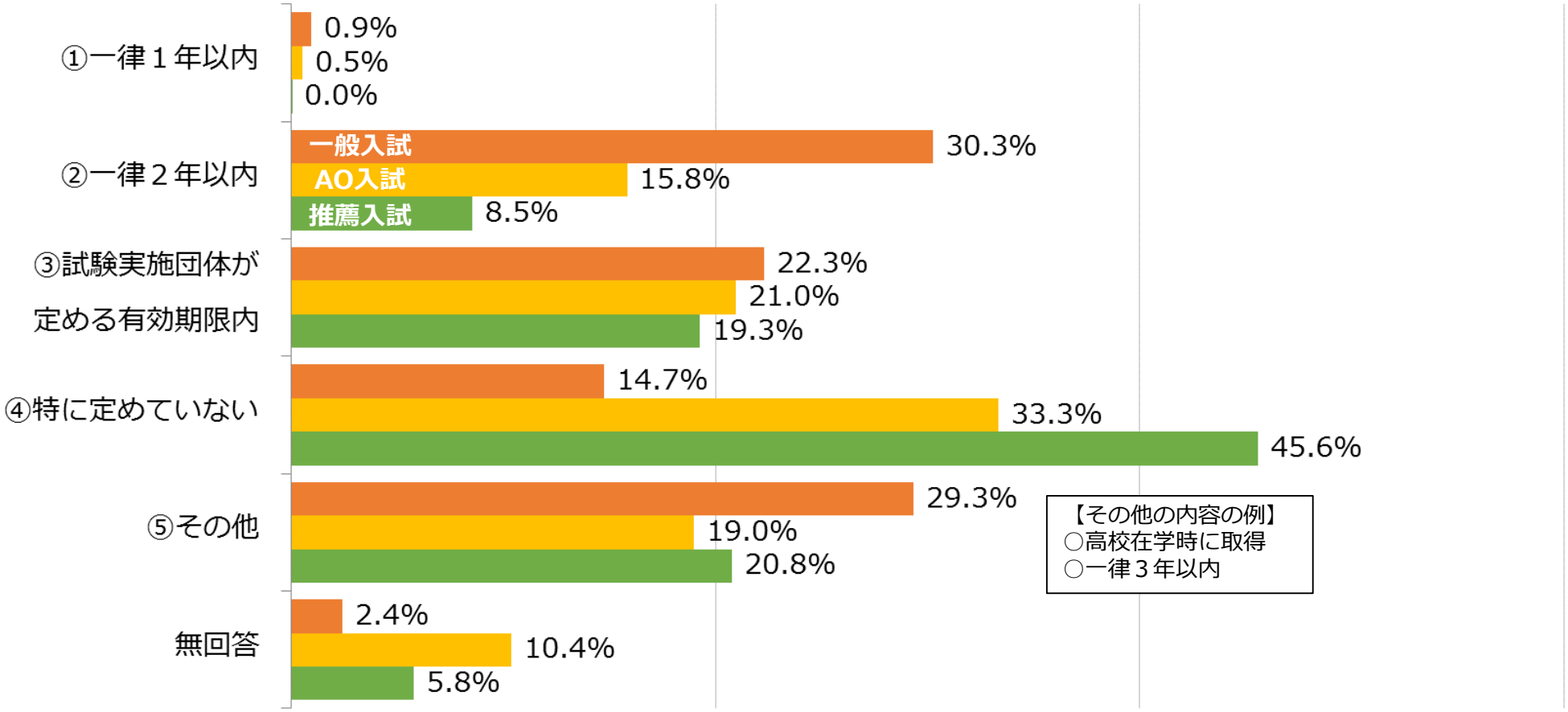


一般入試 n=3,349選抜区分・単数回答
AO入試　n=1,617選抜区分・単数回答
推薦入試 n=2,490選抜区分・単数回答
※精査が必要な選抜区分について集計から除いている。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験の有効期限

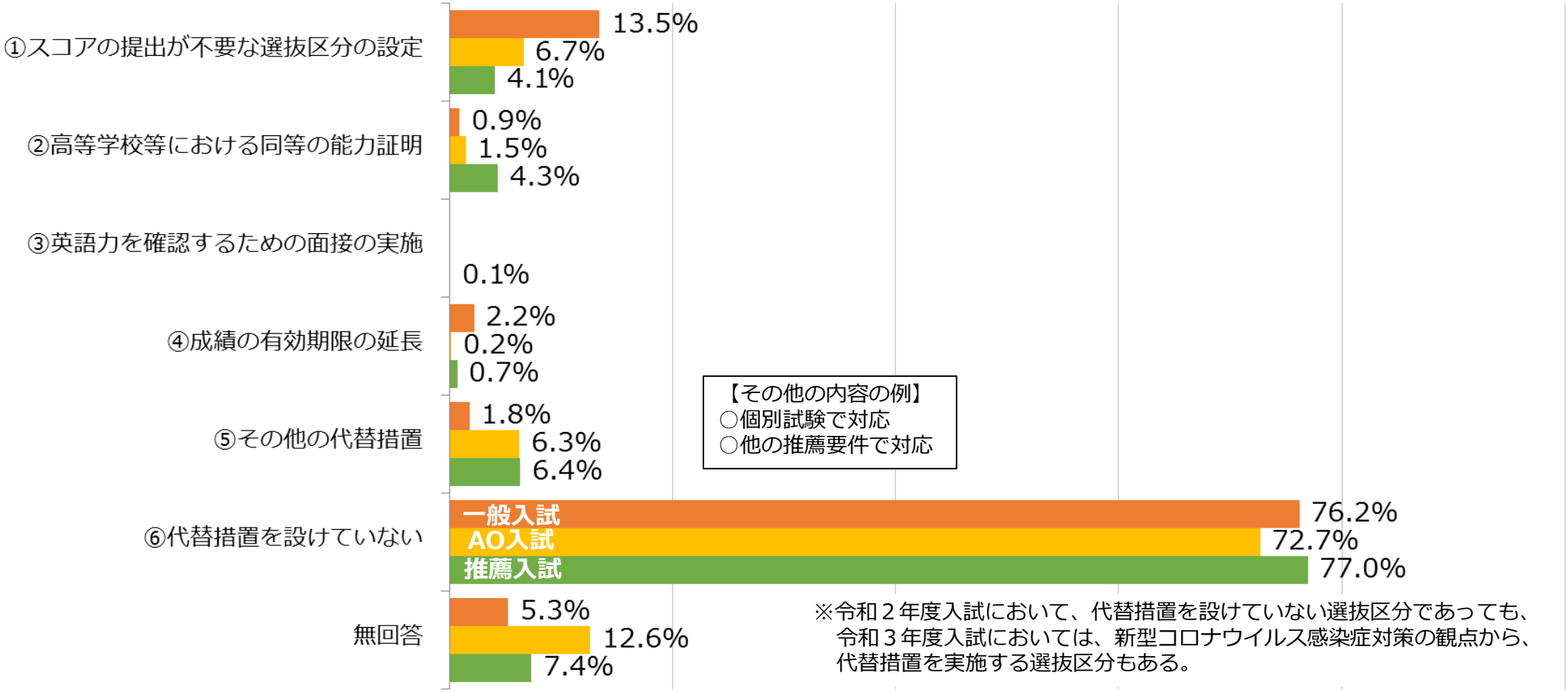
英語資格・検定試験の有効期限は、一般入試では「一律２年以内」が30.3%、AO入試では「特に定めていない」が33.3%、推薦入試でも「特に定めていない」が45.6%で最も多い。



一般入試 n=3,869選抜区分・単数回答
AO入試　n=2,066選抜区分・単数回答
推薦入試 n=3,243選抜区分・単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」

英語資格・検定試験のスコアが提出できない場合の代替措置



※令和２年度入試において、代替措置を設けていない選抜区分であっても、令和３年度入試においては、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、代替措置を実施する選抜区分もある。

一般入試 n=3,869選抜区分・単数回答
AO入試　n=2,066選抜区分・単数回答
推薦入試 n=3,243選抜区分・単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語４技能評価及び記述式問題の実態調査（令和２年度）」